

平成22年度  
(2010年度)

# 博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

# はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる、地域の中軸施設であることも求められています。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してきました。

博物館の教育普及活動は、首里の博物館時代から取り組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことを基本にして推進してまいりました。学校連携事業では、学校団体受入の充実を図るため、ボランティア員を活用した学校団体支援体制の強化を推進し、サービスの向上を図ってきました。また、文化講座及び展示会関連講座は「港川人を訪ねて」を皮切りに総数15回を実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「昆虫標本づくり」をはじめとする3種の体験学習教室の開催や13回の学芸員講座、12回の常設展展示解説会、14回のバックヤードツアーと開催してまいりました。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様から、博物館をとおして、沖縄の自然や歴史及び伝統文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。そして、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館活動をめざしていきたいと考えております。

本年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成23年3月

沖縄県立博物館・美術館  
館長 牧野浩隆

# 博物館教育普及活動

## 目次

はじめに		バックヤードツアー	93
		1 バックヤードツアー実施要項	
		2 実施状況	
博物館活動について	1	夏休み子ども相談週間	96
1 はじめに		1 夏休み子ども相談週間実施要項	
2 博物館活動(四つの車輪)		2 実施状況	
調査活動 展示活動 教育普及活動			
保存管理			
3 博物館の機能		ふれあい体験室	97
4 博物館の施設		1 ふれあい体験室の概要	
5 博物館教育普及活動の概要		2 体験キットの種類	
		3 スタッフの配置状況	
学校連携	8	4 利用者状況	
1 学校団体受入		5 その他	
学校団体観覧 利用の手続き			
実践例 - 学習プログラム実施校			
体験学習教室	38	ボランティア養成事業	102
1 博物館体験学習実施要項		1 沖縄県立博物館・美術館	
2 体験学習教室 活動資料・活動の状況		- 博物館ボランティア活動実施要項 -	
「昆虫標本をつくろう」		2 博物館ボランティア活動養成事業実施要項	
「八角凧をつくろう」		3 博物館ボランティア専門講座実施計画	
「ムーチーをつくろう」		4 博物館ボランティアのてびき	
		5 ボランティア活動の細則	
博物館文化講座	69	6 博物館継続ボランティア登録証交付式	
1 博物館文化講座実施要項		7 博物館新規ボランティア登録証交付式	
2 実施状況		8 ボランティア通信	
博物館学芸員講座	80	その他	120
1 学芸員講座実施要項		1 移動展	
2 実施状況		2 フリーパス	
		3 職場体験・ジョブシャドーイング	
展示解説会	91	4 ボランティアによる展示ガイドマニュアル作成	
1 展示解説会実施要項		5 教育普及資料貸出	
2 実施状況		6 沖縄県立博物館・美術館	
		教育力向上支援事業	

# I 博物館活動について

## 1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化（王朝文化）を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

## 2 博物館活動（四つの車輪）

### ◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

### ◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

### ◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連絡協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」と連携したボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「体験学習教室」等を実施、新たに遊びながら学べる「ふれあい体験室」を加えました。

### ◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

### 3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどにいろいろな媒体を通して、県民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

#### ◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

#### ◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・文化・歴史に関する展示会が開催されます。

#### ◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習を行う講座室等があります。

#### ◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心に行われます。6分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

#### ◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

### 4 博物館の施設

#### (1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる - 豊かさ、美しさ、平和を求めて - 」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

#### 自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、岩に触れたり、顕微鏡で化石や昆虫、植物標本などを見ることができます。

#### 考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

#### 美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

#### 歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

#### 民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統とくらし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

### (2) 屋外展示

#### 高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫

がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

#### 民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。

#### 湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

### （3） ふれあい体験室

博物館の展示の手前にある「ふれあい体験室」には、沖縄の「自然の仕組み」と「先人の知恵」を知るための27種類のキットを準備しており、これらは、展示と関連させ、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで、沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

（詳細については P97ふれあい体験室を参照）



### （4） 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料を検索したり、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。



### （5） 講堂・講座室等

#### 講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212席（車いす2人含む）を収容することができます。

#### 講座室

100名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生150名程度の集会が可能です。

#### 実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40名程度の収容が可能です。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数1台)

(7) 駐車場

一般車両140台(身障者用4台含)、バス10台が駐車可能です。

特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。

また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

(8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが204本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の2ヶ国語表示としています。

(10) 環境への配慮

太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10kw程度の太陽光発電装置を設置しています。

雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

総合的有害虫管理(IPM)施設 IPM(Integrated Pest Management)

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理(IPM)を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用するには、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

## 5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取り組みました。

### (1) 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施しました。一つは、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館から提供できる内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

また、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に博物館より有効に活用していただくための『学校団体見学マニュアル』(A3二つ折り)を作成、配布した。

二つめに、今年度は事前の調査研究を目的として、特別支援学校向けの出前授業を実施しました。検証授業実施の協力依頼を受け入れて下さった学校へ担当者が出向き、博物館資料(「ふれあい体験室」の資料を中心としたハンズオン資料)を用いて、教師と重点雇用者双方の協力による博学連携の授業を展開しました。平成23年度の実施に向けて各種データを収集することが出来ました。

### (2) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

### (3) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

### (4) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を担いました。

### (5) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点から分かり易く解説しまし

た。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館の資料のつながりを知る機会としました。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査研究・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

(7) 夏休み子ども相談週間

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について相談を受け、可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習の発表の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入しています。初夏から秋にかけての2段階の講座は、多様化する来館者のニーズに対する、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となりました。

(9) その他

フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れてあります。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示し、スタンプを押してもらうことが可能です。30ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

移動展

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を觀賞する機会を提供しました。本年度は、石垣島で開催しました。

教育普及資料貸出

今年度は、博物館の教育普及資料の「豆腐づくり」に関する資料（石臼や桶、型枠などを2セット）を貸出しました。

## II 学校連携

### 平成 23 年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受入要項

#### 1 ねらい

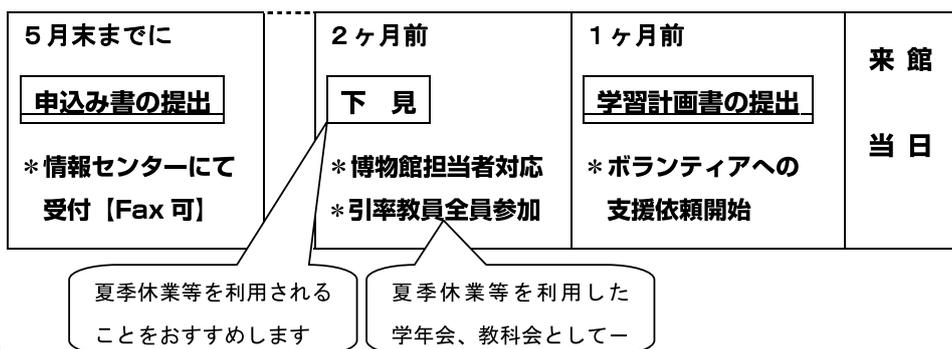
- ・博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ・博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- ・博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

#### 2 対象・受入内容等

	対 象	学習領域	受 入 内 容 *具体的内容については、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	県内小・中・高等学校 特別支援諸学校 (各学年)	各教科の学習や総合的な学習の時間など	・展示資料を、郷土について知るための教材として活用し、博物館を沖縄を知るための教室として利用してもらう。	A 自由見学 下見打合せ・無 B ボランティアサポート 下見打合せ・有 C 夏休み課題学習 下見打合せ・有
2	県内小学校 (3・4年)	社会科「昔の道具を体験しよう」など	・民具体験学習(博物館収蔵の民具を活用した体験学習をおこなう)	ボランティアサポート 下見打合せ・有
3	県内の教職員(全校種)	校内研修など	・博物館利用解説 や バックヤード ツアー等	下見打合せ・有

#### 3 方 法

- ① 申込みは、別紙所定の用紙(申込書)にて、沖縄県立博物館・美術館に申込む。\*情報センターで受付
- ② 利用団体の利用計画申込み(申込書の提出)は、**5月末までの申請**とする。  
\*希望日が集中した場合は、情報センターにおいて受入の日程を調整する。
- ③ 2ヶ月前までには、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 \*博物館担当学芸員が対応
- ④ 1カ月前までには、学習計画書を提出する。 \*自由見学の場合、下見実施と学習計画書提出は必要ありません



#### 4 その他

- ① **団体受付**(沖縄県立博物館・美術館内) **〈情報センター〉** Tel 098-941-1187  
Fax 098-941-3530
- ② 情報センターに「団体受付申込書」を提出後、博物館の担当職員との日程調整が必要です。
- ③ 下見(2カ月前)実施時間帯 = 9:00~17:00 まで

問合せ先 〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館  
 [博物館班] 教育普及担当 池原・宮平(妃)  
 Tel 098-851-5401 Fax 098-941-3650

沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書

学校用

20 年 月 日

太枠内はもれなくご記入ください。該当箇所に☑を入れてください。

ふりがな 団体名	①				
ふりがな 所在地	②				
連絡先	③Tel			④Fax	
引率者(代表者) 職・氏名	⑤	内訳	⑥ 小・中・高	年生	人
				年生	人
観覧したい展示 (複数選択可)	博物館	⑦	内訳	年生	人
				引率者	人
	美術館	⑧	内訳	( )	人
				( )	人
			合計	人	
観覧日時 第一希望	⑨ 20 年 月 日 ( 曜日 )		:	~	:
観覧日時 第二希望	⑩ 20 年 月 日 ( 曜日 )		:	~	:
オリエンテーションの有無 (見学前に館の概要や諸注意 を映像で紹介します 約15分)	⑫ <input type="checkbox"/> オリエンテーションを希望する <input type="checkbox"/> 希望しない				
教育プログラムの有無 (詳細は下記を参照下さい)	⑬ <input type="checkbox"/> 希望しない(自由見学) <input type="checkbox"/> 民具体験 (県内小学3・4年生が対象) <input type="checkbox"/> ボランティアによる見学サポート (県内小中学生が対象)				
来館内容	⑭	<input type="checkbox"/> 授業( )科	学級・学年単位 ( 学年 ) ( 学級 )	まとめて来館 ( : )	
		<input type="checkbox"/> 総合的な学習		分散して来館 ( : ~ : )	
		<input type="checkbox"/> 修学旅行		ご利用の車種	
		<input type="checkbox"/> その他		大型バス ( 台 ) マイクロバス ( 台 ) 乗用車 ( 台 )	
備考(博物館・美術館への希望や、来館時の課題、学校での事前指導等について)					

※館内では カフェスペースを除いて飲食できません。

※下見見学をされる際は、書式ダウンロード004「観覧料免除申請書(PDFファイル)」を下見当日にご持参下さい。  
博物館常設展・美術館常設展の観覧料を免除します。

【教育プログラムについて】

- ①教育プログラムを希望される際は、見学の1ヶ月以前の予約が必要です。(日時が他校と重なる場合は、先着順となります)
- ②見学日2週間前の下見が必要です。(下見は、毎週金曜に実施しています)
- ③受け入れ可能な日時は平日9:30~(但し、水・金曜の午後、11月の混雑期は水の午後・金曜終日は不可)
- ④館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。
- ⑤内容につきましては、当館HP学習支援のページをご覧ください。http://www.museums.pref.okinawa.jp/museum/learning/index.html

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

Tel 098-941-1187 Fax 098-941-3530 (担当:情報センター)

受付者:( ) 内容の確認: 月 日( )

沖縄県立博物館・美術館利用にあたって  
～先生方へのお願いと確認～

県立博物館教育普及

○ 観覧マナーについて （情報センターより FAX された用紙をご確認ください）

- 1 「**団体見学の皆様へ**」を、先生方で確認して下さい。
- 2 「**博物館での見学マナー**」を  
児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。
  - ①走らない
  - ②大きな声を出さない
  - ③飲食物の禁止（IPM）
  - ④鉛筆使用を
  - ⑤展示台にもたれない
  - ⑥触らない
  - ⑦写真の制限とは

● 博物館を利用して学ぶ

1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室には、郷土について知るための自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることも可能です。

2 学校が利用する場合

- 学校職員と博物館職員の下見と調整により、双方が連携して教育プログラムを作成することができます。
- 学習内容によっては、体験を取り入れるなど、支援方法を工夫します。
- 博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

(1) 学習計画を立てる

- ・ 博物館利用の全体計画を立てます。学校の教育課程や行事等を考慮して、博物館をどの段階に利用することが有効かを考えます。

**\* 授業の導入で活用する。 展開で活用する。 まとめで活用する。\***

(2) 日程の調整

- ・ 施設の予約・日程調整等は情報センターで行います。
- ・ 施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ・ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（文化の杜共同企業体）が館の管理運営を行います。  
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

— 指定管理者 —

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業や NPO 法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第 244 条の 2）  
博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

### (3) 博物館下見、打合せ

- ・下見では、学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。  
(トイレ、集合場所、常設展示室、実習室、講座室、講堂、屋外展示等)
- ・来館日、来館時間、生徒数、当日の日程、引率者、父母協力者、学習形態等の確認
- ・**学習のねらい(めあて)の確認**
- ・**学習の展開方法**(体験・見学方法・ガイダンス・ボランティア・機器の利用など)
- ・筆記用具と、筆記の際の支え(探検バッグ・ファイル)となるものの確認
- ・博物館への飲食物持込みは禁止されています。**〈IPMの考え方により〉**

＊博物館では、IPMの考え方から環境にやさしい施設を目指しております。飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなどの配慮をお願いします。

—IPM (Integrated Management)—

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減減させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムであります。

### (4) 実施計画を立てる

- ・博物館からの情報提供をもとに、**学校主体で計画案を作成します。**
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・**博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。**
- ・保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
- ・ボランティアは、学習プログラム決定後、ボランティア員に連絡を入れます。  
(急な変更には対応できません)

＊ボランティア

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は

**①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア** があります。

### (5) 博物館において学習活動を展開する

- ・来館当日のミーティング(オリエンテーション中)で、時間の変更の有無、スタッフの状況、内容変更の有無等の確認。
- ・**児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して支援します。**
- ・**館・学校のそれぞれのスタッフに声かけをしながら学習を展開。**  
**体験では、実物に触れる子どもたちの感動の場を提供。**

## (6) 博物館における学習活動を次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、分かったこと疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。

発 展 ★生徒用フリーパスの活用を呼び掛けて下さい

## 3 学習プログラムを組み立てる

学習プログラムとは、学校が団体に博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画です。

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間を活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。

## 4 学習プログラムの内容(学習の流れ)

### (1) オリエンテーション

- ・入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。
- ・博物館紹介(映像)一運営担当の職員(指定管理者)が行います。
  - \* マナーを含めた映像を準備しています。『みゆ一爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。
  - 6分間の縮小版を主に使用しています。
- ・本時の「ねらい」の確認
  - \* 事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。
  - 博物館での活動を、児童・生徒といっしょに声に出して読み合わせて確認をします。
- ・ボランティア紹介(当日の対応は指定管理者が行います)
  - \* 当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。
  - \* 展示室や実習室での紹介の場合(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)もあります。

### (2) 博物館ボランティアによる支援

- ★自由見学なのか?! ガイド(専門の学芸員は対応しません)を必要とする(要請する)のか?!
- ★・誘導ボランティア、・展示ガイドボランティア、・体験サポートボランティアの活用は?!
- ☆引率の先生が校外で行う授業です。 \*先生が、見学者やカメラマンにならないように!

#### \*誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

#### \*展示ガイドボランティア

展示室において、資料の解説をボランティアが行っており、学校側から依頼することができます。全ての要望には応じられないことをご理解下さい。

また、ワークシートを学校独自に準備する際は、ボランティア側も事前に把握しておく必要があります。必ず事前にご連絡下さい。

#### \*体験サポートボランティア

博物館学習では、民具体験を行っています。特に4年生の社会科に対応した内容を推進しています。体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います。(教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします。)

### (3) 観覧体験のサイクル

・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると体験学習には、20～30分の時間で体験を行うクラスと、観覧を先に進めるクラスを設定しています。グループ構成の仕方は、学校側で作成していただきます。

### (4) まとめ

・一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のロビーや入口近くのピロティでまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

## 5 ワークシートについて

### (1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう!

\*本時のねらいは? ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか?

\*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます

### (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。

(3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気にいったものが記入できるようにして下さい。

(4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中するため、博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話を聞くことが大切です。1問につき回答時間はおよそ15～30分前後かかります。 \*当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。

○〈見学サポート対応〉を実施した学校団体

\* 自由見学の団体は掲載していません



○大山小学校 6年社会科団体見学 2010. 4. 28. 〈教科書冒頭の単元学習で来館 沖縄の歴史の始まりについて、ボランティア解説ガイドを実施〉



○泡瀬特別支援学校団体見学 2010. 5. 12. 〈琉球王国の繁栄について、ボランティアの解説ガイドを実施〉



○鏡ヶ丘特別支援学校団体見学 2010. 6. 16. 〈展示室自由見学の後、ふれあい体験室での体験学習を実施〉



○国立沖縄工業高等専門学校専攻科 1年施設見学 2010. 6. 18. 〈自然史学芸員からの解説→バックヤードツアー→おもしろさうしの課題学習を実施〉



○阿嘉小学校 5・6年生団体見学 2010. 6. 16. 〈ケラマジカ・琉球王国の繁栄について、ボランティアの解説ガイドを実施〉



○伊計小中学校職員 校内研修 2010. 8. 6. 〈パッケージドツアーの後、「博物館を利用した授業のあり方」の講座を実施〉



○県立総合教育センター（幼稚園, 養護教諭, 特別支援諸学校, 栄養教諭）初任者研修 2010. 8. 7. 「博物館を利用した授業のあり方」講座と自由見学



○馬天小学校 5年社会科団体見学 2010. 9. 17 〈沖縄の自然史と進貢船について、ボランティアの解説ガイドを実施〉



○銘苅小学校 3年生総合的な学習の時間 パッケージド見学 2011. 2. 16. 〈博物館の裏側についての学習〉



○那覇特別支援学校 2年生 企画展会場見学 2011. 3. 2. 〈美術工芸担当学芸員から、企画展展示室での解説を受ける〉

◎ 来館される学校への直前の確認です。

## ❁ マナー指導、授業のめあては確認できていますか？❁

### 【持ち物】

体験バック、筆記用具(えんぴつ)、水筒 (それ以外の物はバスに置いてきてください)

### 【名札の準備】

ボランティアの方が声をかけられるように名札を準備してください。(ガムテープ可)

### 【班編成】

〈自然史部門展示室解説〉等の各部門展示室、〈総合展示室〉では、クラスを2つに分けて下さい。  
※展示室でのスペースの関係上、1クラス全員をまとめるの解説ができません。

### 【支援の必要な子は？】

特別に支援や配慮の必要な子はいますか？ 朝のミーティング時に情報の共有ができれば幸いです。

### 入館して先生が行うこと！！

- ・ チケットを「チケットうりば」にて受取ってください
- ・ フリーパスは、来館前に集めておき、「総合案内」に預けて、帰る時に受取ってください。
- ・ 荷物（水筒）を**実習室に置き、講座室**に生徒を誘導して下さい。

※入館が遅れて時間が無い時は、トイレを済ませてから講座室へ

※入館が予定通りで時間の余裕がある場合は、講座室入室後にトイレへ

博物館教育普及より

○小学校3・4年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうどしりょう館をたずねて」

- ・ 地域に残る古い道具について～ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる
- ・ 昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化)～ 考える、調べる

\* 児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる  
～引率の先生が(博物館で)行う授業です！

★博物館が提供できるメニュー

**A:映像の視聴**＝「琉球の風物」(日本民藝館制作。昭和14年頃の那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

\*72年前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

\*先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行いません。

\*博物館利用のガイダンスと合わせて 20分で可能

**B:民具解説**(民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

**C:民具体験**

30分で3種、45分で5種の体験が可能。Aで活動。選択した数と同じグループでロテーションで体験する

1) 運搬に関する道具＝ バーキ↓

(魚や作物の  
運搬等で使用)



ガンシナ↓



ティール↓



2) 運搬に関する道具＝ オーダー↓

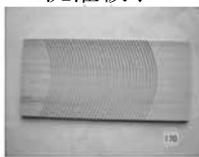
(薪の運搬等で使用)



担ぎ棒→

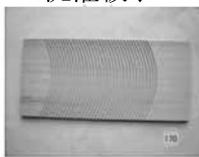
3) 運搬に関する道具＝ ターグ →

(井戸水の運搬で使用)



4) 洗濯に関する道具＝ 洗濯タライ↓

洗濯板↓



5) 着衣に関する道具＝ アダン葉サバ↓

(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓



**D:「①黒砂糖づくり」と「②貢納布づくり」のミニチュア模型を使い、昔の民具の使われ方を解説します**

\* 一か所7分×2か所＋移動＝15分

**E:民俗展示室での展示品解説 ①畑の道具 ②田んぼの道具 ③海の道具 ④台所周辺道具 →2か所選択**

\* 一か所7分×2か所＋移動＝15分



## 民具体験学習のポイント〈子どもからの視点〉



### A 映像解説

昔の沖縄の風景を観る ・ 昔の人を観る

…映像を流しっぱなしにするのではなく、見せたい箇所で発問します！

### B 民具解説

民具にふれる ・ 素材を考える ・ 先人の技を考える

…体験する民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

### C 民具体験

道具(民具)にふれる 感じる ・ 使い方を考える ・ 使ってみる

…体験する民具の名前や使用方法を覚えるのが目的ではありません！

### D 展示模型解説

昔の道具を発見する ・ 観る ・ 使用方法を考える

今の生活との違いを考える

…模型が表す製作方法や歴史を知るではありません！

### E 民俗展示品解説

昔の道具を観る ・ 使用方法を考える

今の生活との違いを考える ・ 知る

…単なる民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

-----

**A・B**は指定管理者が **C・D・E**はボランティアが 担当します  
 発問によって子どもに考えさせるー子どもの興味を引き付けるようにします  
**Cの着衣体験**に、保護者の参加をお願いします

誘導ボランティアさんの 役目	1クラスに2名配置します
----------------	--------------

全体(流れ)を観る 時間を把握する  
 時間どおりに進める・時間調整をする  
 先生と連携するー相談し提案もする  
 子どもの安全を図る！

◎「民具体験学習」で来館される学校への直前の確認です。

## ❖ マナー指導、授業のめあては確認できていますでしょうか？❖

### 【持ち物】

体験バック、筆記用具(えんぴつ)、水筒 (それ以外の物はバスに置いてきてください)

### 【名札の準備】

ボランティアの方が声をかけられるように名札の準備をお願いします。(ガムテープ可)

### 【保護者への呼びかけ】

主に民具体験のサポートをお願いします。

### 【服装】

民具体験で活動するのに適した服装(スポンをはく、髪は結ぶ等)をお願いします。

### 【班編成】

- 1) 民具体験のグループは偶数人数でお願いします。(4・6・8名など)  
※グループで〈C：民具体験〉を回る順番を確認しておいてください。
- 2) 〈D：模型解説〉と〈E：展示物解説〉では、クラスを2つに分けて下さい。  
※展示室でのスペースの関係上1クラス全員をまとめたの解説ができません。

### 【支援の必要な子は？】

特別に支援や配慮の必要な子はいませんか？ 朝のミーティング時に情報の共有ができれば幸いです。

### 入館して先生が行うこと！！

- ・ 保護者の人数を減免申請書(別紙)に記入して、当日、総合案内に提出してください。
- ※ 申請書の印鑑の欄は、担任のサインでもかまいません。
- ・ 人数分のチケットを「チケットうりば」にて受取ってください
- ・ フリーパスは、来館前に集めておき、「総合案内」に預けて、帰る時に受取ってください。
- ・ 荷物(水筒)を**実習室に置き、講座室**に生徒を誘導して下さい。  
※入館が遅れて時間が無い時は、トイレを済ませてから講座室へ  
※入館が予定通りで時間の余裕がある場合は、講座室入室後にトイレへ

博物館教育普及より

民具体験学習の在り方が変わります！

**1 学校の先生に、メニューを選択してもらいます！**

→先生に、A～Eのメニューの中から選んでもらいます。

☆準備したメニューに従ってもらう定食方式から、自分で選ぶ「件ツグ」方式へ！

☆先生が博物館で授業を進めます！！先生がボランティア員を活用します！！

**2 授業のねらいをよりハッキリさせ、何のための(体験)学習なのかを**

**先生に考えてもらいます！**

・民具体験だけの授業ではありません！ →民具体験が目的にならないように!!

・学校の先生が博物館で行う授業です！ →先生がリードできるようにします!!

↓学習（授業）のねらいは

—先生に主導権をもたせませす!!—

① 地域に残る古い道具について…

② 昔の道具の使われ方（当時のくらしの様子、今と昔の生活の変化）について…

子どもが～知る、ふれる(感じる)、考える、調べるように支援するのが、博物館の役目です

**3 ボランティアの役割について**

○博物館が提供できるメニュー

A～E 各 15分（内容 13分・移動交代2分）

AとBは、文化の杜が行います。

**C：民具体験＜従来のように昔の道具体験をお願いします＞**

＜ゆとりを持たせた組み方にします。1コマ（15分）で1～2つ＞

**D：常設展示室の「黒砂糖づくり」と「貢納布作製」のミニチュア模型の解説をお願いします。**

＜昔の生活の様子を紹介するために行います。\*道具(民具)の解説、今と昔の比較＞

＜一つに5分程度の解説と2～3分の質問タイム＞

**E：民俗展示室での、ボランティアによる展示品解説**

＜従来のように民具の解説をお願いします。説明する民具を絞り込みます＞

☆誘導ボランティアの役割＝

従来通りの順路案内に加え、タイムキーパーの役目をお願いします。

## 博物館ボランティアによる一学習支援のポイント

### 教えるのではなく — 考えさせる

博物館教育普及

これまでの体験と経験で身につけた、抱負な知識！

来館した子ども達に、伝えたい（伝えなければならない）

教えたい（多くのことを知ってもらいたい）

— その思いは間違っていない。

でも、来館した子ども達を指導するのは先生です。

★博物館の役目は、子ども達に（できるだけ）本物の品に出会わせ、そのモノ（品）と子ども達を結びつけることです。

### **ボランティアはいわゆる仲人のようなものでしょう！**

結びつけることとは、子どもがモノに興味を持つように仕向けること。モノのすばらしさを必死に紹介しても、出会わせ方がまずければ子どもは良い印象を持ちません！

仲人役のボランティアとしては、子どもが興味を持つように、モノとの出会わせ方の 話術を高める こと。

知識（情報）を伝えるのは、

子どもが興味を持ってからでも遅くはありません！

**子どもが考える楽しさを実感できるガイドをお願いします！！**

## 民具体験学習 ☆ 朝のミーティング ☆

- ・ 学習プログラムは、県教育普及担当が、学校との調整で仕上げる。
- ・ 学習プログラムは、前日又は当日(ミーティング直前に)文化の杜で印刷製本する。
- ・ 印刷部数は、ボランティア(\*)+教育普及(6)+教師(\*)+保護者(2名に一部)

### A ボランティア朝のミーティング【9:00~9:25】

#### ○全体確認【前半】

- 1 出席の確認————文化の杜(担当)
- 2 今日の学校団体の概要説明————県教育普及(宮平)
- 3 本日の他団体確認、その他(質疑)——文化の杜(担当)

#### ○パートごとのミーティング【後半】

- C 民具体験————緊急雇用①
- D E 展示解説————文化の杜(担当)
- 誘導ボランティア————緊急雇用②

### B 教師とのミーティング【9:30~9:45】

児童のオリエンテーション時間を利用して(講座室入口にて)

- 進行————県教育普及(池原)
- 1 はじめの挨拶————学校側(学年主任)
  - 2 レジユメの確認(P3タイムスケジュールを中心に)
  - 3 担任自己紹介(名前の確認)
  - 4 誘導ボランティア自己紹介
  - 5 その他(保護者の役割確認、体調不良の子ども確認など)

☆全体確認後↓

★担任と誘導ボランティア打合せ(短時間で、マニュアルに従い)

☆打合せ終了後↓

★子どもへの誘導ボランティアの紹介 →体験学習開始 10:00~

**子どもたちが、安心安全で、楽しい体験学習ができるように**

**(大人の)連携した支援で頑張りましょう!**

子ども達がオリエンテーションを受けている際に行う、先生との打ち合わせ！

## (教師)ミーティングマニュアル【誘導ボランティア用】

### 先生との打合せ!!

確認事項

2010. 博物館教育普及

#### 1 はじめに— あいさつ

■先生が館で行う授業です！ 先生に主導権を持たせるように心がけましょう。

#### 2 見学の流れを確認します

■コースを確認します！『最初に(アルファベット)の〇〇、場所は( )です。次に・・・』

\*案内はもちろん誘導ボランティアさんがリードしますが、  
移動(出発)するとき、先生に再度、案内先を言って下さい。

■民具体験の流れを確認します！

・コース先での、子どもたちの動き(いくつに分かれるのか?)を確認します。

『Cでは( )つにわかれますね。( )分交代のローテーションで反時計回りで、  
体験して行きます。子どもたちは、自分がどのグループなのか?どこから始めるか、  
分かっていますでしょうか・・・

\*体験終了1分前にベルが1回、終了時には長いベルが鳴ります。

民具体験に入る際、探検バッグは( )に置きます。

\*理由は次のクラスとの出入りの重なりを、防ぐためです。

■展示室での解説の流れを確認します！

『Dでは2つにわかれますね。

A(1)グループさんはサーターヤーから、B(2)グループさんは貢納布から・・・

\*A(1)グループさんは(ボランティア名前)が引率、

B(2)グループさんは(ボランティア名前)が引率します。

\*時間は質疑をいれて1か所( )分間。合図で交代します。』

『Eでも2つにわかれますね。

A(1)グループさんは( )から、B(2)グループさんは( )から・・・

\*時間は質疑をいれて1か所( )分間。合図で交代します。』

■“解説が始まる前に、先生からの“始めの言葉”をいれますか?”を聞いて下さい!

\*先生によって「誘導さんにおまかせします」の方もいるので・・・

#### 3 その他

□トイレ休憩がある場合は、休憩終了後の集合場所・時間を確認。

\*Eの後に自由時間がある場合は、民俗展示室内での自由見学(質問対応)が良いと思いますが・・・

□写真撮影が可能な場所の確認。展示室内は、「自然史部門」・「民俗部門」・「展示室入口」

3か所のみ可○ 模型解説の場所は× フラッシュはすべて不可×

□水分補給の時間を入れる際、補給可能な場所は実習室のみ可○です

□本日 体調不良など、気をつける生徒の有無を確認。\*救護室利用の際、<sup>ひん・もち</sup>県・社へ連絡!

○博物館民具体験学習 <当日の様子>

■朝のミーティング

ボランティアのミーティング



進行は文化の杜担当者 ↑全体確認



パートごとのミーティング ↑Cの様子



↑誘導ボランティアのミーティング

先生とのミーティング



進行は教育普及担当学芸員 ↑全体確認



↑先生からの挨拶



担任と誘導ボランティアのミーティング

○博物館では5種類（A～D）の民具体験学習メニューを準備しています

A 映像解説



72年前の沖縄の生活の様子を観る

B 民具解説



民具の種類や素材から 先人のワザを感じ取る

○博物館では5種類の民具体験メニューを準備しています

<名前や使用方法を覚えるのが目的ではなく、直接民具にふれる体験を通して～ 感じる・発見する・考えるようにする、場の提供を行っています。当日はボランティアさんによる支援で進行します>

C 民具体験 <バキ>



C 民具体験 <テール>



C 民具体験 <オダマ>



C 民具体験 <タケ>



C 民具体験 <洗濯:タレと板>



C 民具体験 <着衣:カガサ, カンヌ, サバ>



D 「貢納布」 展示模型解説



貢納布づくりに係る民具を探し出す

D 「サーターヤー」 展示模型解説



黒糖づくりに係る民具を探し出す

E 展示物解説（台所周辺道具の解説）



今と昔との生活の様子を学ぶ

E 展示物解説（展示品を見ながらの質疑）



民具の種類や形状から地域性や変容を感じ取る

○まとめ・お礼（ホールにて）



ボランティア全員が整列した閉会式の様子。ボランティア員にとって、子ども達からの声がとても嬉しいようです。

○まとめ・お礼（外広場にて）



## 民具体験実施校<クラス数別一覧>

### 1クラスの学校（4校）

那覇市立 壺屋小学校 4学年 児童 34名（1クラス）

2010年11月4日（木）9時30分～11時45分

引率3名（教師3名 保護者0名）

9時				10時				11時			
30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
1組	オリエンテーション (全体)	E展示物解説  a:(民家:台所、土間)について b:(変容する生活:アイロンなど)について	B民具体験解説	C民具体験  1)・4)・5)のローテーション  ※雨天時は、「C:民具体験」の代わりに「自由観覧」をして早めに学校に戻る予定だそうです。	まとめ・お礼	予備					

南城市立 百名小学校 4学年 児童 40名（1クラス）

2010年11月10日（水）9時30分～11時30分

引率2名（教師2名 保護者0名）

9時				10時				11時			
30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
1 グループ	オリエンテーション (全体)	A画像解説 (全体)	B・自由  民具体験の後、名前や使い方、使われていた年代の話聞く時間とする(触れながら)	E:展示物解説  主に海・稲作・民家だが、風俗(ガン等)も一通り見せたい	まとめ・お礼(全体)						
2 グループ	オリエンテーション (全体)	A画像解説 (全体)	E:展示物解説  主に海・稲作・民家だが、風俗(ガン等)も一通り見せたい	B・自由  民具体験の後、名前や使い方、使われていた年代の話聞く時間とする(触れながら)	まとめ・お礼(全体)						

那覇市立 久茂地小学校 4学年 児童 27名（1クラス）

2010年12月14日（火）9時30分～11時35分

引率2名（教師2名 保護者0名）

9時				10時				11時			
30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
1組	オリエンテーション (講座室)	E  展示物解説	B  民具体験解説	C民具体験  1)・2)・3)・4)・5)のローテーション	まとめ お礼						

那覇市立 前島小学校 4学年 児童 41名 (1クラス)

2010年12月15日(水) 9時30分

引率 28名 (教師 1名 保護者 26名 ヘルパー1名)

9時		10時						11時											
30		45		0		15		30		45		0		15		30		45	
A	A オリエンテーション (講義・座談)	C: 民具体験 全て						E 展示物解説		B 民具解説		トイレ・ ふれあい 体験室 見学	まとめ ・ お礼 実習室 ・ ホール ・ 外広場						
		E 展示物解説		B 民具解説		トイレ・ ふれあい 体験室 見学	C: 民具体験 全て												

■1クラスのまとめ

- ・1クラスの学校の場合は、人数が少ないため子ども達の行動に集中でき、解説・体験が行いやすい。
- ・人数が多い場合は、百名小、前島小のように1クラスを2つのグループに分けると、動きやすい。

2クラスの学校 (6校)

八重瀬町立 具志頭小学校 4学年 児童 56名 (2クラス)

2010年9月15日(水) 9時30分~12時00分

引率 9名 (教師 3名 保護者 6名)

9時		10時												11時													
35 40 45 50 55		0		5		10		15		20		25		30		35		40		45		50		55		0	
1組	オリエンテーション (全体)	A 画像の視聴 (全体)		C 民具体験						B 民具解説		D 模型解説		E 展示物解説		まとめ (全体)・お礼											
2組		D 模型解説		E 展示物解説		B 民具解説		C 民具体験																			

那覇市立 城南小学校 4学年 児童 73名 (2クラス)

2010年10月20日(水) 9時30分~11時00分

引率 18名 (教師 3名 保護者 15名)

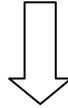
9時		10時						11時											
30		45		0		15		30		45		0		15		30		45	
1組①	オリエンテーション (全体)	A 画像解説		C民具体験 1)、4)、5)				D 模型解説		E 展示物解説		まとめ・お礼(全体)							
1組②								E 展示物解説		D 模型解説									
2組①				D 模型解説		E 展示物解説		C民具体験 1)、4)、5)											
2組②				E 展示物解説		D 模型解説													

西原町立 西原東小学校 4学年 児童 76名 (2クラス)

2010年10月27日(水) 9時30分~12時00分

引率4名(教師4名)

		9時			10時			11時				
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0
1組	オリエンテーション (全体)	A画像解説 (全体)	C民具体験 1)・5)+(2)~4)(選択制)			B 民具解説	D 模型解説	E 展示物解説	まとめ・お礼 (全体)	自由観覧		
2組			D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説	C民具体験 1)・5)+(2)~4)(選択制)						



\*雨が降っていたため、急遽変更

		9時			10時			11時				
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0
1組	オリエンテーション (全体)	A画像解説 (全体)	B 民具解説	C民具体験 1)・5)			自由時間	D 模型解説	E 展示物解説	まとめ・お礼 (全体)	自由観覧	
2組			D 模型解説	E 展示物解説	自由時間	B 民具解説	C民具体験 1)・5)					

豊見城市立 豊見城小学校 4学年 児童 80名 (2クラス)

2010年11月16日(火) 9時30分~12時00分

引率5名(教師5名)

		9時			10時			11時				
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0
1組	オリエンテーション (全体)	A画像の視聴 (全体)	B 民具解説	C民具体験 1)・4)・5)			D 模型解説	E 展示物解説	まとめ・お礼 (全体)			
2組			D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説	C民具体験 1)・4)・5)						

那覇市立 小禄小学校 4学年 児童 61名 (2クラス)

2010年11月24日(水) 9時30分~12時00分

引率5名(教師3名 保護者2名)

		9時			10時			11時				
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0
1組	オリエンテーション (講座室)	A画像解説 (講座)	C:民具体験 1)・4)・5)をローテーション			B 民具解説	D 模型解説	E 展示物解説	まとめ お礼  実習室 ・ ール 外広場	ホ ・		
2組			D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説	C:民具体験 1)・4)・5)をローテーション						

那覇市立 大名小学校 4学年 児童 52名 (2クラス)

2010年12月7日 (火)

引率 7名 (教師 2名 保護者 5名)

		9時			10時						11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45					
1組	オリエンテーション (講座室)	A 画像解説 (講座室)			C 民具体験 1)・2)・4)・5)			D 模型解説	E 展示物解説	自由	まとめ お礼	実習室・ホール・外広場				
2組		D 模型解説	E 展示物解説	自由	C 民具体験 1)・2)・4)・5)											

■2クラスのまとめ

- ・2クラスの学校は、解説と民具体験をクラスごとに交代して行えるので、移動や体験に余裕があり、急な計画変更があった際にも対応することが可能である。
- ・学校の到着が遅れた場合の対策としては、自由時間をあらかじめタイムスケジュールの中に組み込んでおくと、時間調整が容易である。
- ・2クラスでも人数が多い学校の場合は、城南小学校のように1クラスを2つのグループに分けると、解説の際に全員に声が届き、移動の際も比較的スムーズに動くことができる。

3クラスの学校 (10校)

那覇市立 宇栄原小学校 4学年 児童 89名 (3クラス)

2010年9月24日 (金) 9時30分~11時45分

引率 8名 (教師 4名 保護者 4名)

		9時			10時						11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0				
1組	オリエンテーション (全体)	A 画像解説	B 民具解説	C 民具体験 1)・3)・5)			D 模型解説	E 展示物解説	まとめ・お礼 (全体)			自由観覧				
2組		C 民具体験 1)・3)・5)			B 民具解説	A 画像解説	E 展示物解説	D 模型解説								
3組		A 画像解説	D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説	C 民具体験 1)・3)・5)										

糸満市立 兼城小学校 4学年 児童 89名 (3クラス)

2010年9月29日9時30分～12時15分

引率5名(教師5名 保護者0名)

9時		10時						11時											
30		45		0		15		30		45		0		15		30		45	
1組	オリエンテーション (全体)	C民具体験 2)、3)、4)			A 画像解説	E展示物解説 海と畑、民家			D 模型解説	B 民具解説			まとめ・お礼 (全体)						
2組		A 画像解説	B 民具解説		C民具体験 2)、3)、4)			D 模型解説	E展示物解説 海と畑、民家										
3組		D 模型解説	E展示物解説 海と畑、民家			B 民具解説		C民具体験 2)、3)、4)		A 画像解説									

南風原町立 津嘉山小学校 4学年 児童 107名 (3クラス)

2010年10月7日(木)9時30分～11時40分

引率6名(教師6名 保護者?)

30		45		0		15		30		45		0		15		30		45		0		
1組	オリエンテーション (全体)	A 画像解説	B 民具解説		C民具体験 1)、3)、5)+4)			D 模型解説	E 展示物解説		自由観覧			まとめ・お礼 (全体)								
2組		C民具体験 1)、3)、5)+4)			B 民具解説		E 展示物解説		自由観覧		D 模型解説		A 画像解説									
3組		E 展示物解説		自由観覧			D 模型解説		B 民具解説		C民具体験 1)、3)、5)+4)				A 画像解説							

那覇市立 真地小学校 4学年 児童 81名 (3クラス)

2010年11月17日(水)9時30分～11時30分

引率9名(教師4名 保護者5名)

9時		10時						11時													
30		45		0		15		30		45		0		15		30		45			
1組	オリエンテーション (全体)	A 画像解説(全体)			B 民具解説	C民具体験 A:1)⇒3) B:4)⇒5)			D 模型解説	E 展示物解説			まとめ お礼								
2組		E 展示物解説		B 民具解説		C民具体験 A:1)⇒3) B:4)⇒5)			D 模型解説		実 習室 ホールの 外広場										
3組		D 模型解説		E 展示物解説			B 民具解説		C民具体験 A:1)⇒3) B:4)⇒5)												

糸満市立 西崎小学校 4 学年 児童 123 名 (3 クラス)

2010 年 11 月 18 日 (木) 9 時 30 分～11 時 30 分

引率 9 名 (教師 6 名 保護者 3 名)

		9時			10時			11時						
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45			
1組	オリエンテーション (全体)	A 画像解説 (全体)	B 民具解説	C 民具体験 A:1)⇒3) B:4)⇒5)		D 模型解説	E 展示物解説	まとめ お礼						
2組			E 展示物解説	B 民具解説	C 民具体験 A:1)⇒3) B:4)⇒5)		D 模型解説		実習室 ホール 外広場					
3組			D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説	C 民具体験 A:1)⇒3) B:4)⇒5)								

那覇市立 上間小学校 4 学年 児童 112 名 (3 クラス)

2010 年 11 月 25 日 (木) 9 時 30 分～12 時

引率 8 名 (教師 4 名 + 学生 2 名 保護者 2 名)

		9時			10時			11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45		
1組	オリエンテーション (講座室)	B 民具解説	C 民具体験 1)・3)・5)		トイレ休憩 ホールにて	D:サーターヤー E:民俗展示室	E:民俗展示室 D:サーターヤー	A 画像解説	まとめ お礼	実習室 ホール 外広場	担任引率 (自然史部門)		
2組		D:サーターヤー E:民俗展示室	E:民俗展示室 D:サーターヤー	B 民具解説	C 民具体験 1)・3)・5)		トイレ休憩 ホールにて	A 画像解説					
3組		A 画像解説	トイレ休憩 ホールにて	D:サーターヤー E:民俗展示室	E:民俗展示室 D:サーターヤー	B 民具解説	C 民具体験 1)・3)・5)						

那覇市立 与儀小学校 4 学年 児童 91 名 (3 クラス)

2010 年 12 月 9 日 (木) 9 時 30 分～11 時 45 分

引率 13 名 (教師 3 名 保護者 7 名 ヘルパー 1 名)

		9時			10時			11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45		
1組	オリエンテーション 画像解説 (講座室) A	D 模型解説	E 展示物解説	C 民具体験 2)・3)・5)		B 民具解説	自由観覧 民俗展示室にて	まとめ お礼	実習室 ホール 外広場				
2組		C 民具体験 2)・3)・5)		B 民具解説	E 展示物解説	自由観覧 民俗展示室にて	D 模型解説						
3組		E 展示物解説	自由観覧 民俗展示室にて	D 模型解説	B 民具解説	C 民具体験 2)・3)・5)							

那覇市立 城東小学校 4 学年 児童 105 名 (3 クラス)

2010 年 12 月 21 日 (火) 9 時 30 分～11 時 30 分 引率 6 名 (教師 4 名 保護者 0 名 ヘルパー 2 名)

		9時			10時			11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45		
1組	A オリエンテーション 画像解説(講座室)	C民具体験 1)・3)・5)			B	トイレ休 ふれあい体験 室	D	E	まとめ ・ お礼 実習室 ・ ホール				
2組		E	B	C民具体験 1)・3)・5)			トイレ休 ふれあい体験 室	D					
3組		D	E	トイレ休 ふれあい体験 室	B	C民具体験 1)・3)・5)							

那覇市立 さつき小学校 3 学年 児童 121 名 (3 クラス)

2011 年 3 月 1 日 (火) 9 時 30 分～11 時 30 分 引率 6 名 (教師 3 名 保護者 7 名)

( 那覇市立 さつき小 ) 学校 121 名 3 クラス		本日の来館団体名			時 間		人 数						
3 月 1 日 (火) 9 : 30 ~ 11 : 30		教師	保護者		:	~	:	名					
		3 名	7 名		:	~	:	名					
		9時			10時			11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45		
1組	A オリエンテーション 画像解説(講座室にて)	B	C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4		メモの時間 (トイレ休)	E	調整時間			まとめ お礼 実習室 ・ ホール ・ 外広場			
2組		E	B	C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4		メモの時間 (トイレ休)							
3組		メモの時間 (トイレ休)	E	B	C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4								

那覇市立 松川小学校 4 学年 児童 97 名 (3 クラス)

2011 年 3 月 9 日 (水) 9 時 30 分～11 時 30 分 引率 12 名 (教師 5 名ヘルパー 1 名 保護者 6 名)

( 那覇市立 松川小 ) 学校 97 名 3 クラス		本日の来館団体名			時 間		人 数						
3 月 9 日 (水) 9 : 30 ~ 11 : 30		教師	ヘルパー	保護者	:	~	:	名					
		5 名	1 名	6 名	:	~	:	名					
		9時			10時			11時					
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45		
1組	オリエンテーション (実習室)	C:民具体験 1)・2)・5)			B	トイレ休 ふれあい体験 室	D	E	まとめ ・ お礼 実習室 ・ ホール ・ 外広場				
2組		E	B	C:民具体験 1)・2)・5)			トイレ休 ふれあい体験 室	D					
3組		D	E	トイレ休 ふれあい体験 室	B	C:民具体験 1)・2)・5)							

■3 クラスのまとめ

- ・Cの民具体験で、時間の重なりがないプログラム（真地、西崎、さつき以外）だと、2つ以上の民具体験を、余裕を持って行うことができる。
- ・プログラムの中間あたりにトイレ休憩を15分程度入れることにより、移動時間の多少のズレの調整・子ども達とスタッフに心の余裕も生まれスムーズに行く。
- ・上間小学校のプログラムは、民俗展示室内での体験の際に、\*待機型の解説ボランティアを取り入れた。将来的には理想的なプログラムであったが、ボランティアは初めての対応で困惑した様子であった。経験を重ねるうちに対応できるようになると思われる。

\*待機型の解説ボランティア=子ども達に対しボランティア側からのまとまった解説を行うのではなく、展示室に待機し、調べ学習をしている子ども達の質問に対応した支援行う。

4 クラスの学校（7校）

那覇市立 石嶺小学校 4 学年 児童 142 名（4 クラス）

2010 年 9 月 30 日（木）

引率 6 名（教師 6 名 保護者 0 名）

	9時						10時									11時																	
	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0			
1組	オリエンテーション (全体)						A 画像解説 (全体)						B 民具解説			C 民具体験						模型解説			展示物解説			自由観覧 (トイレタイム含む)			感想・お礼の挨拶 (全体)		
2組													模型解説			展示物解説			自由観覧 (トイレタイム含む)			B 民具解説			C 民具体験						感想・お礼の挨拶 (全体)		
3組													展示物解説			模型解説			自由観覧 (トイレタイム含む)			B 民具解説			C 民具体験						感想・お礼の挨拶 (全体)		
4組													展示物解説			模型解説			自由観覧 (トイレタイム含む)			B 民具解説			C 民具体験						感想・お礼の挨拶 (全体)		

南城市立 大里南小学校 4 学年 児童 129 名（4 クラス）

2010 年 10 月 13 日（水）9 時 30 分～12 時

引率 8 名（教師 5 名 保護者 3 名）

	30			45			0			15			30			45			0			15			30			45			0								
	1組	オリエンテーション (全体)						A 画像解説 (全体)						D 模型解説			E 展示物解説			自由観覧 (トイレタイム)						B 民具解説			C 民具体験									感想・お礼の言葉 (全体)	
2組	E 展示物解説													D 模型解説			自由観覧 (トイレタイム)			B 民具解説			C 民具体験 1)、4)、5)																
3組	B 民具解説													C 民具体験 1)、4)、5)									D 模型解説			E 展示物解説			自由観覧 (トイレタイム)										
4組	B 民具解説													C 民具体験 1)、4)、5)									E 展示物解説			D 模型解説			自由観覧 (トイレタイム)										

那覇市立 高良小学校 4学年 児童 142名 (4クラス)

2010年10月21日(木) 9時30分～11時30分

引率 14名 (教師 7名 保護者 7名)

9時		10時					11時					
30		45	0	5	20	40	50	55	0	10	35	45
1組	オリエンテーション (全体)	B 民具解説	C 民具体験 パーキ⇒着衣⇒ターグ 時間に余裕があれば洗濯とティール			D 模型解説	E 展示物解説 (畑と民家)		自由観覧			お礼・挨拶
2組			C 民具体験 洗濯⇒ティール⇒着衣 時間に余裕があればパーキとターグ			E 展示物解説 (畑と民家)	D 模型解説					
3組		D 模型解説	E 展示物解説 (畑と民家)		自由観覧			C 民具体験 パーキ⇒着衣⇒ターグ 時間に余裕があれば洗濯とティール				
4組		E 展示物解説 (畑と民家)	D 模型解説					B 民具解説			C 民具体験 洗濯⇒ティール⇒着衣 時間に余裕があればパーキとターグ	

宜野湾市立 嘉数小学校 4学年 児童 137名 (4クラス)

2010年11月2日(火) 9時30分～12時

引率 13名 (教師 5名 保護者 8名)

9時		10時					11時					
30		45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	
1組	オリエンテーション (全体)	A 画像解説	B 民具解説	C 民具体験 1) 5)		D 模型解説	E 展示物解説		自由観覧(全体)			お礼・まとめ (全体)
2組			C 民具体験 1) 5)		D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説					
3組			D 模型解説	E 展示物解説	B 民具解説	C 民具体験 1) 5)						
4組			E 展示物解説	B 民具解説	C 民具体験 1) 5)		D 模型解説					

那覇市立 識名小学校 4学年 児童 154名 (4クラス)

2010年12月8日(水) 9時30分～11時45分

引率 4名 (教師 4名 保護者 0名)

9時		10時					11時				
30		45	0	15	30	45	0	15	30	45	
1組	画オリエンテーション (講座室) A	C: 民具体験 ①1⇒4 ②3⇒5		E: 展示物解説 農具・民具	自由 メモタイム	D 模型解説	B 民具解説		まとめ	施設内の見学	
2組		B 民具解説	C: 民具体験 ①1⇒4 ②3⇒5		E 農具・海	自由 メモタイム	D 模型解説		お礼		
3組		D 模型解説	E 農具・海	C: 民具体験 ①1⇒4 ②3⇒5		B 民具解説	自由 メモタイム		ホール		
4組		E 農具・海	自由 メモタイム	D 模型解説	C: 民具体験 ①1⇒4 ②3⇒5		B 民具解説		外広場		

八重瀬町立 東風平小学校 4学年 児童 126名 (4クラス)

2010年12月22日(水) 9時30分~11時30分 引率11名(教師4名 保護者5名 ヘルパー2名)

		9時		10時				11時			
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45
1組	A 画像 解説 (講 堂に て)	C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4		B 民具解説		E まとめの時間 (エントランス) トイレ休・メモ 展示物解説		まとめ お礼			
2組		まとめの時間 (エントランス) トイレ休・メモ		C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4		E 展示物解説		B 民具解説		実習室 ・ ホール ・ 外広場	
3組		B 民具解説		E 展示物解説		C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4		まとめの時間 (エントランス) トイレ休・メモ			
4組		E 展示物解説		B 民具解説		まとめの時間 (エントランス) トイレ休・メモ		C:民具体験 ① 1 ⇒ 5 ② 3 ⇒ 4			

浦添市立 内間小学校 4学年 児童 128名 (4クラス)

2011年3月8日(火) 9時30分~11時30分 引率15名(教師5名 ヘルパー2名 保護者8名)

(浦添市立内間小) 学校 128名 4クラス		本日の来館団体名		時間		人数					
3月8日(火) 9:15 ~ 11:30		教師 保護者		: ~ :		名					
		7名 8名		: ~ :		名					
		9時		10時				11時			
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45
1組	A 画像 解説 (博 物館 講 座室 に て)	C:民具体験 ① 3 ⇒ 1 ② 5 ⇒ 2		B 民具解説		E メモの時間 (トイレ休) ふれあい体験室 展示物解説		まとめ お礼			
2組		メモの時間 (トイレ休) ふれあい体験室		C:民具体験 ① 3 ⇒ 1 ② 5 ⇒ 2		E 展示物解説		B 民具解説		調整 時間	
3組		B 民具解説		E 展示物解説		C:民具体験 ① 3 ⇒ 1 ② 5 ⇒ 2		メモの時間 (トイレ休) ふれあい体験室		実習室 ・ ホール ・ 外広場	
4組		E 展示物解説		B 民具解説		メモの時間 (トイレ休) ふれあい体験室		C:民具体験 ① 3 ⇒ 1 ② 5 ⇒ 2			

■4クラスのみまとめ

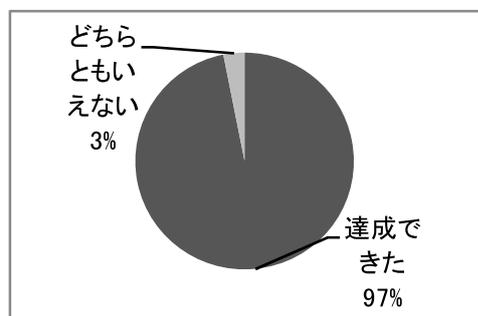
- ・4クラスの場合は、民具体験時の時間の重なりによって、体験できる民具の数は少なくなり、体験を充実させたい学校にとっては不向きな場合が多い。
- ・児童数が多いので、移動や解説に時間がかかり、学校との連携がしっかりと取れていないと、学習がスムーズに行えない場合ある。
- ・クラスが多くなるとボランティアスタッフ(特に誘導)の人数が増えるため急な休みは対応に困る。
- ・現在の状況でも学習を行えないことはないが、学年を分けて、日時をずらして来館してもらう。または、館内学習メニューを少なくし、ゆとりを持たせるとスムーズな民具体験学習が行えると考えられる。

\*下見打合せの際、学校側への十分な説明と理解協力を求める必要がある。

1)民具体験学習(事後)アンケート9月～12月(全体集計)  
(H22.9.9～H22.12.22)

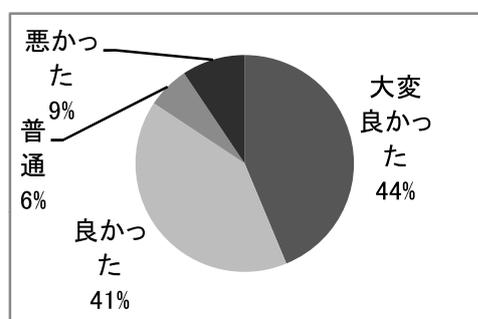
質問1: 今回の学習を終えて、事前に学校側で定めていた学習のねらい(目標)は達成出来ましたか？

	総数	32	
①	達成できた	31	96.9%
②	どちらともいえない	1	3.1%
③	達成できなかった	0	0.0%



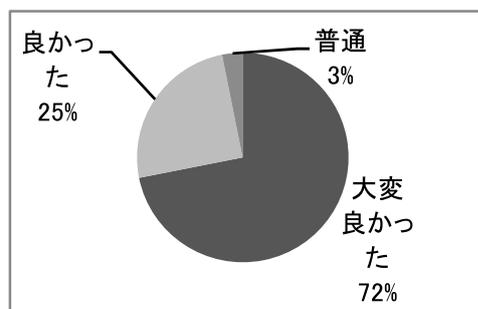
質問2: 事前の打ち合わせ・館内の下見はいかがでしたか？

	総数	32	
①	大変良かった	14	43.8%
②	良かった	13	40.6%
③	普通	2	6.3%
④	悪かった	3	9.4%
⑤	大変悪かった	0	0.0%



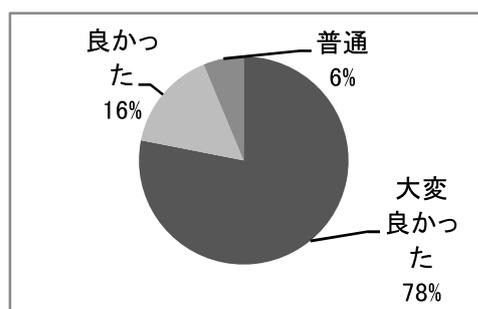
質問3: 体験当日の博物館側の対応はいかがでしたか？

	総数	32	
①	大変良かった	23	71.9%
②	良かった	8	25.0%
③	普通	1	3.1%
④	悪かった	0	0.0%
⑤	大変悪かった	0	0.0%



質問4: 博物館を利用した学習は子ども達にとって有意義なものになりましたか？

	総数	32	
①	大変良かった	25	78.1%
②	良かった	5	15.6%
③	普通	2	6.3%
④	悪かった	0	0.0%
⑤	大変悪かった	0	0.0%



### Ⅲ 体験学習教室

#### 1 博物館体験学習教室実施要項

##### (1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

##### (2) 内容

博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期 日	題	講 師 名	内 容	定員
1	10.8.25	昆虫標本を作ろう	佐々木健志氏 (琉球大学風樹館学芸員) 松村雅史氏 (沖縄昆虫同好会会員)	昆虫の標本作りの基礎を学び制作します。	20名
2	10.10.23 10.10.24	八角凧を作ろう	金城珍章氏 (八重山凧愛好会) 徳村政三氏 (おもちゃの会ピノキオ所属)	八重山の伝統的な凧作りを学び制作します。	15名
3	11.1.9	ムーチーを作ろう	松本嘉代子氏 (有)松本料理学院 学院長)	沖縄の伝統行事の食について学び、みんなでムーチーを作ります。	親子 20組

##### (3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間3回程度の実施。午前9時～12時までの3時間を基本とし、内容によって終了時間を調整した。場所は、基本として実習室。屋外展示（民家）も活用。

##### (4) 受講方法

1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。（公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選）  
抽選の場合、当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

(5) 体験学習に係る役割

前日まで

事業起案及び講師依頼	博物館（教育普及担当）
マスコミ各社への受講生募集依頼	指定管理者
受講生受け付け	指定管理者
講師打ち合わせ	博物館（教育普及担当） 指定管理者
説明資料作製	博物館（教育普及担当） 指定管理者
材料・道具等の諸準備	博物館（教育普及担当） 指定管理者
ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館（教育普及担当） 指定管理者



「昆虫標本作り」の事前学習会



「八角凧作り」の事前学習室



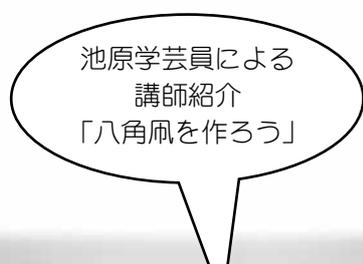
「ムーチー作り」前の消防点検(民家にて)

当日運営

受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
開講式 司会	指定管理者
講師紹介	博物館（教育普及担当）
運営責任者あいさつ	指定管理者
講座の進行	博物館（教育普及担当） 指定管理者
材料等の準備及び配布	博物館（教育普及担当） 指定管理者
記念撮影	指定管理者
記録撮影	博物館（教育普及担当） 指定管理者
報償費支払い事務	指定管理者



濱口班長による  
講師紹介  
「昆虫標本を作ろう」



池原学芸員による  
講師紹介  
「八角凧を作ろう」



講師・職員・  
ボランティア合同の  
直前ミーティング  
「ムーチーを作ろう」

平成22年度

## 博物館体験学習教室

### 第1回講座

#### 昆虫標本を作ろう



期日 平成23年8月25日(水)

時間 午前 10:00～16:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

#### 日程

受け付け	9:30	～	9:45
開講式及び諸連絡	9:45	～	10:00
講座(実習)	10:00	～	12:00
後片づけ	15:00	～	15:30
閉講式(総評)	15:30	～	16:00

## 体験学習教室 「昆虫標本を作ろう」

講師：佐々木 <sup>ささき</sup> 健志 <sup>たけし</sup>：琉球大学資料館（風樹館）学芸員

県内各地の学校や博物館、教育的イベントに講師として招かれる。常に、子どもの目線、教育的視点で標本作りなどを考えており、今回もユニークな昆虫標本やその作り方を指導していただきます。先月、風樹館を訪ねたが、展示品を説明してもらいとても楽しい時間を過ごした。さらに、外にあるピオトープは、昆虫好きの皆さんなら、わくわくドキドキするくらい色々な昆虫がいました。是非琉球大学の風樹館を訪ねて見て下さい。

色々な動物標本や昆虫標本、その他沖縄のことがとても楽しく理解できる場所です。

最初に紹介するのは、佐々木健志先生です。先生は琉球大学の風樹館という、大学の中の博物館の責任者です。

先生は、学校や様々な子ども向けの催し物に、引っ張りだこです。なぜかと言うといつも楽しいこと、面白いことを考えていて、子どもの皆さんに分かりやすい説明と楽しい体験教室をしてくれるからです。先月私は、先生の働いている琉球大学の風樹館というところを訪ねましたが、とても分かりやすい説明で楽しい時間を過ごしました。外にあるピオトープというところには、昆虫が好きな皆さんなら大興奮する色々な昆虫がいっぱいいました。

ぜひ、琉球大学の風樹館を訪ねて見て下さいね。昆虫標本以外にも、動物標本や沖縄のことが分かる資料がいっぱい展示されていてとても楽しい場所です。今日はリンブン転写という、蝶々を使った標本づくりや、標本作りのコツなどを楽しく紹介していただきます。

講師：松村 <sup>まつむら</sup> 雅史 <sup>まさし</sup>：沖縄昆虫同好会会員 与那原町在

沖縄本土復帰の年3月より沖縄で生活

本館自然史部門の昆虫標本の中の、甲虫の標本の9割を制作した。

昆虫標本づくりのプロです。皆さんの持ってきた昆虫をどうしたら美しく、そして長い期間保存するにはどうしたら良いのか？今日は、昆虫標本づくりの基本的な事柄を中心に昆虫を標本にする方法を教えてもらいます。

次に紹介するのは、松村雅史先生です。先生は沖縄昆虫同好会の会員で、お住まいは与那原町です。

みなさん博物館の自然史のコーナーにいったことありますよね。その自然史コーナーの奥の方に、昆虫標本の引き出しがありますが、知っていますか？

松村先生は、その昆虫標本の中の、甲虫標本のほとんど 数字でいうと90%を作っていただきました。博物館を助けてくれる昆虫標本づくりのプロです。

今日は、昆虫標本づくりの基本的な事を中心に、皆さんが持って来てくれた、昆虫を標本にする方法を教えてもらいます。

お二人の先生方、よろしく願います。

## 平成 22 年度博物館体験学習教室「昆虫標本を作ろう」

□講師：琉球大学資料館（風樹館）学芸員 佐々木健志  
：沖縄県昆虫同好会会員 松村雅史

### □事前の取り組み

- ・ 04/21(水)・・・講師（佐々木氏）との初打ち合わせ（博物館班 学芸員研究室にて）  
一博物館普及（池原、宮平（妃）、文化の杜教育普及担当（中村）
- ・ 07/21(水)・・・琉球大学風樹館にて昆虫採集、保管資料・施設内・屋外ビオトープ見学  
※打ち合わせ 一博物館普及（池原、宮平（妃）、文化の杜教育普及担当（中村、川平）  
ボランティア（高嶺、波平（恵）、喜屋武（ミ）
- ・ 08/11(水)・・・事前勉強会 兼 事前準備内容とレジュメの確認、蝶の鱗粉転写試作  
ボランティア（高嶺、桑江、辻本（淳）、喜屋武（ミ）、松川（郁）、大嵩）

### <役割分担>

- ・ 広報、抽選、応募者への連絡、資材買い出し（中村・宮平）
- ・ 日程調整、ボランティアへの呼びかけ、資材加工（池原）
- ・ 昆虫採集、講師からのデータ受取りなど（宮平）

### □事前準備

- 7月21日（水）午前8時半～正午
  - ・ 参加ボランティア（3名）一高嶺、波平（恵）、喜屋武（ミ）
  - ・ 作業内容
    - 博物館ボランティア室にて8時半集合（館出発40分⇒9時風樹館到着）
      - ・ 風樹館にて施設と資料の案内を受ける
      - ・ ビオトープを見学しながらミーティング
  - 朝、博物館にボランティアの高嶺氏と波平（恵）氏の2名と待ち合わせをして、博物館教育普及より2名（池原、宮平（妃）、文化の杜教育普及担当2名（中村、川平）、公用車にて乗合せて琉球大学風樹館に向かう。現地でボランティアの喜屋武氏合流。佐々木氏の出迎えにて現地見学。施設の案内を受けながらミーティング。昆虫採集を行う予定だったが、あまりの暑さに昆虫は殆ど見られず。参加者に標本作成用の昆虫等を持参するように告知してあるが、佐々木氏の方でも学生さん達にお願いしてセミを採集中ということで、セミなどの昆虫の手配はお任せすることに。博物館の方でも、蝶など幾分か準備しておくということで、この日の打ち合わせは終了した。

■ 8月11日(水)午前9時より事前勉強会

・講師2名(佐々木氏、松村氏)

・教育普及担当4名(☉池原、宮平(妃) ☉中村、川平)

・参加ボランティア(6名)－高嶺、喜屋武(ミ)、桑江、辻本、松川(郁)、大嵩

■ 講師により、昆虫標本を作る意義や注意点、レゾメの確認、展翅の作業工程(松村)や、蝶の鱗粉転写の作業工程説明と注意点説明、実際に試作してみるなどの内容で勉強会をもってもらった。最終打ち合わせとしての確認も行った。

☐道具・器具で、ラミネーター、ラミネート用紙、はさみ、ピンセット、ケト紙、ロウク、色鉛筆など使用

■体験教室当日

1 日時 8月25日(水)午前9時～午後17時(当日は14時半には終了)

2 参加者 親子 22組(48名)

ボランティア(6名)－波平(恵)、大嵩、喜屋武(ミ)、辻本(淳)  
松川(郁)、桑江

3 体験教室の様子

9:30 講師入館(2名)

9:40～ ボランティアも含む当日のスタッフミーティング

9:30～ 受付開始

10:00～ 開会式(講師紹介)

10:10～30 佐々木先生・松村先生の話と実演

10:30～13:00 資材の配布、参加者による標本作成

～14:00 講師によるまとめ(展翅後の扱い方についてなど)

※日程変更あり

17時終了予定であったが、講座内容と昼食時間の兼ね合いで予定を繰り上げて集中して講座を行い、14時には終了出来るように日程を調整した。



## —体験教室の様子と反省—

- 事前準備の段階で、佐々木氏と松村氏、琉球大学の学生さん達にかなりのご協力をいただいた。昆虫の件は、参加者に持参していただくことで通達していたが、個人個人で差が見られた。(準備していない親子が1組あった—前日、虫が取れないと文化の杜に相談の電話があったが、「セミでも良いです。」と伝えたとこ、当日何も持たずに参加した親子がいた。講師や博物館スタッフの用意した昆虫で標本を作成)

博物館班の班長濱口が講師紹介を行い、文化の杜中村の司会でスタート。佐々木氏から先に説明をし(セミを資料として提示)、後に松村氏に甲虫の展翅の仕方を説明していただいた(カキリムシ)。有る程度標本が形になってきたところで、佐々木氏から蝶の鱗粉転写の説明をしていただき、材料と道具(はさみや色鉛筆など)、蝶を配布し、転写後ラミネート加工した。佐々木氏にまとめの話をしていただき、終了。

○昆虫採集には向かない時期(暑すぎるので昆虫がいなくなる時期)だったのだが、琉大の学生さん達の協力で、早い時期から昆虫を採集していただいたようで、セミやカキリムシを全組に配布し、それを全員で一斉に扱うことで標本の展翅の仕方の基礎などを共通理解出来た。(講師以外にも、琉大生や琉大OBもサポートで来館してくださり、細かい指導をしてくださった。ボランティアも意欲的にサポートで入ってくれた。)

○蝶の鱗粉転写もまたしかり。博物館の方でも何匹か準備していたが佐々木氏と松村氏が扱いやすいものからほぼ全組分の蝶を提供してくださった。

○取り組みの早い組は、色々な種類の昆虫を持ってきてくれていた。

○学芸員や関係者数名からも昆虫の提供あり。(カブトムシ、クワガタ、ナフシなど)

●昆虫の保存方法を問合せのあったものは「冷凍」などしてもらったようだが、保存状態がまちまちで、乾燥してしまったり、傷んでしまったものもあった。昆虫によって保存方法が違ってくるので、やはり長期保存しなくても良い7月中旬から8月上旬に講座をもつのが望ましい。

●昆虫採集の時期とずれてしまったので、セミとクワガタに集中していた。(飼育していて死んでしまったものなどを持ってきた組もいた)



しを整えて固定するのに使うのが展足板で、同様に発泡スチロールなどで代用できます。

## ② ピンセット

ピンセットは、できるだけ先のとがったものを用意します。昆虫のあしやはねを整えるのに使います。

## ③ 柄付き針

長のはねを動かすのに使います。柄付き針の先をチョウのはねの付け根近くにある太い翅脈に引っかけるようにしてはねを整えます。

## ④ はさみ

展翅テープを切ったり、標本ラベルを切ったりするのに使います。

## ⑤ カッターナイフ

カッターナイフは、展翅板に溝を掘るのに使います。

## ⑥ とめ針

チョウやガのはねを広げるためのテープを展翅板に固定したり、カブトムシやバッタなどのあしを整えたりするのに使います。手芸用のマチ針を利用します。

## ⑦ 昆虫針

昆虫の身体に直接さす針のことで、手芸用のマチ針などでも代用できますが、できれば専用のステンレス製の昆虫針を使うほうが標本を長く保存できます。昆虫の身体の大きさに合わせて、0号（細い）から5号（太い）までいろいろ太さの針があります。

## ⑧ 展翅テープ

展翅版の上に広げた昆虫のはねをとめるのに使う、幅が1~4cm、長さ20cmほどの細長い紙のテープです。チョウやガの鱗分がはげ落ちないよう、表面がすべすべしたパパライン紙やハトロン紙などを利用しますが、はねに鱗分のないトンボやセミなどでは、表面がなめらかで丈夫な紙ならなんでも利用することができます。

## ⑨ 標本ラベル

標本作りの中で最も大事な作業の一つが、「標本ラベル」の作成です。標本には必ず、採集した場所・日付（年月日）・採集者の名前を記入した標本ラベルを、標本と同じ針にさします。ラベルには、ケント紙などの厚紙を幅20mm×長さ30mmほどに切り分けたものを利用し、鉛筆か黒インクで記入します。

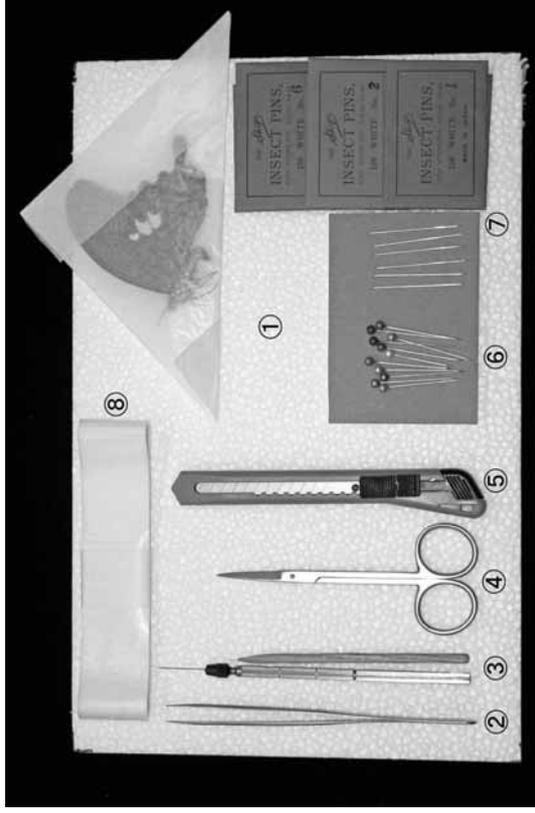
# 昆虫標本の作り方

## はじめに

生きている昆虫では観察するのが難しい身体の細かくなつくりや形なども、標本をつくることでじっくりと調べることができます。また、いろいろな種類の昆虫標本を並べて比較すると、それぞれの虫の特徴やほかの動物との違いなどもよく分かります。きつと、見られた身近な虫たちにも思わぬ発見があるはずです。ぜひ、みなさんも昆虫標本作りに挑戦してみてください。

## 1. 標本の作成に必要な道具

昆虫標本を作るには、まず道具をそろえる必要があります。標本作りの道具は、理科器具販売店などで市販されていますが、家庭にあるものを使って自分で作ることもできます。



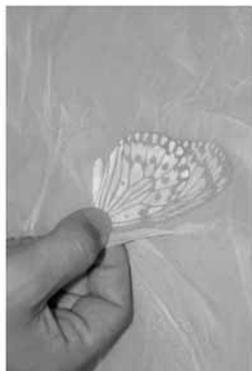
① 発泡スチロールの板 ② ピンセット ③ 柄つき針 ④ はさみ  
⑤ カッターナイフ ⑥ まち針 ⑦ 昆虫針 ⑧ 展翅テープ

## ① 展翅版と展足板

標本にするために、昆虫類の翅を広げることを展翅てんしゅうといいます。展翅版は、チョウやトンボなどの翅を広げて固定するための道具です。専用のものが市販されていますが、発泡スチロールなどを使って自分で作ることもできます。また、カブトムシやバッタなどのあ

## 2. チョウの仲間の標本の作り方

先ず、チョウを採集します。捕まえたチョウは、はねの粉（鱗粉）が落ちるのを防ぐために、網の中で胸を強く摘んで仮死状態にしておきます。



網の中でチョウの胸を強く押しつけて殺す。



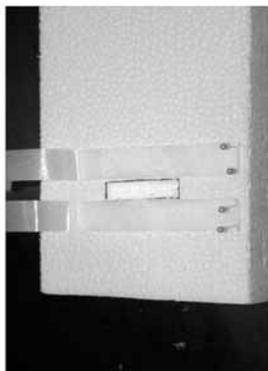
三角紙に入れて持ち帰る。



① 体の長さに合わせて掘る位置を決める。



② 身体がちょうど埋まるくらいに彫り込む。



② まち針で展翅テープをつける。



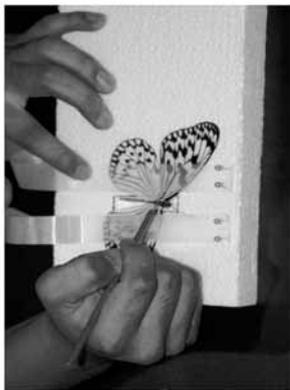
④ チョウの胸に昆虫針を直角に刺す。



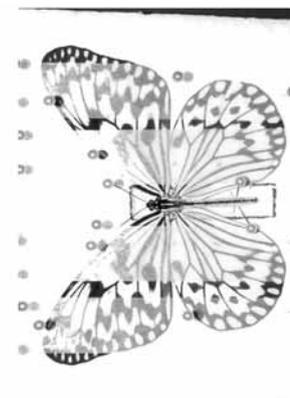
⑤ 展翅台に昆虫を刺す。



⑥ 両方のはねを仮止めする。



⑦ 柄つき針をはねの付け根の翅脈にひっかけ、前ばねの後の線が体と直角になるようにはねを上げる。



⑧ 触角を前方に伸ばし展翅テープで固定し、腹はまち針を交差させて固定する。

## 3. カブトムシの仲間（甲虫類）の標本の作り方

カブトムシやクワガタムシ、カミキリムシなどの昆虫は、あしをきれいにそろえて標本にします。あしのそろえ方は、昆虫図鑑などの標本写真を参考にして下さい。また、とめ針であしを固定するときは、あしを二本の針を交差させて挟むようにして固定します。



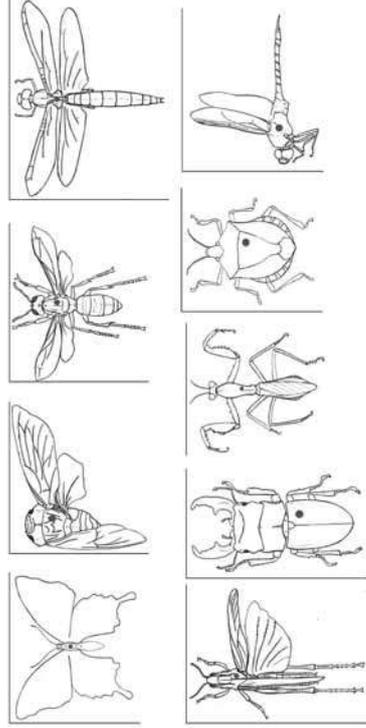
① 右はね上部の体の中心よりの中あしと後あしの間にもつぎに針をさす。



② 展翅板の上にもつぎに虫をさし、あしの位置を決めてまち針で固定する。

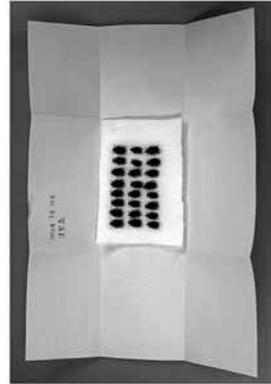
### 5. 虫のからだに昆虫針を刺す場所

昆虫に昆虫針を刺す場所は、標本が見やすいように虫の種類によって決まっています。



### 6. たとう紙による展足と保存

「たとう紙(畳紙)」とは、着物などを入れて折りたたんで保存するための和紙のことです。昆虫標本の作成では、比較的小さくて身体にあまり厚みのないクワガタムシ、カミキリムシ、テントウムシ、ホタル、ゲンゴロウ、カメムシ、コオロギなどの展足と標本の保存に使われています。B4のコピー用紙などを写真のように折りたたみ、中心に長方形に薄く切った綿をのせ、その上に虫を並べてピンセットで写真のように触角やあしの形を整えて乾燥させながら保存します。シリカゲルを入れたタツパを開いて触角やあしの形を整えますが、虫が完全に乾燥するまでの間に何度かタトウ紙を開いて触角やあしの形を整えるときれいな標本になります。標本の採集データは、たとう紙の表と中に鉛筆で記入します。



綿を敷いた上に昆虫をならべてあしや触角を整える。



シリカゲルを入れた密閉できるタツパで乾燥させ保存する。

### 3. バッタやトンボの仲間の標本の作り方

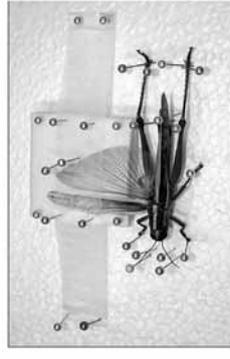
比較的大きなバッタやトンボの標本を作るときには、腐りやすい内臓を取り除く必要があります。先のとがったハサミで腹部の途中に切れ目を入れて、そこからピンセットを使って内臓を取り除きます。バッタの仲間には、後ばねにもよって種類もあるので、できれば片方の後ばね(右の後ばね)を広げた標本にします。また、トンボの腹部は細長く、本にするときに曲がったり折れたりしやすいので、エノコログサの花茎や竹串を細く削った芯をのどの部分からお腹の中にさし込んで腹をまっすぐに伸ばします。



腹の横に1cmほどの切れ目を入れ、ピンセットで内臓を取り出す。



のどの部分から芯をさし込み、腹の先の少し手前でとめ、あまった部分を切り取って芯を体の中に押し込む。



展足板の上に薄い発砲スチロールの板をおいてはねをひろげる。

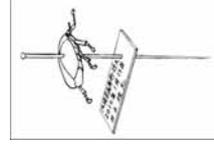


展翼板の上でチョウウと同じ手順ではねを広げてとめる。

### 4. 標本ラベルの付け方

標本作りの中で最も大事な作業の一つが、「標本ラベル」の作成です。採集した標本が、「いつ」「どこで」「だれ」が採集したものが分かるように、必ずラベルを付けましょう。

- ・ラベルは、完成した標本と同じ針に刺す。
- ・紙はケント紙などの厚めの紙を使い、鉛筆で記入する。
- ・大きさは、たて2cm×よこ3cmほどの小さまにする。



2004年7月17日  
沖縄県宜野湾市赤道  
(ススキ原)  
比嘉 智也

ラベルの記入例

## 7. 標本の乾燥方法と保存

長く保存できる昆虫標本を作るためには、虫が腐らないようにできるだけ早く乾燥させる必要があります。風通しのよい場所やテレビの上などで時間をかけて乾燥させる方法もありますが、高温多湿な沖縄ではカビが生えたりアリやゴキブリに食べられたりして標本がぼろぼろになることがよくあります。そこで、密閉できる大型のタッパーに乾燥剤を入れ、その中で標本を乾燥させると虫に喰われることもなくきれいな標本を作ることができます。乾燥させる期間は、小さな虫で1週間ほど、カブトムシなどの大型の虫でも2~3週間ほどで完全に乾燥させることができます。中に入れる乾燥剤は、市販のドライフラワー作りなどに使われるシリカゲルが最も使いやすく、電子レンジなどで何度も再生して利用することができます。完成した標本は、同じように密閉できるタッパーに防虫剤と乾燥剤を入れて太陽の光が当たらない涼しい場所に保存するといつまでもきれいな状態を保つことができます。



密閉できるタッパーにシリカゲルを敷き詰めて標本を乾燥する。



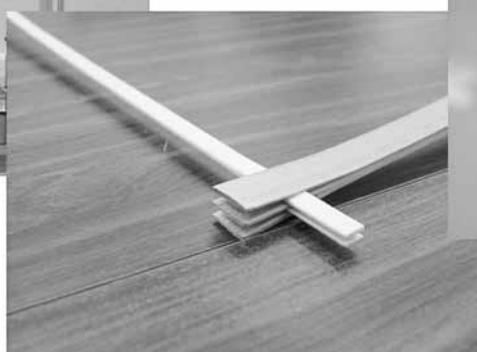
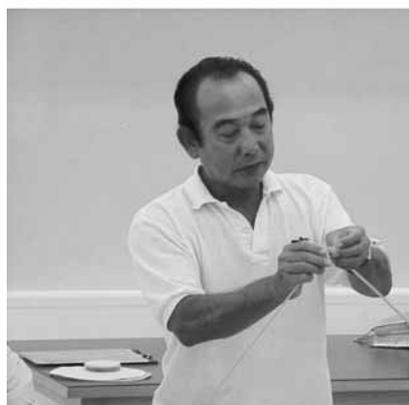
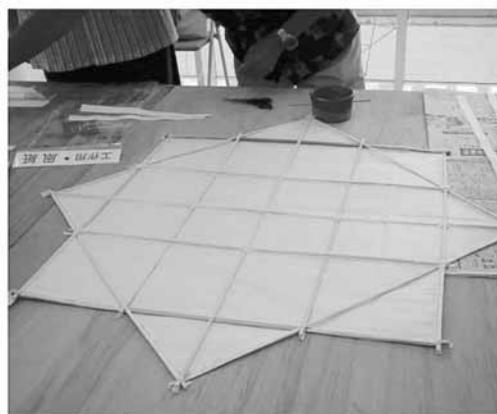
透明なアクリルケースに乾燥剤とともに標本を入れ、ビニールテープなどで密閉して保存する。

平成22度

沖縄県立博物館・美術館

博物館体験学習教室

八角凧を作ろう



期日 平成22年10月23日(土) 24日(日)  
時間 23日(土) 午前 9:00～午後1:00  
24日(日) 午前 9:00～午後3:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 実習室

博物館 体験学習教室  
「八角凧をつくろう」実施計画

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成22年10月23日(土) 9:00 ～ 12:00  
10月24日(日) 9:00 ～ 17:00

3 対象者

親子・一般

4 募集人員

15名(多数の場合は抽選)

5 日 程

23日 (土)	受付	9:00	～	9:15	
	開講式	9:15	～	9:30	
	講 座	始めの言葉……司会(文化の杜: )			
		講師紹介……教育普及担当(池原)			
		終わりの言葉……司会			
	・製作説明(講師)	9:30	～	9:45	
	・製作作業①-凧の組立て(縛り)	9:45	～	11:45	
	後片づけ・連絡	11:45	～	12:00	
24日 (日)	講 座				
		・製作作業②-紙貼り	9:00	～	11:30
		～ 昼食 ～	12:00	～	13:00
		・製作作業③-色付け・尺あて	13:00	～	15:30
		後片づけ・連絡	15:30	～	15:45
	閉講式	15:45	～	16:00	
		始めの言葉……司会(文化の杜: )			
	講師によるまとめ 記念撮影 終わりの言葉……司会				
	・試し凧揚げ( 公園)	16:30	～		

6 講 師

金城 珍章

7 役割分担

(1)当日までの役割分担

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ① 事業起案及び講師依頼      | 池原    |
| ② マスコミ各社への受講生募集依頼 | 文化の杜  |
| ③ 受講生受け付け         | 文化の杜  |
| ④ 講師打ち合わせ         | 池原・宮平 |

- ⑥ 報償費支払い事務
- ⑦ 材料・用具等の諸準備

文化の杜  
宮平・池原  
博物館ボランティア

(2)当日の役割分担

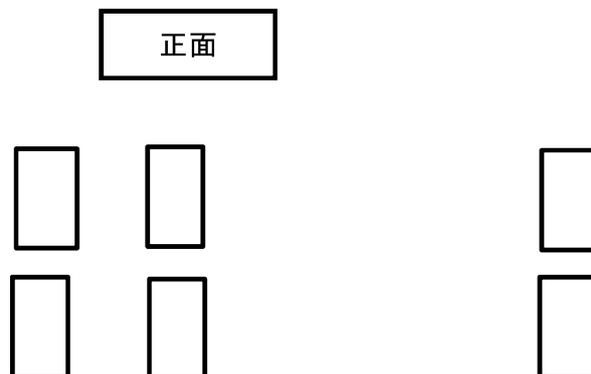
- ① 受け付け及び材料費の徴収
- ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介  
司会  
講師紹介  
運営責任者あいさつ
- ③ 講座の進行
- ④ 材料等の準備及び配布
- ⑤ 記念撮影
- ⑥ 映像撮影

(文化の杜: )  
  
(文化の杜: )  
上原  
(文化の杜: )  
(文化の杜: )  
宮平・池原  
文化の杜  
文化の杜

8 体験会場

沖縄県立博物館実習室

配置図



9 準備するもの(材料・工具等)

博物館で準備するもの

- |            |              |     |   |
|------------|--------------|-----|---|
| 竹ひご        | 講師製作部品、メイクマン |     |   |
| 整形済の竹ひご    |              | 1人約 | 本 |
| 凧糸         | ナイロン製(釣り具店)  |     |   |
| 凧紙         |              |     |   |
| 小刀         |              |     |   |
| 下敷き(ベニヤ板)  |              |     |   |
| ネオカラー、筆、筆洗 |              |     |   |

文化の杜で準備するもの

- 冊子
- 講師飲み物

受講生が準備するもの

- 作業ができる服装

## 平成 22 年度博物館体験学習教室「八角凧を作ろう」

○講師：(八重山凧愛好会副会長) 金城珍章氏

○講師：(セコム損害保険株式会社沖縄営業所 営業所長) 徳村政三氏

○事前打合せ—諸準備

・ 04/23(金)・・・AM8:30 より自習室にて講師打ち合わせ (金城珍章氏来館)

対応者：池原・宮平・中村

日程、対象、材料、役割分担について

・ 骨組の竹の話が主—重要な部品は金城氏自身が作ってくる

—他の部分はメイクマンで販売されている竹を使用する

・ 制作手順等は、石垣市教育委員会 (いきいき学び課吉本氏) と連絡を取ってほしい

→石垣市教育委員会主催で凧づくり教室が開催され、凧制作についての小冊子がある

・ 沖縄本島に八重山凧愛好会の徳村氏がいるので、助手として手伝ってほしい

・ 他道具、用具、材料についてはこの打合せでは情報が得られなかった

・ 当日の日程案

→23 日午前で骨組まで行う \*23 日午後は学芸員講座がある

→24 日午前で紙貼りまで行い、(昼食中で乾かず)午後には新都心公園で凧を上げたい

・ 6 月下旬 金城氏から徳村氏に当日講師変更

・ 8 月初旬 チラシ作製、スケジュール確認、用具、道具、当館側の準備確認

・ 9 月初旬 ボランティアへの呼びかけ (当日支援員募集)

実施要項 (計画) 仕上げ

材料購入

・ 実施 2 週間前

— リハーサル —

講師 : 金城 補助 : 徳村、池田

参加者 : 池原、宮平、岸本 (敬)、中村、川平、瀬底、大濱、吉見、桑江、辻田

組立てから紙貼りまでを体験。組立てまでをある程度進めておく事前準備が必要  
なことが分かった。

<事前準備>

・ 広報、抽選、応募者への連絡、材料買い出し (中村・宮平)

・ ボランティアへの呼びかけ (池原)

・ 下準備 (徳村氏他数名の補助講師、池原・宮平・中村・川平)

## ○前日準備

- 1 10月22日(金)午後2時～5時
- 2 参加ボランティア(名)
- 3 作業内容
  - ・材料、道具の確認・注意事項の確認

## ○当日日程(1日目)

受付 9:00～9:15

開講式 9:15～9:30

始めの言葉・・・・・・司会(文化の柱:中村)

講師紹介・・・・・・(博物館教育普及:池原)

終わりの言葉・・・・・・司会

- ・製作説明(講師) 9:30～
- ・製作作業①-風の組立て(縛り)
- ・製作作業②-紙貼り ～12:30
- ・後片づけ・連絡 12:30～13:00

## ○当日日程(2日目)

- ・製作作業③-色付け・尺あて 9:00～11:30

- ・後片づけ・連絡 11:30～12:00

～ 昼食 ～

- ・閉講式 13:00～13:30

始めの言葉・・・・・・司会(文化の柱:中村)

講師によるまとめ

記念撮影

終わりの言葉・・・・・・司会

- ・試し風揚げ(新都心公園) 14:00～

## —体験教室の様子と反省—

- 今回、講師の金城珍章先生(八重山風愛好会)が急用で来館できなくなり、徳村政三氏に講師をお願いすることになりました。補助講師として、天願先生、池田先生、上運天先生が入り、4名の講師が風作りの指導に入り、ボランティアの大濱さん、辻田さん、吉見さん、桑江さんが事前勉強会から参加してくださり、当日に臨むことになりました。2日間のサポートにご尽力いただき、風上げまでサポートしていただきました。

○縛り紙貼り等、細かな作業にぼっとうする子供が多かった。講師の「見守る姿勢」がすばらしかった。

○年輩の参加者は、昔を懐かしく思いながら凧作りに取り組んでいた。また、子供以上に凧上げに夢中になる姿が見られた。

- 勉強会（リハーサル）までの呼びかけ期間が短かった。
- 色ぬりの際のマジック（朱）が足りなかった。
- 墨を入れる際の下準備に手間取った。
- 事前準備等で、徳村氏に負担が大き過ぎた。日程の調整をゆとり持ってすべきだった。

\* 1日目の日程が半日であった為（午後には学芸員講座が入っていた）、事前の工程を進めておく必要があり、講師やスタッフの作業負担が大きくなってしまった。

→次回への課題

- 紙貼りの際、のりしろや糊の塗り方の指導が一部浸透しておらず、作業に手間取っていた。（予想していたより時間がかかった）
- 最後の凧上げの際に晴天であったものの、風が無く残念ながらうまく揚げる事が出来なかった。（なんとか少し揚げることでできた参加者もいた）



天願先生、池田先生、上運天先生、徳村先生



新都心公園での凧上げの様子



2日間頑張りました☆みんな揃ってハイポーズ！！

## 八重山の伝統凧の作り方 <八重山凧愛好会>

八重山の伝統凧を作るには、大きく分けて次の行程があり、それぞれに細かい作業がある。凧を上手に作るには、これらの作業の経験を積むことが大切である。

- 1 骨組みをつくる
- 2 紙を貼る
- 3 色を塗る
- 4 シャクをあてる
- 5 試し揚げをする

### 1 骨組みをつくる。

骨組みに使う竹ひごは、最近では市販されているのでそれを使ってもよいが、ここでは、丸竹から骨組みに使う竹ひごを作る作業も含めて行う。

#### (1) 竹の割り方・削り方

- ① 丸竹を凧の寸法に合わせて切った後、2分の1、4分の1と半分ずつに割っていく。「木元竹末」と言われ、末から根本に割るとよい。
- ② 適当の大きさ(1/8~1/16程度)になったら、平割りをする。  
(写真1)

(八重山の凧は、基本的に平割りをして肉厚を薄くして使用する。本土の凧は竹を柁割りして使うことが多い。)

#### (2) 骨組み用の竹ひごをつくる。

骨組み用の竹ひごは、基本的に曲骨(まぎぶに)、尻骨(ちびぶに)、端骨(はたぶに)、縦骨(たてぶに)、横骨(よこぶに)、中骨(なかぶに)などからなり、凧の種類、大きさによって寸法が違うので、凧に合わせた竹ひごを上手に削ることが大切である。

##### ① 竹の削り方

小刀や鎌を竹にあてて固定し、竹を引っ張って削る。刃物を動かすとうまく削れない。(写真2)

注意1: 一定の厚みに削って、きれいな円弧が描けるようにする。(写真3)

注意2: 特に曲骨は左右対称に曲がるように細心の注意をはらって削る必要がある。(写真4)

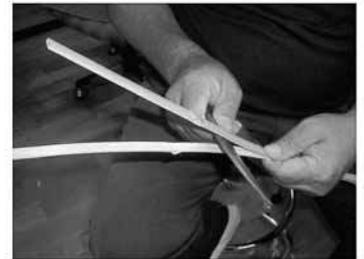


写真1 平割り

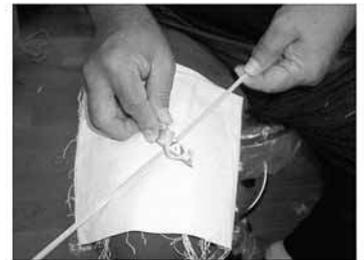


写真2 竹の削り方



写真3 一定の厚みで



写真4 曲骨の曲がり方

- ② 竹ひごには、“カマシ”（挟み込む）ための、切り込みを両端に入れておく。（写真5）

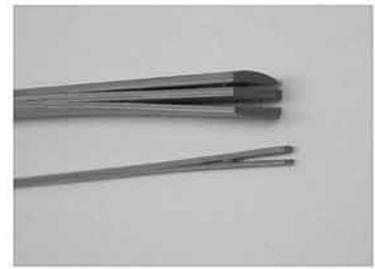


写真5 切り込みを入れる

- ③ 必要な数量分、竹ひごをつくる。

- (3) 骨組みを組み立てる。

- ① 最初は曲骨を中心に、あらかじめ入れてある切り込みを相互に挟み込みながら、外形を正確に作る。木綿糸などで緩まないようにしっかり縛る。（写真6）

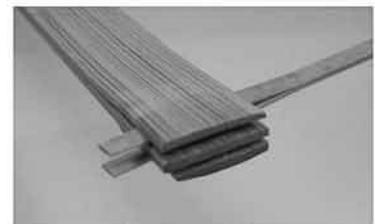


写真6

（各骨にあらかじめ寸法に合わせて印を付けておくと組み立てやすい）

- ② 基本的には、曲骨と他の骨は裏表が反対になる。骨は挟み込みように組む。  
③ 縦骨、横骨は編むように組んでいく。（写真7）

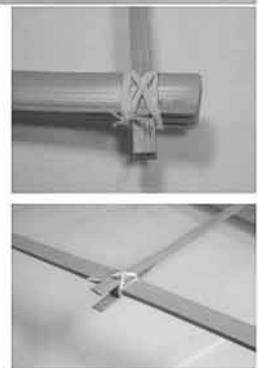


写真7

縦骨、横骨は交互に上、下を通るように組んでいく。

## 2 紙を貼る。

- (1) 凧の大きさにあった和紙を準備する。小さいときはあり合わせて大きくする。  
(2) 紙を表を下にして置き、その上に凧の表（皮の方）が紙に当たるようにして凧を置く。曲骨は裏が紙に当たっている。（写真8）  
(3) のりしろを大きく取りすぎないように注意しながら、曲骨、尻骨、端骨の順で貼る。  
(4) 骨と骨の間毎に切り込みを入れながら、骨にしっかり密着させながら貼る。（写真9）  
その際、紙にたわみがないように引っ張りながら貼る。



写真8

- (5) 外形を全て貼り終わったら、プツを貼る。プツは、骨の太さに合わせて適当な幅のテープ状に切っておく。貼るときは、プツの裏に糊をつける。

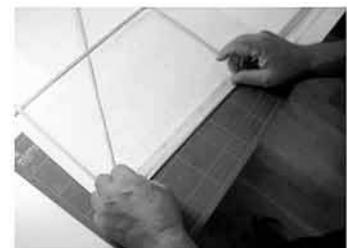
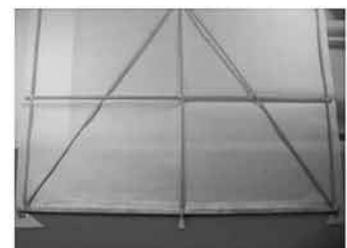


写真9

- (6) 骨に密着するように縦骨、横骨全てにプツを貼ったら、水を吹きかけて水張りをする。



## 八角凧の作り方

### 1 骨組みをつくる。(写真1)

- (1) 竹を加工する。                      長                      幅                      厚
- |             |      |      |     |    |
|-------------|------|------|-----|----|
| ① 曲骨 (まぎぶに) | 62cm | 10mm | 2mm | 1本 |
| ② 尻骨 (ちびぶに) | 62cm | 8mm  | 2mm | 1本 |
| ③ 端骨 (はたぶに) | 62cm | 4mm  | 1mm | 6本 |
| ④ 縦骨 (たてぶに) | 62cm | 4mm  | 1mm | 2本 |
| ⑤ 横骨 (ゆくぶに) | 62cm | 4mm  | 1mm | 2本 |
| ⑥ 中骨 (なかぶに) | 88cm | 5mm  | 1mm | 2本 |

竹を削る際の注意点

- ・ 寸法は一応の目安であるが、あまり太すぎないようにする。
  - ・ 裏、表に曲げてみて、偏りのない円弧になるように調整する。
  - ・ 特に、曲骨と尻骨は左右対称に曲がるように細心の注意が必要。
- ⑦ 削った竹は、組立のとき挟み込むため、両端を1センチ程平割りしておく。

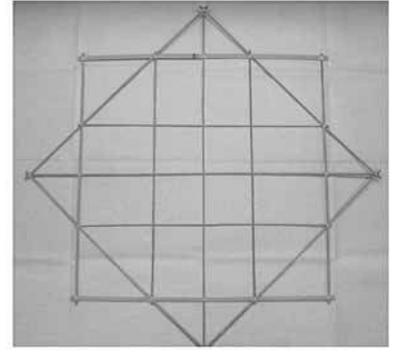


写真1 八角の骨組み

### (2) 骨組みを組み立てる。

- ① 一辺 60センチの正方形を2つ作る。(正確に)
- イ 一つ目は、曲骨、尻骨、端骨2本を組み合わせて作り、角は直角になるようにして、緩まないように縛る。  
注意：曲骨だけは表に、他の骨は裏にして組み合わせる。
- ロ 二つ目は、端骨4本と中骨2本でつくる。縛り方はイと同様。  
注意：正確な正方形、緩まないようにしっかり縛ることが大切。
- ② イとロを組み合わせて、正確な八角形をつくる。
- ③ 縦骨を入れ、横骨が縦骨の上下を交互に通るように入れる。  
縦骨、横骨の間隔を見ながら、骨が動かないように端骨にしっかり縛る。

### 2 紙を貼る。

- ① 骨組みが十分に収まる大きさの紙を準備する。
- ② 紙を表が下になるように置き、骨組みの表を下向きに紙に乗せる。  
(曲骨の表(皮の方)は上になっている)  
注意：上下左右の間隔を確認しながら位置決めをすること。
- ③ 各骨の間に切り込みを入れながら、八角形の輪郭に沿って紙を貼っていく。(写真2)  
曲骨側、尻骨側、端骨側の順序で貼る。のりしろは余り大きくならないようにする。  
注意：八角形の輪郭や縦横の骨の間隔などに注意しながら貼ることが大切。  
注意：糊付けはしっかり押さえてはがれないようにする。  
強く絞った雑巾等で押さえるとよい。
- ④ 輪郭を張り終えたら、プツ紙を貼る。(プツ紙：中骨に裏から貼る紙のこと)  
プツ紙は、1.5~2センチの紙テープをあらかじめ準備しておく。  
注意：糊付けはしっかり押さえてはがれないようにする。強く絞った雑巾で押さえるとよい。
- ⑤ 全部貼り終えたら、霧吹きでたっぷり水を吹きかけ、乾くまで待つ。(水張り)

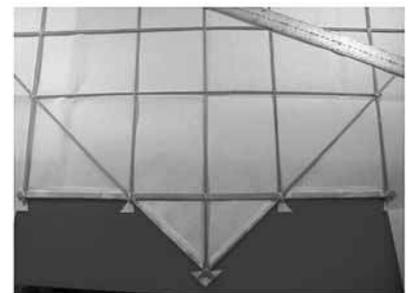
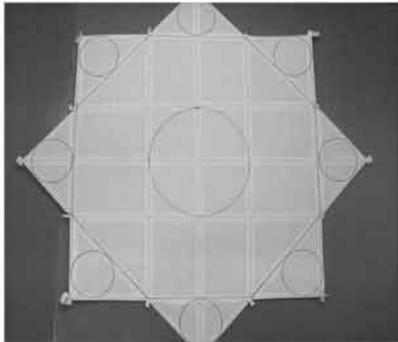


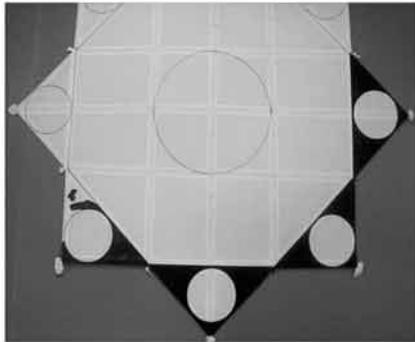
写真2 輪郭に沿って貼る

### 3 色をつける。(写真3)

- ① 三角部分の色を塗る。  
三角部分に内接する円を白抜きにして、黒色に塗る。
  - ② 中心部分に大きな円を描き朱塗りとする。  
※ この作業は省略してもよい。
- 注意：色塗りは丁寧にいき、にじみや汚れがないようにする。



下絵を描く



丁寧に色を塗る

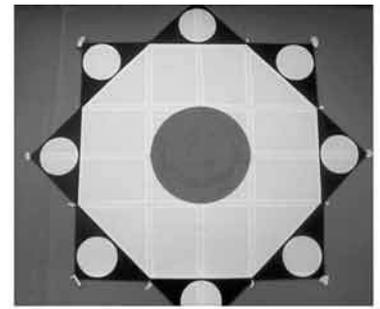


写真3 伝統的な色づけ

### 4 シャク（糸目）を付ける。

- ① 木綿糸などを使って、曲骨と尻骨を曲げる。曲げる高さは10センチ程度とする。(曲骨が60cmの場合)(写真4)  
凧を揚げないときははずしておけるように縛り方を工夫する。  
うなり紙を付けてもよい。
- ② 糸目糸はアダナス又は木綿糸などで、曲骨の両端から2本、中心の縦骨と横骨の交点から3本、一番下の横骨と縦骨の交点から2本の合計7本からとる。(写真5)
- ③ 各糸目糸を集めて結ぶ。その結び目を凧の面に向けて絞り込んだ点が糸目中心となる。  
糸目中心は、最も上の糸目糸と下の糸目糸の間の長さの3分の1となるようにする。  
※糸目中心は、概ね中骨と一番上の横骨の交点より1~2cmくらい上である。
- ④ 尾シャクを付ける。細い綱で尻骨の両端からY字形に尾シャクをつける。  
長さは、片方が尻骨の長さの2.5~3倍程度がよい。
- ⑤ 尾をつける。凧の大きさ、風邪の強さによって、尾の長さが変わるので状況に合わせて長さを調整する。

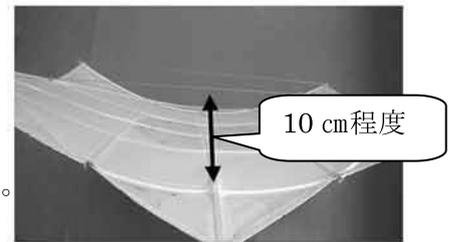


写真4 曲骨と尻骨に反りを入れる

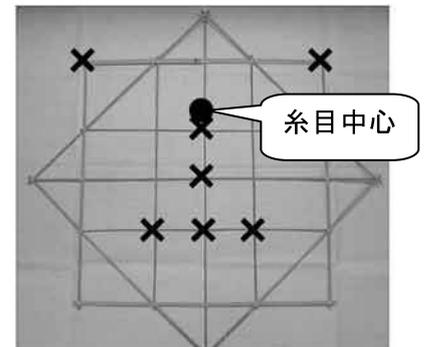


写真5 糸目糸の位置 (×印)



糸目中心を決める



糸目糸をまとめる

5 試し上げをする。

- ① 適当な太さの揚げ糸を凧に結び、風向き、強さ、周りの立ち木などに注意して揚げる。
- ② 風の強さによって、尾の長さを調整する。
- ③ 揚がり具合をみて、糸目中心の調整をする。  
風が強いときは糸目中心を上、弱いときには下にする。

資料提供 < 八重山凧愛好会 会長：添石邦男 >

メモ

沖縄県立博物館・美術館 博物館体験学習教室 2010.10.23-24

平成22年度

## 博物館体験学習教室

### 第3回講座

#### ムーチーを作ろう



期日 平成23年1月9日(日)  
時間 午前 10:00～13:00  
場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

#### 日程

受け付け	9:30	～	9:45
開講式及び諸連絡	9:45	～	10:00
講座(実習)	10:00	～	12:00
後片づけ	12:00	～	12:30
試食会&閉講式	12:30	～	13:00

博物館 体験学習教室  
「ムーチャーを作ろう」実施計画

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成23年1月9日(日) 9:45 ～ 13:00

3 対象者

小学生以上の親子(一組2名)

4 募集人員

20組(多数の場合は抽選)

5 場 所

博物館実習室 及び 屋外民家

6 日 程

受付		9:45	～	10:00
開講式	<実習室>	10:00	～	10:10
	始めの言葉……司会(文化の杜: )			
	講師紹介……教育普及担当(池原)			
9日 (日)	講 座 <実習室>			
	・月桃の葉刈取りー葉洗い	10:10	～	
	・餅粉練りー葉包みー蒸し		～	12:00
	*1組20個作			
	後片づけ	12:00	～	12:30
	試食会並び開講式 <屋外民家>	12:30	～	13:00
	始めの言葉……司会(文化の杜: )			
	講師によるまとめ			
	記念撮影			
	終わりの言葉……司会			

7 講 師

松本嘉代子 (有)松本料理学院 学院長

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- |                  |            |
|------------------|------------|
| ① 事業起案及び講師依頼     | 池原         |
| ② マスコミ各社への取材依頼   | 文化の杜       |
| ③ 受講生受け付け 12/10～ | 文化の杜       |
| ④ 講師打ち合わせ        | 池原・中村      |
| ⑤ 説明資料作成         | 池原・文化の杜:中村 |
| ⑥ 報償費支払い事務       | 文化の杜       |

(2)当日の役割分担

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収      | 文化の杜:( 中村 ) |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 |             |
| 司会                  | 文化の杜:( 中村 ) |
| 講師紹介                | 池原          |
| 運営責任者あいさつ           | 文化の杜:( )    |
| ③ 講座の進行             | 文化の杜:( 中村 ) |
| ④ 材料等の準備及び配布        |             |
| ⑤ 記念撮影              | 文化の杜        |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

- ・もち粉一家族20個分( 1 )Kg×20袋=(20)Kg
- ・色・味付け用(混合物)…黒糖、トウナチン
- ・月桃葉 一家族(大なら20枚、小なら40枚)×20家族=(大なら400枚、小なら800枚)
- ・輪ゴム、蒸し道具2セット【シンメータービ(蓋、受け網)、コンロ、プロパンガス10Kg】
- ・餅粉をねり合わす容器—(受講者各自で持参)

○博物館で準備するもの

- ハサミ(月桃の葉収穫時使用)
- 桶(月桃の葉水洗い用)
- ふきん(葉の拭きとり用、蒸し器用、餅粉練り、試食時濡れ布巾…)
- 餅粉練り容器(ボール、又は月桃の葉の上で)
- 月桃の葉(ボランティアよりの提供、1/8前日準備の日に持参する)

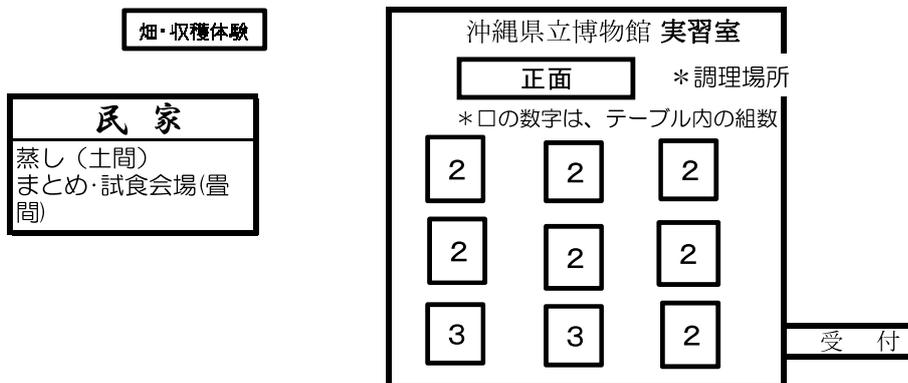
○文化の杜で準備するもの

- レジュメ
- 講師飲み物

○受講生が準備するもの

- 作業ができる服装
- 材料費( 500 )円

10 体験会場



## 平成 23 年度博物館体験学習教室「ムーチーを作ろう」-反省記録-

### □講師（松本調理学院長）松本嘉代子

□協力業者：（有）コスモプラン（＝眞氏）、（株）東和技研（＝伊礼氏）

### □事前の取組

#### <日程>

- ・ 10/07(木)・・・講師打ち合わせ ー松本先生来館。午後に 2 時間ほど。
- ・ 11/29(月)・・・設置場所確認、ガス器具確認と点検（整備） ー（有）コスモプラン 2 名
- ・ 11/29(月)・・・点火確認と湯が沸く時間の確認 ー（有）コスモプラン 2 名
- ・ 12/08(水)・・・消防点検（指導） ー那覇消防署より隊員 4 名
- ・ 01/06(木)・・・講師との直前打ち合わせ

#### <役割分担>

- ・ 広報、抽選、応募者への連絡、材料買い出し（中村）
- ・ ボランティアへの呼びかけ（池原）
- ・ 月桃の葉受取りなど（宮平）

### □前日準備

- 1 1月8日（土）午後 2 時～5 時
- 2 参加ボランティア（9 名）
- 3 作業内容
  - ・ ガスボンベの搬入（器具の確認・注意事項の確認）
  - ・ 月桃葉洗い（参加者 1 組に対し 30 枚準備 20 組×30 枚≒600 枚）
  - ・ もち粉、紅芋粉、ココア粉、黒糖（当日朝講師の先生より提供：青い海社製品）のビニール袋づめ作業

■前日まで寒い日が続いていたが、この日は天候に恵まれ、特に暖かい日差しの元、葉洗い作業は順調に進んだ。（冷たい水だと、とてもつらい事になっていただろう）

前の月からボランティア室に、支援ボランティア募集と月桃葉の提供を呼びかけていたが、特に月桃の葉の提供は前日金曜日から、ボランティア員が自宅より持参し、1,000 枚以上の葉が集まった。（600 枚は参加者用、その他は予備と振る舞い用）

また、実習室ではもち粉などの取り分け作業を行い、参加者 20 組分の材料を準備した。

■前日準備に、担当者 2 名（池原、宮平）と杜のスタッフ 2 名（中村、島袋）、ボランティア 9 名（大濱、辻本（淑）、松川（郁）、宮良（百）、田場、與那嶺（昌）、城間、西川、波平（登）参加。総勢 13 名での作業で 3 時間ほどかかった。（予定より 1 時間オーバーしてしまった）

■月桃の葉の提供者が 11 名。與那嶺（昌）、大濱、城間、安谷屋、渡慶次（洋）、松川（郁）、内間、宮里（佐）、宮里（定）、平良、宮平（妃）

## ■体験教室当日

1 日時 1月9日(日) 午前10時～午後1時

2 参加者 親子20組(親20名、子20名)  
ボランティア(11名)

### 3 体験教室の様子

- ～9:00 ガス取付(業者1名が設置)
- ～9:15 ボランティア員集合
- ～9:30 講師の松本先生着
- 9:40～ ボランティアミーティング
- 9:45～ 受付開始
- 10:00～ 開会式
- 10:10～30 松本先生の話と実演
- 10:30～12:00 参加者調理開始
- 12:10～ 畑の月桃で刈り取り体験
- 12:20～12:50 民家にて、試食と先生からの講話
- 14:00～17:00 後片付け
- 17:00～18:00 一般来館者への振る舞い



## —体験教室の様子と反省—

■項目 ○成果 ●課題

■ 当日 8 時半よりガス設置立合い業者（コスモプラン） 1 名とボランティアの松野さんがコンロを設置。野外よりホースを民家土間に伸ばし鍋に水を補給。蒸す行程は二基のガスコンロを設置し、シンメナービで炊きあげる予定だったが、急遽三基に増やした。その頃立合い業者が更に 1 名参加で計 2 名が立合いをしてくれた。火を見るボランティアの配置を考えていなかったため、宮平(妃)が業者 2 名とコンロの番をする形となった。業者の方には結局最後まで釜揚げと火の番をしてもらう結果になり大変失礼をした。プロパンガス業者（東和技研）も 1 名 2 時に回収に来たが、作業中であったため、3 時過ぎまで回収を待っていただき、最終的に民家土間の片づけも手伝ってもらうこととなった。

○今回初めて、民家土間での火の使用（プロパンガス）ができた。

○知人の紹介と博物館でのイベントということで、ガスを安く提供していただいた。

○1 組 20 個の予定が、月桃の葉の提供が沢山あったため、当初の予定以上に作ることができた。

（ボランティアの協力で 1,000 枚近い葉が集まった）

○博物館の初ムーチャーということで来館者にもふるまいが出来た。（館職員にも）

●火の見守り役を置くべきだった。（⇒ボランティアにお願いする？）

●事前に湯沸かしはしたが、試作もしてからコンロの台数を計算すべきだった。

⇒次回からは、4 基必要。（⇒蓋が 2 つしかない）

☆今回は 3 基設置したが、3 基目は、深めのザルや布巾で蓋の代用を試みた。

蒸気が漏れる為、やはり蓋が必要なので購入を検討すべき。

---

■ 当初、予定にはなかったが民家前に植栽されているクバの木から 5 枚の葉を岸本学芸員と池原が切り落とし、葉を半分にしたものを茹でたが、植栽場所の小石の石灰の影響か、白い粉質のものが葉に浮き出てきて使用出来なかった。1 枚は粉を強く拭き取り“チカラムーチャー”の見本として使用したが、残りは処分とした。

⇒前日に茹でて、灰汁<sup>あく</sup>を取っておけば良かった。（事前確認必要）

---

■ 参加者は親子で総勢 50 名になった。前日準備も含めて 14 名のボランティアの協力を得た。（前日 9 名、当日 11 名）

- 女性ボランティアは、自身の得意分野とあり、喜んで参加協力する姿がみられた。
  - 当日ボランティアは、11名参加。桑江、城間、西川、與那嶺（昌）、松川（郁）、田場、辻本（淑）、平良、加藤、松野、島袋。
  - 流れを先生にお任せしていたが、実演中の手元を参加者がちゃんと見ることが難しかった。スタートから半時間ほど、お話や実演を遠くから見るだけで進んでしまった。  
⇒モニターとカメラを準備して手元をライブで見ることが出来るように準備する。  
声が届きにくかったので、事前の打ち合わせでマイクの使用を確認して了承を取っておく必要がある。（「手ぶら拡声器」の使用を嫌がる先生もいるので）
- 

#### ■その他

- 新館になって初めての食物に関する体験学習教室であった。IPMの会議にも出席し館全体に内容等を通知することができ、情報の共有ができた。また、中央監視の防災担当（堀さん）も消防指導から立ち会い、当日5本の消火器を提供してもらった。
- 1組が制作するムーチーの数が多かった。1組20個の予定が30個になる親子も出て、結果的に、蒸す作業に負担がかかってしまった。制作に比重が行き、講師の先生の話を受けない（聞こうとしない）場面も多々あった。  
⇒学習面（講話）と実演の区別（メリハリ）をしっかりとすること。  
制作物の数を減らすこと（講座のねらいを明確にし、単なる作品制作会にならないようにすることが大切である）
- 終了後の後片付けに手間を要した。IPMの観点からみても対策が必要だっただろう。
  - ・蒸す際に、餅の下に月桃を敷けば、ざるの目に餅が入り込むこともなかった。
  - ・食べこぼした餅が民家の床に貼り付き、清掃に時間を要した。→ブルーシートを引くべきだった。
- 10日（月祝）、3階アイヌ展横のソファに、振る舞い用のムーチーの食べかすが置かれていた。→美掃班に対応をお願いした。  
\*配布の際、館内での飲食のご遠慮（禁止）をお願いしたが、説明不足だったようだ…。



2011.1.10 沖縄タイムスより



2011.1.10 琉球新報より



ボランティアの方々には、前日から、1000枚程度の月桃の葉の洗いや拭き、材料の計量などにご尽力いただきました。当日は、調理等のボ-トや振舞用のボ-ト(当館出入口にて配布)づくりをしていただきました。



→ 今すぐ申し込みよう

## 夏休みの宿題と思い出づくりは 沖縄県立博物館・美術館で

### 「ソテツの葉で 虫カゴ作り」

沖縄のどらもが愛か自然の中で、知恵をこめてつくってきた自然物を活用した遊びやおもちゃを、むかし(戦前～戦後30年代ころ)のどらもたちの生活の様子も合わせて紹介します。暑中、夏期にソテツの葉を編んで虫カゴを作ります。暑か、虫取りアツアツしてせめても昆虫を捕まえます。

講師：岸本 聡 (自然学部長)

7月24日(土) 10:00～12:00

親子20組 / 小学校3年生以上のお子さんとその保護者 / 無料

TEL・受付 申込期間：7/6～13

※抽選の上、抽選番号のみ7/17までにハガキでご連絡します [\[申込\]](#)

### 昆虫標本を作ろう

標本(ムシなど) 観察と一体的な昆虫標本づくりを行います。参加者は、各自昆虫標本の上で、標本を貼っていきます。(標本した昆虫は、冷凍庫で保管し、当日ご持参ください)

※標本の中で、昆虫標本は行いません

講師：松本 嘉代子氏 (基礎生物学部)

松村 史夫氏 (沖縄昆虫学会)

8月25日(水) 10:00～16:00

親子20組 / 小学校3年生以上のお子さんとその保護者 / 500円(作成費)

TEL・受付 申込期間：7/25～8/1

※抽選の上、抽選番号のみ7/15までにハガキでご連絡します [\[申込\]](#)

---

### 「おどろおどろの てづくりおもちゃ」

マーニー(クワガタ)やアザシの葉で作った昔のてづくりおもちゃを色紙を貼って使ってもらいます。作ったおもちゃは持ち帰ることができます。7・8・9月はかまもつきます。

講師：ふれあい体験スタッフ

毎週土曜日 ①10時②10時半  
③11時④11時半

各組10名 / 小学校3年生以上～大人まで / 小学生以下は保護者同伴 / 100円

9:00から申し込み受付 [\[申込\]](#)

### 夏休み子ども相談会

博物館の学芸員が、小学生を対象に夏休みの自由研究のヒントや研究の仕方などアドバイスします。自分の好きなテーマについて、「なぜ調べてみたいのか、どうやって調べたいのか」などについて、自分なりの考えを話します。

対象：夏・虫・植物・動物・農具・農具・農具・昆虫・歴史

7月25日(日)まで、応募用紙(学芸員用紙)を、お申し込みの用紙と一緒に、2. 学校長 3. 学年 4. 住所 5. 電話番号 6. 質問内容 (研究テーマと質問したい内容を具体的に) を記入し、抽選割合内に入選する。 FAX (098-941-2392) まで送りください。 / 参加費無料

8月4日(水)～6日(金) 13:00～17:00 [\[申込\]](#)

FAX・受付 申込：7/25まで

※抽選の上、抽選番号のみ8/1までにハガキでご連絡します [\[申込\]](#)

---

### なついち

夏休み期間中は、夏休み期間限定で100円作品を出品します。他、古本の出版、クワガタも展示しています。参加作家：黒島真由美(現代美術家)、カニガキ、すずじみち、ほたる(クワガタ)、青木 隆 (古本)、他 会場：沖縄県立博物館・美術館 夏休み期間

7月19日(月祝) 17:00～19:30

●入場無料 ●抽選：沖縄県立博物館・美術館夏休み期間限定の抽選会(抽選日)

ただいま開催中!

「近代エジプト」神楽のミイラ展～オランダ近代美術コレクション展(6月25日(金)～8月20日(金))

●開館時間：午前9時～午後6時(金土は午後8時迄) ●休館日：月曜日(月が祝日にある場合は閉館し、翌平日が休館)

●〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 TEL: 098-941-8200 ●沖縄県立博物館・美術館夏休み期間限定の抽選会(抽選日)

### 折り紙教室「博物館をつくろう」

バザンガ、ハブ、カメ、カクシマシ、シーサーを折り紙で作ります。

※抽選の上、抽選番号のみ7/25までにハガキでご連絡します [\[申込\]](#)

会場：沖縄県立博物館・美術館 1階エントランスホール

講師：夏休み子ども相談会(抽選会)

社会教育委員 05 名、那覇市中央公民館館長 1名 100円

7月25日(日)、8月1日(日) 13:00～16:00 [\[申込\]](#)

※抽選の上、抽選番号のみ7/25までにハガキでご連絡します [\[申込\]](#)

●抽選会：7月25日(日) 13:00～16:00

●抽選会：8月1日(日) 13:00～16:00

●抽選会：8月1日(日) 13:00～16:00

●抽選会：8月1日(日) 13:00～16:00

http://www.museums.pref.okinawa.jp/

おきなわけんりつはくぶつかん・びじゅつかん  
沖縄県立博物館・美術館

はくぶつかんたいけんきょうしつ  
平成22年度 第2回博物館体験教室

# 「八角凧を作ろう」

そして、とばしてみよう!

平成二十二年博物館特別展「海のクロスロード 八重山」関連催事

はっかくだこ



八重山の伝統的な凧づくりを学びます。作った凧は、持ち帰れます。

八角凧(八重山)

10月23日(土)・24日(日) 連続講座

※どちらか1日のみの参加はできません。

1日目(23日) 9時～12時 凧の組み立て(しぼり)

2日目(24日) 9時～17時頃 紙はり、色つけ、凧あげ(途中1時間休憩あり。凧作り終了後、新都心公園にて凧あげをします)

対象：親子15組(小学校3年生以上のお子さんとその保護者)

※親子が優先となります。大人のみ参加は、定員に満たない時に参加いただけます。

参加方法：事前申込制 9/23(木)～10/8(金) 来館または電話

※抽選の上、参加頂ける方のみ10/13までにハガキでご連絡します。

参加費：1組につき1000円

講師：八重山県愛好会のみなさま

沖縄の凧は、1700年ごろ、程継則によって留学先の中国から伝えられたといわれています。沖縄では、北風が比較的安定する旧暦9月ごろが凧あげのシーズンで、旧暦9月9日の重陽の節日には、男の子の成長と健康を願って凧あげが行われました。

---

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日) 担当：中村

http://www.museums.pref.okinawa.jp/

おきなわけんりつはくぶつかん・びじゅつかん  
沖縄県立博物館・美術館

はくぶつかんたいけんきょうしつ  
平成22年度 第3回博物館体験教室

# 「ムーチーを作ろう」

ムーチャーって何？ つくって、食べて、お話を聞こう。

2010年  
1月9日(日)  
10時～13時(集合9:50)



屋外展示・民家でムーチーを作ります。作ったムーチーを食べながら、講師の先生にその由来についてお話いただけます。余ったムーチーは、お持ち帰りできます。(1組につき20個程度作ります)

対象：親子20組(小学校1年生以上のお子さんとその保護者)

※親子が優先となります。大人のみ参加は、定員に満たない場合ご参加いただけます。

※施設の前で、申込者以外の方のご参加はできません。

参加方法：事前申込制 12/12(日)～12/26(日) 来館または電話

※抽選の上、参加頂ける方のみ12/31までにハガキでご連絡します。

参加費：1組につき500円

講師：松本嘉代子氏(松本料理学院学院長)

行事料理の一つ、餅。糯米粉に水を加えてこね、平たく、長方形に形を整え、サンニン(月桂)やクワ(ピロウ)の葉に包んで蒸す。約20分蒸す。黒砂糖を加えたり、トナチン(きび)を混ぜることもある。サンニンの香りが強い餅で、葉(カーサ)を使うことから、カーサムーチーともよばれる。旧暦の12月8日(今年は1月11日)の鬼節の行事に用いられ、旧暦に供えて厄払いする。子供のいる家では、その年の数だけ餅で縁で天井からつるす。男の子には力餅といわれて特別に大きくなる。

---

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日) 担当：中村

## IV 博物館文化講座

### 1 博物館文化講座実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

\* 野外活動（第395回、第406回、12月11日の回）については、別途日程を設定する。

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

#### (4) 受講方法

当日先着順、事前申込不要。

\* 第395回、第406回については、事前申込制、抽選。

回数	期 日	演 題	講師名	定 員	参加者
395	4月24日	港川人を訪ねて3	高橋巧（他）	40	39
396	5月15日	古琉球と海域アジア	上里隆史	200	195
397	6月19日	江戸女性の衣生活	長崎巖	200	82
398	7月10日	沖縄県のジオパークを考える	尾方隆幸	200	41
特別	8月19日	琉球と沖縄という名称の由来	小玉正任	200	180
399	8月21日	サンゴ礁の未来、沖縄の島々からのメッセージ	土屋誠	200	18
400	9月25日	詩と歌でつづる八重山	平田太一	200	190
401	10月16日	海のクロスロード 八重山シンポジウム	前津栄信（他）	200	150
特別	11月13日	白保竿根田原洞穴人と2万年前の八重山	土肥直美（他）	100	135
402	11月20日	八重山民謡の伝播と変容	新城亘	200	130
関連	12月11日	薩摩焼と壺屋焼 近年の考古学的成果から	渡辺芳郎	70	80
403	12月18日	沖縄の近世陶器	宮城篤正（他）	200	135
404	1月29日	17世紀アジアの陶器	家田淳一（他）	200	200
405	2月19日	科学的な骨の話	深瀬均（他）	200	135
406	3月12日	グスク巡り	當間嗣一	40	44

http://www.museums.pref.okinawa.jp/

第395回 博物館文化講座

大塚新に付き  
第3巻  
バスで行く!

# 港川人を訪ねて3



2010年  
4月24日(土) 午後1時~5時

※博物館・美術館駐車場で集合・解散。

申し込み: 3/27~4/10  
事前申込制(電話・来館)  
抽選の上、参加者のみ4/14  
までに八万円で通知します。

1万8000年前、この沖縄に住んでいた港川人。世界的にも有名な私たちの先人を訪ねてみよう! 当該専門員を中心に講義が行われているガンガラーの谷・眞直洞内の発掘現場もご案内します。

＜見学地＞  
八重瀬町立歴史民俗資料館  
港川フィッシャー遺跡  
ガンガラーの谷  
眞直洞(ガンガラーの谷内)

講師  
高橋 巧(ガンガラーの谷遺跡学長)  
新里 尚美(八重瀬町教育委員会 社会教育課 主任)

定員 40名  
※小3以上、参加可。  
但し、小学生は保護者同伴

参加費  
1500円(バス代・軽食料・保険料込み)  
※バス料金との関係上、返金はできません。支払方法は、後日お知らせいたします。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時~18時(金・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

http://www.museums.pref.okinawa.jp/

第396回 博物館文化講座

2010年  
5月15日(土)  
14時~16時(開場13時半)  
200名(予約不要、当日先着)  
沖縄県立博物館・美術館 講堂(3階)  
入場無料

# 古琉球と海域アジア

十四~十五世紀、アジアとの中継貿易で栄えた琉球王国。「大交易時代」を生み出した要因を、海域世界と港灣都市・那覇、そしてそこに住む外来者の視点から描き、その実態を明らかにします。

講師 上里隆史氏  
早稲田大学 琉球・沖縄研究所客員研究員  
『自からウロコ』の琉球・沖縄史、『誰も見たことのない琉球』著者

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時~18時(金・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

第397回 博物館文化講座

6月19日(土) 14時~16時(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂  
当日先着200名(事前申込不要)

# 江戸女性の衣生活

いよいよ きょうりつじょしだいびく  
長崎蔽氏(共立女子大学教授)

江戸時代における女性たちの衣生活の変遷について、公家・武家、町人といった身分の違いと、衣装のかたちや模様、染織技法がどのようにかわるのかわかるのかという事を中心に、分かりやすく紹介します。

6月7日(月)~15日(火)まで館内消費のため、全額休館とさせていただきます。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200(代表)  
開館時間: 9時~18時(金・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

http://www.museums.pref.okinawa.jp/

第398回 博物館文化講座

沖縄県の  
ジオパーク

ジオパークとは、地球科学的に見て貴重な特徴を持つ地域を含む自然公園のこと

2010年  
7月10日(土) 午後2時~4時(開場1時半)

講師: 尾方隆幸氏(琉球大学教育学部講師)

会場: 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

定員: 200名(当日先着順、事前申込不要)

無料

沖縄には、サンゴ礁や鍾乳洞をはじめとすると多くの地球科学的な資源があり、自然景観とツリーマンを両立させる珍しい景観として注目される。今回の講座では、ジオパークをめぐる世界及び日本の最新の状況を紹介しながら、沖縄のジオパークの可能性を探ります。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時~18時(金・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)



那覇市立歴史博物館・沖縄県立博物館・美術館 合同企画展「琉球陶器の未だ道」展 2011年1月22日(土)～3月6日(日) 開催中

■■■■ 沖縄県立博物館・美術館 ■■■■  
第403回 博物館文化講座

# 12/18 土

2010年

14時～17時(開場13時半)  
200名(予約不要、当日先着)  
沖縄県立博物館・美術館 講堂(3階) 入場無料

## 沖縄の焼物のルーツを探る

●第1部 基調講演 14:00～15:30  
宮城篤正氏(沖縄県立芸術大学学長)「沖縄の焼物について」40分  
沖縄県立博物館に勤務し、多くの陶器資料に接してきた経験をもとに、沖縄の琉球王朝時代の焼物について紹介し、また、近世歴史を研究した多くの研究者や愛好家と交流をもつことから、彼らの思い出についてもお話します。

金武正紀氏(元那覇市教育委員会文化財課長)  
「考古学的見地から見た沖縄の焼物について」40分  
歴史文化財行政に関わってきた経験をもとに、考古学的立場からみた沖縄近世歴史について紹介します。

●第2部 15:40～17:00  
新垣力氏(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)「研究報告」20分  
パネルディスカッション 60分  
宮城篤正氏(那覇市立芸術大学学長) / 金武正紀氏(元那覇市教育委員会文化財課長)  
新垣力氏(沖縄県立埋蔵文化財センター主任) / 池田崇史氏(コーディネーター/琉球大学教授)

沖縄の焼物のルーツを探る①「薩摩焼と壺屋焼-近年の考古学的成果から-」  
講師: 渡辺芳郎氏(鹿児島大学教授)  
12月11日(土) 午後4時～6時(開場3時半) 館外  
70名(予約不要、当日先着) / 無料  
会場: 壺屋町民会館(壺屋町民会自治会) 那覇市壺屋1丁目23-4(壺屋焼物博物館から徒歩5分)  
※駐車場はございません。最寄りパーキングをご利用ください。主催: 沖縄県立博物館・美術館

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時～18時(全・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

那覇市立歴史博物館・沖縄県立博物館・美術館 合同企画展「琉球陶器の未だ道」展 2011年1月22日(土)～3月6日(日) 開催中

■■■■ 沖縄県立博物館・美術館 ■■■■  
第404回 博物館文化講座

# 1/29 土

2011年

14時～18時半(開場13時半)  
200名(予約不要、当日先着)  
沖縄県立博物館・美術館  
3階講堂 入場無料

## 沖縄窯業史研究の今

okinawa yōgyōshi kenkyū

第1部  
14:00～14:05 挨拶、趣旨説明  
14:05～14:45 基調講演「17世紀から19世紀の九州の窯業について」  
家田淳一氏(佐賀県立九州陶磁器文化館)  
●休憩(5分)

14:50～17:30 基調報告(各40分)  
1. 喜名焼について 仲宗根求氏(読谷村立歴史民俗資料館館長) 14:50～  
2. 沖縄の瓦について 上原静氏(沖縄国際大学教授) 15:30～  
3. 八重山の窯業について 阿利直治氏(石垣市教育委員会会長) 16:10  
4. 琉球近世の陶製厨子について 安里進氏(沖縄県立芸術大学教授) 16:50～  
●休憩(10分)

第2部  
17:40～18:30 ディスカッション  
5名の基調講演者・基調報告者に下記の2名を加えてのディスカッション  
倉成多郎(那覇市壺屋焼物博物館)  
平川信幸(沖縄県立博物館・美術館)

※平成22年度沖縄県立博物館・美術館行事案内ではのご案内から変更、タイトルが変更となりました。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時～18時(全・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 企画展「骨の科学展」展 2011年 2月4日(金)～3月21日(月祝) 開催中

■■■■ 沖縄県立博物館・美術館 ■■■■  
第405回 博物館文化講座

# 科学的な骨の話

2011年

14時～16時(開場13時半)  
200名(予約不要、当日先着)  
沖縄県立博物館・美術館  
3階講堂 入場無料

「骨の科学展」関連シンポジウム

骨格・化石を材料として研究を進めている若手研究者が、最先端の研究成果をわかりやすく紹介します。骨のことがわかるだけでなく、自然を理解する手続きになることを学び、柔軟な「科学的発想」を育むことを目的とします。

14:00～14:05 挨拶、趣旨説明

(1) 「見えないものを見る-CTを使った骨の研究」(14:05～14:35)  
深瀬 均氏(琉球大学医学部 助教)

(2) 「骨から探る島の謎-カラス骨格の島間変異」(14:35～15:05)  
山崎 剛史氏(山崎鳥類研究所 研究員)

(3) 「遺跡から出土した骨と生体を結ぶ-アホウドリの場合-」(15:05～15:35)  
江田 真毅氏(鳥取大学医学部 助教)

(4) 質疑応答(15:35～16:00)  
進行: 藤田 祐樹(沖縄県立博物館・美術館 専門員)

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時～18時(全・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

2011.25 改訂

■■■■ 沖縄県立博物館・美術館 ■■■■  
第406回 博物館文化講座

# グスクめぐり

2011年

10時～16時(受付9時45分)  
講師: 當眞嗣一氏  
(沖縄考古学会副会長)

応募期間: 2月19日(土)～26日(土)

40名(事前申込の上、抽選)  
申込方法: 来館または電話  
参加費: 1,400円(バス代、保険代)  
対象: 小学3年生～大人(但し、小学生は保護者同伴のごと)

※当選者には、3月2日(水)までにハガキで詳細を通知します。  
ご参加頂ける方のみご連絡となりますので、ご了承ください。

※足場が悪い道を歩きます。団体行動となりますので、ご挨拶の上、ご応募ください。

【コース】10:00 当館駐車場→10:45 大里城跡【80分】→12:35 グスクロード公園  
園長→13:25 糸数城跡【50分】→14:25 玉城城跡【40分】→15:45 当館駐車場

大里城跡→糸数城跡→玉城城跡

當眞嗣一氏の案内のもと、沖縄南部のグスクを巡ります。  
グスク歩きを楽しむ方やグスクを読み解くポイントを教えます。

写真: 糸数城跡

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間: 9時～18時(全・土は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日) 担当: 中村

## 2 文化講座の実施状況

### 第395回文化講座「港川人を訪ねてⅢ」

日時 2010年4月24日(土) 参加者39名(当日キャンセル1名)

講師 新里 尚美(八重瀬町教育委員会)/高橋 巧(ガンガラーの谷担当課長)

場所 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館・港川フィッシャー遺跡・ガンガラーの谷

第395回文化講座「港川人を訪ねて」は、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館、港川フィッシャー遺跡、ガンガラーの谷を廻る、4時間コースで行われました。八重瀬町教育委員会の新里尚美氏から、具志頭歴史民俗資料館では発掘当時の新聞記事や各種資料を、港川フィッシャー遺跡では港川人が発見された経緯や発掘状況の解説がありました。ガンガラーの谷では、高橋巧氏のガイドで、鍾乳洞や鍾乳洞の天井が崩落して出来た谷を巡りながら、「古代の人々も同じ景色を見ていたかもしれない」と説明を受け、遙か昔に思いを馳せながら見学することが出来ました。また、見学コースの終点武芸洞では発掘を担当している当館の藤田、山崎から発掘の状況や、出土した資料からこの洞窟がどのような場所として利用されてきたのか今後の発掘についてなどの説明がありました。この講座への参加をきっかけに沖縄の歴史や文化、自然に興味・関心を持って頂けたらと思います。



具志頭歴史民俗資料館での解説



港川フィッシャー遺跡の見学



武芸洞での解説のようす

### 第396回文化講座「古琉球と海域アジア」

日時 2010年5月15日(土) 参加者195名

講師 早稲田大学琉球・沖縄研究所客員研究員 上里 隆史

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第396回文化講座は、「古琉球と海域アジア」と題して、早稲田大学琉球・沖縄研究所客員研究員上里隆史氏を招聘して行われました。講座は、古琉球時代を一国史ではなく、海域世界の関係性で捉える海域史の考え方で講話が展開されました。また、那覇港の地理的条件が、中国や日本などを結んだ民間レベルでの交易の発展充実に深くかかわり、さらに那覇の港町としての一極集中型の社会構造の中での様々な人々の文化交流が、その後琉球王国としての国レベルの交易に結びついたことの話が紹介されました。多くの資料に基づいたユニークな見解で、国家と地域の関係史から琉球史を解き明かす講話は、上里氏の人気の秘密を垣間見る講演でした。



海域史の捉え方を説明する上里氏



薩摩侵攻は港を押さえて行われた



サイン会の様子

### 第397回文化講座「江戸女性の衣生活」

日時 2010年6月19日(土) 参加者82名

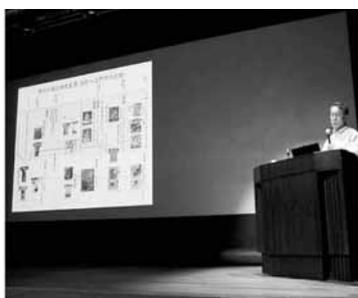
講師 共立女子大学教授 長崎 巖

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第397回文化講座は、「江戸女性の衣生活」と題して、共立女子大学教授 長崎巖氏を招聘して行われた。武士が権力を持っていた封建社会の中で“衣を楽しむ”という女性にだけ与えられた文化があったという。身分制度の厳しさは表社会に生きる男性に在り、実は奥で生活する女性には男性の関知しない自由な世界があった。身分制度に縛られることなく、裕福な町人は武家の女性にも引けを取らない着物を身につけることもできたことや、呉服屋と出版屋で着物の販売を仕組む、今でいうファッション雑誌が江戸初期には始まっていたという話はとても興味深かった。また、長年の研究で収集した着物の柄の画像はとても美しく、日本の歴史の変遷を着物柄という別の視点で体系的に示していた。琉球の絣が日本本土へ影響を与えていったことや、沖縄の紅型の材料・原料の視点から捉えた本土伝承説なども紹介され、充実した講演であった。



着物柄を体系的に紹介



鮮やかな画像を紹介する長崎氏



会場の様子

### 第398回文化講座「沖縄県のジオパークを考える」

日時 2010年7月10日(土) 参加者41名

講師 琉球大学教授 尾方 隆幸

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第398回文化講座は、「沖縄県のジオパークを考える」と題して、琉球大学尾方先生を招聘して行われた。ジオパークとは何か？まずこの新しいことばについて細かな説明があった。主題は地球の大地。保全と教育とジオツーリズムを3本柱とし、GGN(グローバル・ジオパーク・ネットワーク)の定義によれば、“地球活動の遺産を主な見どころとする自然の公園”。ユネスコが支援する2007年頃から始まった活動で、ヨーロッパや中国など大陸での申請登録が盛んである。日本でのジオパーク取組みの紹介を元に、ジオパークになりえる沖縄の素村の一つ一つが紹介され、ジオパーク申請に向けた活動の実際がイメージできた。アジアにおけるジオパーク登録の先導役を担いたい日本、さらに亜熱帯地域に属する沖縄でのジオパーク登録の意義を強く感じた。世界遺産の登録より難しい活動だが、自分たちのために、自分たちの住む地域を誇りとして申請する活動として、産学官の連携を含めた普及啓蒙の必要性を感じた講演だった。



ジオパークについて講演をする尾方氏



沖縄のジオパーク資源の紹介



会場の様子

### 第399回文化講座「サンゴ礁の未来～沖縄の島々からのメッセージ～」

日時 2010年8月21日(土) 参加者18名

講師 琉球大学教授 土屋 誠

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第399回文化講座は、「サンゴ礁の未来～沖縄の島々からのメッセージ～」と題して、琉球大学土屋先生を招聘して行われた。講演の柱は2本。一つはサンゴ礁から受ける恩恵の数々(生態系サービス)の紹介とその恩恵を次の世代に引き継ぐためにできることは何か。二つ目は、サンゴ礁を取り巻く様々な生態(サンゴ礁の友だち)の紹介とサンゴ礁で生物が健康に暮らすため、陸上の森林や河川が健全であることの大切さなどの説明があった。特にサンゴ礁の価値を目に見える形で評価した様々なデータ資料は面白いものであった。今私たちができることは、まずサンゴ礁を含めた地球環境の変化を知らせてくれている動植物の変容の実態を知ること。そして、美しいサンゴ礁に囲まれた沖縄の島々の住人としてサンゴ礁の危機的状態とその原因を理解することの大切さを実感できた。講演会の同時刻に甲子園の決勝戦と重なり参加者が少なかったが、メモを取りながら熱心に聞き入る様子もみられ、質問も多く、サンゴ礁の未来を考える人たちにとって有意義な講演であった。



講演をする土屋氏



美しい映像と分かりやすい解説



サンゴ礁の未来のあり方等を語る

### 第400回文化講座「詩と歌でつづる八重山」

日時 2010年9月25日(土) 参加者約190人(内小学生3人)

講師 南島詩人: 平田 大一

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第400回文化講座は、「詩と歌でつづる八重山」と題して、沖縄県内屈指の演出家 平田大一氏を招聘して行われた。本講座は、講話を聞く従来の形式とは異なり、三線や太鼓にのせて詩を語り、さらには音楽に合わせたダイナミックな演舞があるなど、舞台表現を通した新しい形の文化講座となった。氏の世界観の原点となった生まれ故郷小浜島の話、現在県内外各地で地域興しの意味を持つ、子ども達による現代版組踊の指導の数々が、詩や音楽となって語られた。最後は講演を間近に控えた子ども達27名と平田氏の合同演舞が、客席を巻き込み感動的に行われた。演舞した子ども達の自信に満ちた顔とダイナミックな演舞の中に平田氏の人づくりの素晴らしさが感じられる講座であった。



会場の様子



三線と太鼓を使い八重山の思いを詩で語る



子ども達と共に舞台表現をする平田氏

## 第401回文化講座「海のクロスロード八重山を考える」

日時 2010年10月16日(土) 参加者150名

講師 前津 栄信(石垣市文化財審議会委員長) 三木 健(沖縄・八重山文化研究会会長)  
大城 學(琉球大学教授) 里井 洋一(琉球大学教授)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第401回文化講座は、開催中の特別展「海のクロスロード八重山(やいま)」の関連講座「海のクロスロード八重山を考える」と題して、4名の講師を招聘して行われた。第一部は各先生方より20分の基調報告。第二部は講師が一同に会しシンポジウムの形式で八重山について語り合ってもらった。外に開かれ受けいれることで形成されてきた八重山の文化。布に例えると、経糸は連綿と続く八重山の文化と歴史、横糸は外との交流文化。2種類の糸が上手く織り重なってできたのが八重山である。今後八重山らしさをいかに継続発展させていくのか。豊かな自然と人情を誇りに、地理的条件を活かしていくことが大切である。



シンポジウムで八重山を語る講師の方々



観衆からも質問が出され、意見交換が行われた



## 「海のクロスロード八重山」関連特別企画(公開シンポジウム)

日時 2010年11月13日(土) 参加者135名

講師 土肥 直美(琉球大学) 米田 穰(東京大学)  
片桐 千亜紀(沖縄県立埋蔵文化財センター)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

この講座は、開催中の特別展「海のクロスロード八重山(やいま)」の関連特別企画講座「白保竿根田原洞穴人と2万年前の八重山」と題して、3名の講師を招聘して行われた。第一部は各先生方より30分の基調報告。第二部は講師が一同に会し、シンポジウムが行われた。今回の発掘は人骨そのものから抽出したコラーゲンに基づく年代測定により、国内最古の2万年前のものと確定されたことに最大の価値がある。今後発掘調査を続けることにより新たな発見も期待できる。遺跡を保存整備し、活用できるようにしていくことが重要である。



最古の人骨発見に、数多くの方々が視聴



聴衆からも質問が出された



展示室でのギャラリートーク

## 第402回文化講座「八重山民謡の伝播と変容」

日時 2010年11月20日(土) 参加者130名

講師 沖縄県立芸術大学非常勤講師 新城 亘 ゲスト:高宮城 実人(俳優)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第402回文化講座は、「八重山民謡の伝播と変容」と題して、県立芸術大学等で非常勤講師を務める新城 亘氏を招聘して行われた。沖縄の芸能の中で八重山民謡がどのように伝播して変化してきたのか、八重山民謡の歴史的記述の比較や八重山民謡の同曲異名、また八重山民謡の形式と特徴などが実演をとおして解説された。演奏者が交互に歌い継ぐ交互唄の紹介の際には、会場からも唄が返され、聴衆も一体となった講座となった。後半は沖縄芝居の俳優として活躍している高宮城氏をゲストに迎え、「歌劇」で歌われている「八重山由来の歌」が比較して歌われた。



八重山民謡の特徴を演奏をして紹介する新城氏

沖縄芝居で活躍の高宮城実人氏をゲストに迎え八重山民謡と「歌劇」で変容の比較が行われた

## 第403回文化講座「沖縄の焼物のルーツを探る②」(シンポジウム)

日時 2010年12月18日(土) 参加者135名

講師 宮城 篤正(元沖縄県立芸術大学学長) 金武 正紀(前那覇市教育委員会文化財課課長)  
新垣 力(沖縄県立埋蔵文化財センター主任) 池田 榮史(琉球大学法文学部教授)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

この講座は、来年1月に開催される那覇市立壺屋焼物博物館との合同開催の企画展「琉球陶器の来た道」の関連講座として「沖縄の焼物のルーツを探る」と題して4名の講師を招聘して行われた。第一部は各先生方より30分の基調報告。第二部は講師が一同に会し、シンポジウムが行われた。池田先生の絶妙な進行で、休憩時間に開場より寄せられた質問に答える形で展開していった。中国・朝鮮との貿易交流による関わりや湧田窯を初めとするこれまでの研究成果の説明から次第に壺屋焼きに迫っていった。二つの館が連動し、沖縄の焼き物の歴史を解き明かそうとする1月の企画展のイベントとして期待を持たせる講座であった。



会場の様子



宮城 篤正氏



新垣 力氏



金武 正紀氏



池田 榮史氏

#### 第404回文化講座「沖縄窯業史研究の今」(シンポジウム)

日時 2010年1月29日(土) 14:00 ~ 18:40 参加者200名

講師 家田 淳一(佐賀県立九州陶磁文化館学芸課・主幹)

仲宗根 求(読谷村立歴史民俗資料館・館長) 上原 静(沖縄国際大学・教授)

阿利 直治(石垣市教育委員会・主査) 安里 進(沖縄県立芸術大学・教授)

池田 榮史(琉球大学法文学部・教授)\*第2部コディネーター

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

那覇市立壺屋焼物博物館との合同開催の企画展「琉球陶器の来た道」の関連講座として「近世窯業史の今」と題して6名の講師を招聘して行われた。第一部は各先生方の40分間の研究成果があり、これまで通説となっていた沖縄の焼き物史についての考え方を見直す報告があった。第二部は講師が一同に会し、池田先生の進行でディスカッションが行われた。湧田、喜納、八重山焼き等沖縄各地の焼き物研究とともに、本土や中国との関係からの調査を含め、今後多面的な研究で沖縄の焼き物史を再考していく必要性が確認された。発掘調査等に基づく研究成果発表は、長時間にもかかわらず最後まで残った多くの聴衆を魅了した。



家田 淳一氏 仲宗根 求氏 上原 静氏 阿利 直治氏 安里 進氏



#### 第405回文化講座「科学展な骨の話」(シンポジウム)

日時 2010年2月19日(土) 参加者135名

講師 山崎 剛史(山階鳥類研究所・研究員)

江田 真毅(鳥取大学医学部機能形態統御学講座・助教)

深瀬 均(琉球大学大学院医学研究科人体解剖講座・助教)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

日本最大の鳥類標本コレクションの管理者でもある山崎氏の講演内容は、八重山諸島のカラスについての研究事例紹介であった。122個体の骨格標本と現地での観察調査などから八重山諸島の島々に生息するカラスの生態を明らかにしていった。学生時代の考古発掘調査をきっかけにアホウドリの研究を始めた江田氏。国内外の遺跡から出土した骨の分析や、DNA鑑定を始め数多くの調査データから現在危急種のアホウドリの生態を明らかにし、動物の保全活動に貢献する調査研究の役割が紹介された。深瀬氏からは、外から直接見ることのできない骨の内部構造等を、CT(コンピュータ断層撮影)を駆使し解き明かしていく最先端の研究発表があった。「外から見えないものを、見たいように見る!」この研究は、PC上で顔立ちの復元が可能な点などから、人骨遺跡の多い沖縄における人類学研究の広がり大いに期待ができる。



山崎 剛史氏



江田 真毅氏



深瀬 均氏



会場からの質問に応える

## 第406回文化講座「グスクめぐり」

日時 2011年3月12日(土) 10:00 ~ 16:00 参加者44名

講師 眞 嗣一(沖縄考古学副会長)

場所 大里城跡・糸数城跡・玉城城跡

第406回文化講座は、沖縄考古学副会長眞嗣一氏をお招きして南部の「グスクめぐり」バスツアーを行いました。前日の東北関東地方の大震災の影響が若干残る中、150名を超える応募の中から抽選で決定した40名全員が参加されました。広大な敷地を有する大里グスクは、中城湾を取囲む島尻地域を支配する武将の拠点であったことが展望台から臨む風景を見ながら解説されました。糸数グスクでは、城壁の石垣の積み方や城の構えが、当時の戦場の武士の動きのイメージで説明されました。かつて霊場とされ今でも参拝者のたえない玉城グスクでは、琉球王国との関わりや自然の断崖を巧に利用して気づかれた城壁構造が説明されました。いづれのグスクも戦中戦後の時代の中で大きく改変されてしまっていますが、沖縄の人々の祈りの聖地として、文化的遺産としての価値を考えさせられた時間でした。



大里城跡



糸数城跡



玉城城跡

## V 博物館学芸員講座

### 1 博物館学芸員講座実施要項

#### 1 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### 2 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

#### 3 実施日と場所

実施日：毎月1回、第1土曜日、午後2時～4時までの2時間。

場 所：特に指定がない場合は、博物館講座室

#### 4 受講方法

当日先着順。事前申込不要。

### (2) 学芸員講座

回数	日 程	分 野	講 師 名	定 員	参加者
1	2011/4/17	自然史(生物)	千木良 芳 範	200	74
2	2011/5/22	人 類	藤 田 祐 樹	80	75
3	2010/6/26	考 古	羽 方 誠	80	126
4	2010/7/24	民 俗	岸 本 敬	40	35
4	2010/8/4 ~ 2010/8/6	全分野	各 学 芸 員	なし	5
5	2010/8/18	教育普及	池 原 盛 浩	40	11
6	2010/8/28	歴 史	崎 原 恭 子	80	52
7	2010/9/11	自然史(生物)	田 中 聡	80	37
8	2010/10/23	美術工芸	與那嶺 一 子	80	57
9	2010/11/27	自然史(地学)	仲 里 健	80	53
10	2010/12/25	自然史(生物)	濱 口 寿 夫	40	30
11	2010/1/22	歴 史	岸 本 弘 人	80	24
12	2010/2/26	人 類	山 崎 真 治	80	68
13	2010/3/26	美術工芸	平 川 信幸	80	57

2010年

# 4月17日

## 14:00~16:00

(開場13:30)

沖縄県立博物館・美術館 講堂 (3F)



沖縄を代表する自然として、「ヤンバル」がよく話題になる。でも、珍しくて不思議な動物たちは「ヤンバル」だけにすんでいるのだろうか。少し(?)冒険してみると、私たちの周りには不思議な動物たちがいっぱい。そんな動物たちを紹介しながら、ちょっと沖縄の自然について考えてみましょう。

100名(当日先着)  
千木良芳範(当館副館長)

### 博物館学芸員講座

# 「身近にある不思議を探して」

無料

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

# 5月22日

2010年 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室(1F)  
14:00~16:00(開場13時半)  
※当日先着80名  
※小学生の参加も歓迎

## 動物の運動と姿勢のひみつ



ヒトはなぜ二本足で歩くの?  
ウマはなぜ速く走れるの?  
鳥はなぜ飛べるの?  
私たちの体はどうして動くの?  
動物たちの運動と姿勢のひみつ、  
体を動かしたりビデオを見たり、  
実験をしながら考えてみましょう。

藤田祐樹(人間担当専門員)

# 沖縄の墓

無料

発掘調査の成果をもとに、考古学的な見方から沖縄の墓の歴史や特徴について紹介します。  
時代:縄文時代~現代  
羽方誠(考古担当学芸員)



2010年  

# 6月26日

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

夏休みの宿題と思い出づくりは  
沖縄県立博物館・美術館で

今すぐ申し込み

### 「ソテツの葉で虫カゴ作り」

沖縄のこどもも大好きな自然の中で、自然しぼりを使ってのびのびと生き物を利用した遊びが楽しめます。むかし(昭和~昭和50年代ごろ)のこどもたちの生活の様子も思い出しながら、後半は、実際にソテツの葉を使って虫カゴを作ります。また、虫取りアツアツして楽しむ機会も増えます。

講師:南本 聖(当館学芸員)

7月24日(土) 10:00~12:00

親子20組/小学生3年以上のお子さんとその保護者/無料

TEL: 講座 申込期間:7/8~13  
お申し込みの上、お電話のみ7/17までにはがきでご申し込みください。【事前申込】

### 「てづくりおもちゃ」

マニー(クワツ)やアザミの葉で作った昔の手づくりおもちゃを色紙や糊を使って作り直します。作ったおもちゃは持ち帰ることができます。7・8・9月は色紙もついています。

講師:ふらふら体験室スタッフ

毎週土曜日 ①10時~②10時半  
③11時~④11時半

各組10名/小さいお子さん~大人まで(小学生以下は保護者同伴)/100円

②00のふらふら体験室にて受付

### なついち

親子参加型イベント。親子で一緒に100円の商品を出展し、他、音楽の演奏、ライブも予定しています。参加費:商品代金(現代美術家展、カニノガ、すずじま、黒い毛毡(ライブ)、夏祭(音楽)。他、会場:沖縄県立博物館・美術館 野外展示場

7月19日(月祝) 17:00~19:30

●入場無料 ●会場:沖縄県立博物館・美術館(那覇市おもろまち3-1-1)

### 昆虫標本 を作る

標本(ワシムシ)製作と一般的な昆虫標本づくりを行います。参加者は、各自昆虫標本として、講師に参加いたします。(採集した昆虫は、冷凍庫に保存し、各自ご持参ください)

●講師の中で、昆虫標本は行いません

講師:藤田 祐樹(当館学芸員)

8月25日(水) 10:00~16:00

親子20組/小学生3年以上のお子さんとその保護者/300円(内食費)

TEL: 講座 申込期間:7/25~8/11  
お申し込みの上、お電話のみ7/15までにはがきでご申し込みください。【事前申込】

### 夏休み子ども相談会

博物館の学芸員が、小学生を対象に夏休みの自由研究のヒントや研究の仕方アドバイスします。自分の好きなテーマについて、「本を調べたいけど、もとが知りたい」「何か始めたいけどわからない」「などの質問に答えます。お菓子/動物/昆虫/美術/理科/歴史/音楽

7月25日(日)まで、応募期間(チラシ参照)。申し込み必要事項①:氏名 ②:学年 ③:学年 ④:性別 ⑤:電話番号 ⑥:質問内容(研究テーマと質問したい内容を具体的に)を記入し、当館受付室内に送付するか、FAX(098-941-2392)までお送りください。

8月4日(水)~6日(金)  
13:00~17:00

FAX: 講座 申込:7/25まで

お電話、館内職員から内容の確認し、日程の調整のご連絡をさせていただきます。

### 折り紙教室 「博物館をつくらう」

ノグチ、ハシ、ウシ、カクレカマシ、シーサーを折り紙で作ります。会場:沖縄県立博物館・美術館 1階エントランスホール

講師:夏祭り実行委員会

7月25日(日)、8月1日(日)  
13:00~16:00

無料(事前申込不要)

小学生20組/親子20組/小学生3人以上のお子さんとその保護者/100円

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL: 098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

2010年  

# 8月28日

14時~16時(開場13時半)

崎原恭子(歴史担当学芸員)

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室(1階)

博物館の歴史部門展示室で展示中の首里那覇港図や琉球国惣結図(間切集成図)などを手がかりに、「那覇港一往來する人とモノ」を10倍楽しむためのツボをお話します

80名(事前申込不要、当日先着)

無料

「那覇港一往來する人とモノ」展示室探訪のツボ

次回  
9月1日(土) 14:00~16:00  
(この日だけはトカゲのはなし)  
田中聡(生物担当学芸員)

写真:【上】首里那覇港図(左) 【下】琉球国惣結図(間切集成図) 那覇拡大

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館 博物館学芸員講座

# ここだけの トカゲのはなし

本講座では、学芸員が調査した未発表の「ここだけの、はなし」を中心に、琉球列島のトカゲたちの多様性やその現状などの話題を取り上げます。

2010年  
9月11日(土)  
14時～16時(開場13時半)

講師：田中聡(生物担当学芸員)  
会場：沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室(1階)

参加方法：当日先着 80名(事前申込不要) **無料**

次回  
10月23日(土) 14時～16時  
「八重山上布のはなし」  
與那嶺一子(美術工芸担当学芸員)




●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

平成22年度博物館学芸員講座  
『島のつとめ〜八重山(ゆいば)』  
開館講座(開館時間9時～11時30分)

「島のつとめ」  
2万年前の人類を公認  
300種に及ぶ八重山諸島植物誌  
琉球列島と中央部の歴史  
大塚の島のふもとに遺る  
足跡の八重山上布

2010年  
10月23日(土)  
14時～16時(開場13時半)

與那嶺一子  
(美術工芸担当学芸員)

沖縄県糸島郡国分町生まれ。琉球大学教育学部美術工芸科卒。  
専攻は染織。近年の著書『沖縄染織王国〜』(とんぼ 2008)

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室(1階)

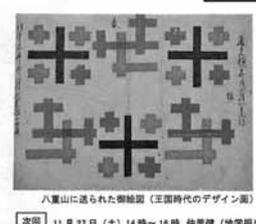
80名(事前申込不要、当日先着) **無料**

八重山上布の原料であるチヨマは、東アジア、南アジアに広く分布しています。沖縄でいつからチヨマで布織られていたのかよくわかっていませんが、芭蕉布と同じように、そのしなやかな織様、古くから使われてきました。近代になると、八重山諸島で織られたものは八重山上布として地域経済をうるおす産業となりました。

本講座では、八重山上布の技法や歴史について当館の収蔵品を例に紹介します。

八重山に送られた御給圖(王國時代のデザイン集)

次回 11月27日(土) 14時～16時 仲里健(地学担当学芸員)



●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

<http://www.museums.pref.okinawa.jp/> 沖縄県立博物館・美術館公式ホームページ

# 琉球石灰岩と 人々とのかかわり

2010年  
11月27日(土) 14:00～16:00  
(開場13:30)

講師：仲里健(地学担当学芸員)  
会場：沖縄県立博物館・美術館 1階博物館講座室  
定員：80名(当日先着順、事前申込不要)

琉球列島に広く分布する「琉球石灰岩」は、昔から人々の生活に深くかかわりを持っていました。琉球石灰岩の形成から、琉球列島の歴史を紐解くと同時に、琉球石灰岩を人々がどのように利用してきたのか紹介します。また、現在どのように利用されているのか文化、研究、素材などの多角的な面から捉え、今後の活用方法について考えます。



入場無料

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)

<http://www.museums.pref.okinawa.jp/> 沖縄県立博物館・美術館公式ホームページ



ポクたち天然記念物だよ！知ってた～？

海辺の奇妙ななまたち—海岸生物観察入門—

# 「オヤドカリ」の生活

2010年  
12月25日(土) 14:00～16:00  
(受付13:30～) **入場無料**

講師：濱口寿夫(博物館班班長/当館学芸員)  
会場：沖縄県立博物館・美術館 バックスペース  
(受付：1階 博物館講座室/会場はバックスペースになりますので、途中参加はできません)  
定員：40名(当日先着順、事前申込不要)

天然記念物なのに、普段あまり注目されることのないオヤドカリたち。体のつくりや、種類の見分け方などの基本的な情報と、浜比羅島と大波海岸で調べた夏の繁殖生態を中心にお伝えします。あわせて、交通事故など、人間とのかわりで見生している課題にも触れます。なお、当日は、文化財行政の許可を得て本物の生きたオヤドカリをお見せする予定！天候等により、開催できなかった場合はお見せできません。ゴメンナサイ。

【開館】1月22日(土) 開館 無料  
【開館時間】14:00～16:00(受付13:30～) 定員に達し次第、終了

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜が祝日の時は、翌平日)  
新年は元旦から開館します。1月1日(土)～3日(月祝) 9時～18時/12月29日(水)～31日(金)までは休館

沖縄県立博物館

# 近現代分野の 収蔵品紹介

2011年  
**1月22日**  
14時～16時 (開場13時半)

岸本弘人 (歴史担当学芸員)

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室 (1階) **無料**

80名 (事前申込不要、当日先着)

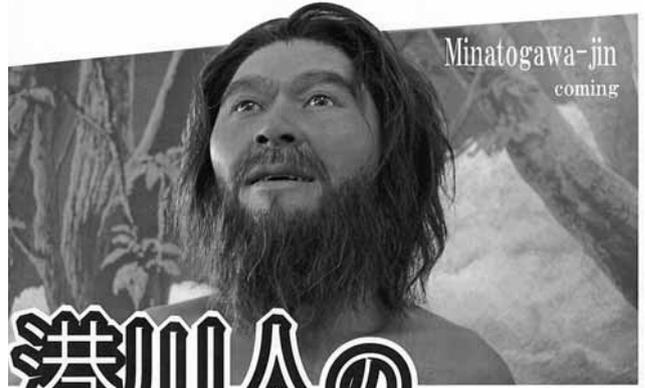
当館は沖縄に関する多くの資料を収集してきました。歴史資料だけでなく現在、10,000件を超える資料を収蔵しています。今回は近現代資料の中から、現在展示室には展示されていない収蔵品をいくつかスライド等を使って紹介します。

**次回** 2月26日(土)14:00～16:00  
「港川人の時代を掘るII」  
山崎真治 (人類担当学芸員)

写真: (上) 坂口雄一が使用した写真機【中】 戦後住宅模型【下】 戦後の沖縄 (リポート)

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たるときは開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

博  
物  
館  
学  
芸  
員  
講  
座



# 港川人の 時代を掘るII

博物館学芸員講座

2011年

**2月26日**  
14時～15時半  
(開場13時半) **無料**

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室 (1階)

山崎真治 (人類担当学芸員)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

講座終了後、希望者を対象に港川人の復元模型や人骨のレプリカを前に「展示解説会」を実施します。  
会場:博物館常設展示室 / 当日入場券が必要(講座参加者には、博物館講座室内で団体料金にて入場券を販売します)

1万8千年前の沖縄に生きていた港川人。港川人は、東アジアでも保存の良い人類化石として、世界中から注目を集めています。  
最終氷期最寒冷期の沖縄という過酷な環境の中で、彼らはどのような暮らしをしていたのでしょうか。昨年度実施した「港川人の時代を掘る」に続く第2弾として、南城市武芸洞遺跡(ガンガラーの谷内)での調査を始め、港川人研究の最前線について、わかりやすく解説します。

写真:港川人復元模型

**次回** 3月26日(土)14:00～16:00  
平川俊幸 (美術工芸担当学芸員)

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たるときは開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

## 2 実施状況

### 第1回 学芸員講座「身近にある不思議を探して」

4月17日 参加数 74名 千木良 芳範（副館長）講堂にて

親子づれや近隣の小学校からの参加も多く見られた今年度初の学芸員講座。

“学芸員の日頃の研究は、その成果を相手に説明できて完結する”の言葉とおり、豊富な画像を一つ一つ紹介しながら、分かりやすい解説が展開された。

ヤンバルの自然に感心が集まっている中、中南部の小動物が忘れられているのではないかと。ヤンバルと中南部のふたつの自然がそろって沖縄島の自然と言える。住宅地が広がる中でも、限られた場所でたくましく生きている小動物の姿の紹介は、自然保護の大切さを改めて考えさせられた。



千木良学芸員が撮影した小動物の数々が紹介された

### 第2回 学芸員講座「動物の運動と姿勢のしくみ」

5月22日 参加数 75名 藤田 祐樹（学芸員）博物館講座室にて

馬はどのように早く走れるの？ 鳥はなぜ飛べるの？ なぜ人は歩く時に手をふるの？

分かっているようで答えられない学芸員からの質問の数々。口ごもる大人とは対照的に、参加した小学生からは積極的に、ユニークな発言が返ってくる。

動物の骨格の違いが、楽しく分かりやすく解説され、いつの間にか答えを理解している参加者。

さらに、『テシモ』と命名された、簡単な材料で体の仕組みを理解できる人体模型を、参加者一人ひとりが制作した。制作しながら親子が語り合う場面も多く見られ、動物の体の仕組みを楽しく学ぶ時間が過ぎて行った。



馬の走る動きを分析中



お父さんと一緒に工作

### 第3回 学芸員講座「沖縄の墓」

6月26日 参加数 126名 羽方 誠（学芸員）博物館講座室にて

考古学的な見かたで、沖縄の墓の歴史や特徴を考える。

本土とは異なる形態や種類を持つ沖縄の墓。民俗学、歴史学、建築学、人類学などの各分野から注目されるほど、墓は研究情報の宝庫である。本講座は、考古担当の学芸員により、墓の種類、埋葬の種類、墓の調査方法などが考古学の観点から説明された。

現地での発掘調査にもとづく画像資料や、先行研究者の調査データの解説が行われ、沖縄の墓について理解が深められた講座であった。講座終了後も、多くの参加者が残り、様々な質問が出されたことから墓に対する関心の高さを伺うことができた。



沖縄の墓の説明がされた



会場いっぱいの聴衆

### 第4回 学芸員講座「ソテツの葉っぱで虫カゴ作り」

7月24日 参加数 35名 岸本 敬（学芸員）博物館実習室にて

昔の子どもの遊びってどんなものだったでしょうか？

ひと昔、皆さんのお祖父ちゃんお祖母ちゃんが子どもだったころ、子どもたちの生活はどんなものだったでしょうか。今の子どもには労働は課せられませんが、ひと昔前までは、子どもが家の仕事の手伝いをするのは当たり前のことでした。手伝いを終えて夕食までの短い時間が、子どもたちの遊びの時間でした。そこでは様々な遊びが工夫され生み出されてきたことが、身近な植物を使い制作した道具の数々を使い紹介された。後半は参加者全員が、ソテツの葉を使った虫籠作りを体験し、手作りの喜びを味わった。



手作りの虫取りの紹介



昔の遊びについて説明

## 第5回 学芸員講座「学芸員のお仕事ってな～に」

8月18日 参加数 11名 池原 盛浩（学芸員）博物館実習室にて

博物館にいる学芸員ってどんな仕事をしているの？

博物館は何をやる場所なのか。昔の品物を並べてお客さんに見せるだけの場所なのか。前半は、わかっているようで実はよくわからない博物館について、そしてその博物館の中で働く学芸員についての説明が行われた。

後半は、展示室の収蔵品の実測図を描きこむ、備品台帳づくりの疑似体験を行った。指定されたワークシート（備品台帳疑似体験用）を手に、参加者は熱心に収蔵品と向き合い、学芸員が行う登録作業の一端を体験した。親子でいっしょに博物館を楽しむ風景が、展示室のあちらこちらで見られた。



学芸員の仕事について説明



備品台帳づくりの疑似体験中（実測図体験）

## 第6回 学芸員講座「那覇港 - 往来する人とモノ～展示室探訪のツボ～」

8月28日 参加数 52名 崎原 恭子（学芸員）博物館講座室にて

歴史展示室にはテーマがある。現在は「那覇港 - 往復する人とモノ」で、かつて500年間続いた琉球王国の歴史を語るうえで重要なカギである、那覇港を中心に紹介されている。

その歴史部門展示室に展示中の“首里那覇港図”や“琉球国惣絵図（間切集成図）”を手がかりに、展示室を探訪するツボ（展示を10倍楽しむポイント）が紹介された。

10個のツボの一つひとつの詳細な解説は、展示室を訪れた際にじっくり展示品を見る視点として役立つものとなるだろう。最後に、交易時代で扱われた香辛料などが紹介され、講座終了後に参加者が手にとって臭いを嗅ぎ、当時の港の様子に思いを馳せた。



解説する崎原学芸員



収蔵品資料に見入る参観者

## 第7回 学芸員講座「ここだけのトカゲのはなし」

9月11日 参加数 37名 田中 聡（学芸員）博物館講座室にて

トカゲとはどんな動物かという基本的な内容からはじまり、琉球列島のトカゲ類の多様性の特徴を、それぞれのグループの世界的な分布をふまえて紹介された。また、琉球列島のトカゲ類の分布が、島々の接続・分断や海流によって運ばれたことにより説明している研究事例が紹介された。後半は、学芸員自身が琉球列島の島々で実施した野外研究によって明らかにしたトカゲたちの生態・行動や個体数が激減している現状についての、多くはまだ未発表の「ここだけののはなし」があった。そのなかで、研究者がおこなう調査研究の方法やコツについても実技をまじえて披露された。



解説を行う田中学芸員



未発表の調査報告なので「ここだけのトカゲのはなし」

## 第8回 学芸員講座「八重山上布のはなし」

10月23日 参加数 57名 與那嶺 一子（学芸員）博物館講座室にて

八重山上布とは、どういうものか？

沖縄の織物工芸の中で有名な八重山上布。その材料や制作工程について、模型やビデオを織り混ぜ分かりやすく解説された。人頭税が課された琉球王朝時代、きびしい環境の中で発展してきた織物の歴史。明治の初頭の組合結成から現在まで、様々な改良を加えながら脈々と受け継いできた上布制作の技術の数々の説明に参観者は聞き入っていた。この織物文化を次の世代に引き継ぐために私達にできることは何か。疑似体験などを通して理解者を増やすことことの大切さが訴えられた。後半は特別展（八重山）の会場で、現物の布や機織り機を目の前に解説会が行われた。



八重山上布についての模型等を使い解説



展示会場での解説会

## 第9回 学芸員講座「琉球石灰岩と人々との関わり」

11月27日 参加数 53名 仲里 健（学芸員）博物館講座室にて

琉球石灰岩は身近なところに！

建物の壁や石垣をはじめ、歩道の砂利にいたるまで、生活の中に色々な形で存在する琉球石灰岩。この石灰岩の形成は地質学的には比較的新しく、すき間が多く水分を含む特徴があることなど、琉球石灰岩の形成の過程や特徴が、専門用語を交えながら説明された。

沖縄のいたるところで見ることのできる石灰岩は、水に溶ける性質等からその地形は様々な形に姿を変える。そのような見地から様々な研究の活用対象と成りえる説明は興味を引いた。特に海岸線にある岩の浸食状態で海水面の状態や津波石についての研究ができることなど。身近な存在である琉球石灰岩と沖縄の人々との関わりについて理解を深めた。



解説を行う仲里学芸員



岩石資料に見入る参観者

## 第10回 学芸員講座「オカヤドカリの生活」

12月25日 参加数 30名 濱口 寿夫（博物館班・班長）博物館実習室にて

天然記念物なのに普通に見ることができるためか、あまり注目されないオカヤドカリ 沖縄方言でアーマンガ。天然記念物なのに、ペットショップでも販売されているのは何故でしょうか。実際に生きたオカヤドカリを観察したり、県内の海岸で調査した生殖生態の報告からしだいにその生態を解き明かしていった。

天然記念物の指定とは、その地域のシンボリック生物を皆で守っていくためのものである。しかし、海岸の開発により、オカヤドカリが住む沖縄ならではの自然海岸風景が減少している。

人間にも小動物にも良い環境づくりについて、オカヤドカリから考えさせられた。



早朝採取してきた小動物の数々



オカヤドカリを実際に手に取り、観察会がおこなわれた

## 第11回 学芸員講座「近現代分野の収藏品紹介」

1月29日 参加数 24名 岸本 弘人（学芸員）博物館講座室にて

博物館の収藏品約9万件の内、1万1千件が歴史資料である。

博物館にある多くの収藏品の受入の状況が説明された。これまで多くの人々から預かった品々の取扱いや保存・保管の様子が紹介された。

歴史資料として、今回は戦後から復帰頃にかけての様々な収藏品が紹介された。沖縄たばこ、戦後間もない八重山・久米島の紙幣や郵便切手、パスポート、復帰前に沖縄島と離島を結んだアメリカの航空会社の航空券、特急「なは」の表示板（字幕）戦前沖縄に赴任していた教師のカメラ式など、どれも歴史的価値をもった品々である。講座終了後は、会場内に準備した資料を間近に見ることができ、参加者からの質問が飛び交った。



解説を行う岸本学芸員



貴重な収藏品資料に見入る参観者

## 第12回 学芸員講座「港川人の時代を掘るII」

2月26日 参加数 68名 山崎 真治（学芸員）博物館講座室にて

1万8千年前に沖縄にいた港川人。その研究の最前線を紹介。

沖縄県立博物館・美術館では、新たな人類化石の発見をめざして県内各地で調査研究を進めている。糸満市真栄平鉦山フィッシャー遺跡、南城市サキタリ洞（ガンガラーの谷内）の調査、そして人骨そのものから年代が測定された例としては国内最古の2万年前の人骨である石垣市白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査の数々が紹介された。講座室での座学終了後、展示室での解説会も実施。展示資料を前に、最新の報告に参加者は耳を傾けた。



解説を行う山崎学芸員



展示室での解説会

### 第13回 学芸員講座「美術品鑑定の現場」

3月26日 参加数 57名 平川 信幸（学芸員）博物館講座室にて

博物館での美術品の購入の実際と、調査研究の様子を紹介。

博物館資料は、どのような方法で登録されているのだろうか。博物館資料の中で、特に予算をかけて購入される品物についての鑑定は、どういう風になっているのだろうか。博物館資料として、その位置づけや価値づけが問われる鑑定の現場の様子が紹介された。収集委員会での審議に向けて、担当学芸員が行う資料の調査や諸調整は、日々の研究の蓄積と審美眼によってなされていることが理解できた。



解説を行う平川学芸員



会場の様子

## VI 展示解説会

### 1 展示解説会実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行なう展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月2回、第2・4木曜日 午後2時～3時までの1時間  
場 所：博物館常設展示室

#### (4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から、ふれあい体験室にて受付。  
定 員：15名（当日先着順）

#### (5) 日程

	日 程	分 野	講 師 名	定 員	参加者
1	2010/4/8	人 類	藤 田 祐 樹	15	16
2	2010/5/13	美術工芸	與那嶺 一 子	15	15
3	2010/6/24	歴 史	岸 本 弘 人	15	18
4	2010/7/8	自然史（生物）	田 中 聡	15	15
5	2010/8/12	考 古	羽 方 誠	15	15
6	2010/9/9	民 俗	岸 本 敬	15	16
7	2010/10/14	美術工芸	平 川 信 幸	15	10
8	2010/11/11	歴 史	崎 原 恭 子	15	14
9	2010/12/16	自然史（地学）	仲 里 健	15	16
10	2011/1/13	人 類	山 崎 真 治	15	10
11	2011/2/10	自然史（生物）	濱 口 寿 夫	15	10
12	2011/3/3	ふれあい体験室	池 原 盛 浩	15	10
					165

## 2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。今年度は新たに教育普及担当も加わり、ふれあい体験室の役割について解説した。参加者の内訳は、博物館ボランティアが半数を占め、その他年間パスポートや友の会会員等のリピーターの参加が定着している。昨年度は、各学芸員が2回ずつ担当し、全20回開催したが、今年度は、要望の多い企画展・特別展の展示解説会を増やすため、常設展の展示解説会は各学芸員が1回ずつ担当し、全12回165名（定員15名、平均参加人数14名）の参加を集めた。

また、年間行事計画にはないが、企画展・特別展の展示解説会も行った。「新収蔵品展」を1回、「海のクロスロード八重山」を6回、「琉球陶器の来た道」を2回、「骨の科学」を2回実施した。いずれも、各展示担当学芸員が、展示会の裏話なども交えながら丁寧に解説した。全11回、180名の参加があった。

### 【展示解説会の様子】



美術工芸部門展示室にて（平川）



阿母加那志の装束から（與那嶺）



総合展示室（崎原）



近代沖縄の歴史について（岸本弘人）



ふれあい体験室～ハンズオンとは？～（池原）



古我地原貝塚の話（羽方）



移動して生活する生き物の話（田中）



生物分布と島嶼性の話（濱口）



人の一生にある行事の話から（岸本敬）

## Ⅶ バックヤードツアー

### 1 バックヤードツアー実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事の出来ない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

#### (2) 内容

普段見る事の出来ない博物館内の各部屋を見学する。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第4土曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館バックヤード（収蔵庫・トラックヤード・工作室他）

#### (4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。

定 員：12名（当日先着順）

#### (5) 日程

	日 程	講 師 名	定 員	参加者
1	2010/4/10	濱 口 寿 夫	12	12
2	2010/5/8	藤 田 祐 樹	12	12
3	2010/5/22午前	濱 口 寿 夫	12	13
4	2010/5/23午後	濱 口 寿 夫	12	12
5	2010/6/5	田 中 聡	12	13
6	2010/7/10	羽 方 誠	12	13
7	2010/8/7	仲 里 健	12	16
8	2010/9/4	池 原 盛 浩	12	9
9	2010/10/2	崎 原 恭 子	12	13
10	2010/11/6	與那嶺 一 子	12	14
11	2010/12/4	岸 本 弘 人	12	3
12	2011/1/15	岸 本 敬	12	13
13	2011/2/5	山 崎 真 治	12	13
14	2011/3/5	平 川 信 幸	12	12
				168

## 2 実施状況

バックヤードツアーは、昨年度まで博物館班班長と教育普及担当が月替わりで担当していたが、本年度から、より専門性を生かした内容を目指し、各学芸員が月毎に交替して実施した。昨年同様、安全管理面を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフとの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～収蔵庫～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は各専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。

普段は公開していない博物館の裏側を見学できるという特別感もあり、県外からの観光客を含め、毎回定員を越す希望者を集めた。全14回、168名（定員12名、平均参加人数12名）の参加者があった。公平性を保つため、1人の申込者につき、最大4名の申込みとした。また、各学芸員が月毎に交替して実施することにより、リピーターにも対応できる内容となった。

### 【バックヤードツアーの様子】



集合風景



3階ホワイエにて



自然史実験室にて



トラックヤードにて



大型収蔵庫前室にて



液浸標本室にて



民俗収蔵庫にて



エアチャンバーを覗いてみよう



冷凍室にて



自然史収蔵庫にて



コケの標本資料について



化石収蔵庫に眠る港川人



化石収蔵庫にて



特別収蔵庫前室にて



大型エレベーターに乗って



工作室にて

## Ⅷ 夏休み子ども相談週間

### 1 夏休み子ども相談週間実施要項

#### (1) 趣旨、目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

#### (2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化についてレファレンスサービスを行う。

#### (3) 実施方法

実施日：平成22年8月4日（水）、5日（木）、6日（金）の3日間

時 間：13：00～17：00

対 象：小中学生（ただし、小学生は保護者同伴）

場 所：情報センター・博物館実習室

定 員：特になし

講 師：

4日（火）＝石器（羽方）・生物（田中）・美術工芸（與那嶺）・歴史（岸本弘）

5日（水）＝美術工芸（平川）・民俗（岸本敬）・歴史（崎原）・地学（仲里）・生物（田中）

6日（木）＝石器（羽方）・生物（濱口）・地学（仲里）・民俗（岸本敬）

### 2 実施状況

学芸員が児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究などについて、展示資料や図書を活用しながら、調べ方やまとめ方のアドバイスを行った。館内でのチラシ・ポスターの呼びかけの他、近隣の小学校5校の全児童へのチラシ配布や新聞を通じて事前に相談内容を募集したが、参加者は小学生5名と少なかった。

参加希望者が減少傾向にある上、例年同様、動物や植物など、自然分野をテーマとする子供が多く、考古・歴史・美術工芸・民俗に関する質問は少ないなど、当館の特徴が生かしきれず、課題が残る内容となった。



## Ⅸ ふれあい体験室

### 1 ふれあい体験室の概要

#### (1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

#### (2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感を通して体感できる操作や組立てるなどの遊びを通じて学ぶことで、展示資料を深く学ぶことができます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてがふれることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先祖の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

#### (3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

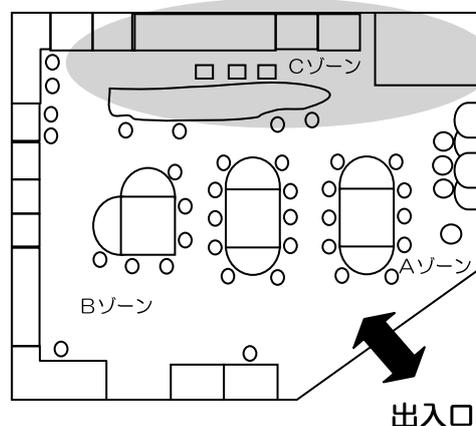
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

#### (4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接的に（一見して）内容が分かる。（見る、触る 等）</li> <li>安全性、耐久性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者が自由に出し入れ出来る。</li> <li>*来館者への手助けは少ない。</li> </ul>
グループ B	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な操作で内容が分かる。（開く、比べる、開ける、押す 等）</li> <li>安全性がある程度確保されている。</li> <li>耐久性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者は自由に出し入れできる。来館者によっては、手助けが必要な場合もある。</li> </ul>
グループ C	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業を通して仕組みや内容が分かる。（組立てる、作る、分類する）</li> <li>細かい部品や安全面での指導、管理を要する。</li> <li>破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフを介してキットを受け渡し、介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。</li> <li>*来館者への手助けが必要ない場合もある。</li> </ul>

見取り図（ゾーニング図）



## 2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル		
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？	1	サインを見逃すな！	自然史	
			2	小さな世界 ～小さいのちの大きな仕事～		
			3	耳をすませば		
			4	この骨だれの？		
			5	サンゴと生きる		
		地史	自然のすがた	6		いろいろなタネ
				7		いろいろな木と草
				8		いろいろな石と砂
			地下にねむる歴史のなぞ	9		見える星座・見えない星座
				10		化石 ～生きていた証～
	11			港川人		
	12			土層と出土品からわかること		
	13			石で築く		
	14			ヌチグスイ		
	人々のくらし	食の知恵	15	イノー ～海の食料庫～	民俗	
		食の習わし	16	御三味 (ウサンミ)		
		生活のくふう	17	いろいろな道具		
		沖縄のコトバ	18	島のコトバ		
		シマの心	19	いろいろな玩具		
			20	いろいろな楽器		
		色のひみつ・形のふしぎ	21	衣からわかること		美術工芸
			22	焼物 ～かたちのわけ～		
			23	漆 ～飾るたのしみ～		
		国のかたち	24	印かんってなあに？	歴史	
			25	島のかたち		
			26	記録のくふう		
			27	国々のおつきあい		



No.4



No.19



No.13



No.17



No.18



No.17



No.23

その他 21種類の、  
ハンスオン資料が  
常設されています。

### 3 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は職員1名（文化の杜共同企業体）と、1日3交替の博物館ボランティアスタッフで運営している。

職員は、常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ3名で構成されており、今年度は、来館者サービスの更なる向上を目指し、スタッフ研修を行った。ボランティアスタッフは曜日毎に6班で構成されており、所属班内で連絡調整することにより、安定した活動を維持している。

### 4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の利用者は、40,556人、（1日平均134名）を数えた。開設より3年を迎え、利用者層が安定し、ふれあい体験室が対象とする世代が見えてきた年であった。

利用者の年齢は、0才児～小学校6年生くらいまでの子どもと大人で、親子で行動をする世代が多くを占めており、展覧会に訪れる来館者をはじめ、特別支援学校や館周辺住民のリピーターも増えている。

今年度の新たな試みとして、ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」（文化の杜共同企業体主催）を実施した。ふれあい体験室の有効利用とアダン葉細工の普及を目的に、毎週土曜日、親子を対象としたワークショップである。参加者は年間を通し、全4種類の作品を仕上げると「てづくりおもちゃの達人」に認定される。その影響もあり、定着したりピーターづくりができたのではないかと考える。2月には、参加者からの要望で、那覇市内の保育園の親子レクリエーションで出前講座を開催した。その他にも、体験キットの更なる活用方法や展覧会に関連する体験を企画した。多くの体験者からは、体感できる喜びの感想も聞くことができた。

今後は、ふれあい体験室の、利用者層が幅広く取り扱える体験キットの活用方法を提案していくことや、新たな体験キット開発が課題になるだろう。

### 5 その他

#### ふれあい体験室の催事

#### (1) 体験キットNo.20いろいろな楽器 「三線を工工四で弾いてみよう」ワークシートの作成

体験で簡単に三線を弾けるようになり、興味を持ってもらうことを目的として、体験キット補足資料と配布用ワークシートを設置した。来館者の要望を受け、簡単に弾くことのできる楽譜を段階ごとに3種類用意した。配布用は、ワークシートになっている。



#### (2) 博物館特別展「海のクロスロード八重山」

～関連体験コーナー「八重山の音楽にふれよう」の設置～  
体験キット 20の活用と、八重山の音楽にふれる体験として、「鳩間節」、「鷺鳥節」、「デンサ節」の工工四を設置した。

#### (3) 平成22年度アイヌ工芸品展「アイヌ—美を求める心」

～関連体験コーナー「アイヌの衣を着てみよう」の設置～  
アイヌ民族衣装の着衣体験コーナーを室内に設置した。衣装は「アットゥシ」、「チカラカラペ」、「ルウンペ」の3種類、全5着。刺繍や切伏せが施された模様の大膽さに感激する様子がみられた。



(4) ふれあい体験室ワークショップ

内 容：アダン葉細工を月毎に種類を変え、カラフルな画用紙で制作する。

日 時：毎週土曜日 10:00/ 10:30/ 11:00/ 11:30

場 所：ふれあい体験室前エントランスホール

講 師：ふれあい体験室スタッフ（文化の杜共同企業体）  
渡辺、屋良、西里、新川

参加費：100円

参加者数：659人（開催日数47日）

4月「馬ぐわーをつくる！」（開催日数4日 / 参加者数64人）

5・6月「金魚と風車」（開催日数8日 / 参加者数155人）

7・8・9月「カエル」（開催日数13日 / 参加者数242人）

10・11・12月「ほしっころ」（開催日数13日 / 参加者数138人）

\*クリスマス期間中は、キラキラ光る画用紙を用いてツリーにデコレーションし、1階エントランスに飾った。

1・2・3月「はぶぐわー」（開催日数14日 / 参加者数124人）



クリスマス期間中の光景



通常の土曜日の光景

(5) ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」inわかさ保育園

内 容：当館で定期開催をしているワークショップが出前講座を開催した。

日 時：2011年2月26日（土）9:30～12:00

場 所：わかさ保育園

講 師：渡部貴子（文化の杜共同企業体）

参加費：1組につき100円

参加者数：70組



(6) しまくとうばプロジェクト12月

「しまくとうばであそぼう～沖縄のわらべうた」

内 容：わらべうたをとおして、しまくとうばに親しむ

日 時：2010年12月23日（木祝）14:00～15:30

場 所：博物館ふれあい体験室

講 師：宮城葉子氏（ていーだぬやがま家一主宰）

参加費：無料

参加者数：30名





## X ボランティア養成事業

### 1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

#### (趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

#### (博物館ボランティアの活動)

第2条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

#### (登録等)

第3条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票（第1号様式）により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長（以下「館長」という。）が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第2様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証（第3号様式）を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

#### (研修)

第4条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

#### (ボランティア室の設置)

第5条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

#### (庶務等)

第6条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

#### (雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

#### 付 則

この要項は、平成5年7月1日から実施する。

この要項は、平成12年8月1日から実施する。

この要項は、平成20年2月13日から実施する。

## 2 博物館ボランティア活動養成事業実施要項

### 1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場を提供するため、博物館支援活動を計画する。この活動は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かで適切なサービスへも寄与する。

### 2 主催沖縄県立博物館・美術館

### 3 内容

- (1) 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア実施要項に基づき実施する。
- (2) 常設展示や企画特別展示の案内ならびに普及部門の支援ができるように養成講座を実施する。

### 4 場所

沖縄県立博物館・美術館講堂及び講座室

### 5 対象

- (1) 「沖縄博物館友の会」のボランティア部会とともに活動できる方。
- (2) 沖縄県立博物館・美術館において養成講座を受講後、ボランティアとして活動に参加する意欲のある一般成人。
- (3) 月曜日をのぞく、火曜日から日曜までのいずれかの曜日で月に2日以上活動できる方。

### 6 申込期間及び方法

平成22年4月9日～4月末日

### 7 ボランティア登録までの流れ

- (1) 募集期間平成22年4月9日～末日まで
- (2) 説明会平成22年5月19日
- (3) 養成講座平成22年5月～7月
- (4) 認証状交付平成22年9月 \* (4) 養成講座修了証交付
- (5) 正式登録平成22年9月 \* (5) 正式登録 - 専門講座終了後  
専門講座（後日提案）平成22年9月～10月

### 8 講座内容と日程

5/19	水	開講式	15:00～	池原	講座室
		博物館活動について	16:00～	濱口	講座室
5/26	水	I P Mについて	15:00～	仲里	講座室
		博物館ボランティア活動について	15:30～	池原・宮平	講座室
6/2	水	歴史	15:00～	崎原・岸本(弘)	講座室
		民俗	16:00～	岸本(敬)	講座室
6/16	水	考古	15:00～	羽方	講座室
		美術工芸	16:00～	平川・與那嶺	講座室
6/30	水	自然史	15:00～	田中・仲里	講座室
		人類	16:00～	山崎・藤田	講座室
6～7月		ボランティア実習	開館時間	池原・宮平	ボランティア室・展示室

博物館への出入りの際は、名札（写真入りのパス）を提示してください。

台風時の講座については、バスの運行があれば実施します。

飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。（ガムを含む）

ボランティア実習は、火曜日から日曜日の開館時間中に、自己申請後受講する。

ボランティア実習の期間は、6月～7月までとする。（1回以上受講する）

未受講の講座については、後日映像による補講に参加してください。（7月に予定）

### 3 平成22年度 博物館ボランティア専門講座実施計画

#### 1 目的

本講座は、博物館の登録ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点にしながら、ふれあい体験室の体験キットや『博物館学習ノート』の意図を理解し、ボランティア活動を円滑に行えるようにする。

#### 2 対象

沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア

#### 3 期日・時間

平成22年9月29日（水）～ 10月27日（水）

15:00～17:00（二時間）

#### 4 場所

沖縄県立博物館・美術館講堂及び講座室

#### 5 内容

展示室、ふれあい体験室、講座室等の三ヶ所でそれぞれの学芸員が解説し、受講生は40分単位で班別に移動する。

1班 = A B C                      2班 = B C A                      3班 = C A B

\* 3つの班を作る（各班20名を予想）

\* 班員は新旧ボランティア混合とする（教育普及班で振分けを行う）

\* 初回の9/29日に、説明会を行う。（開始15分前）

展示室：『博物館学習ノート』の解説を行う。

ふれあい体験室：体験キットの解説を行う。

回数	期日	分野・内容 <各40分移動時間含む>			
		A [展示室]	B [ふれあい体験室]	C [展示室・講座室・実習室]	
1	9月29日(水)	歴史 - 崎原	民俗 - 岸本(敬)	*教育普及(民具体験)	実習室
2	10月6日(水)	*美工 - 平川	歴史 - 崎原 / 岸本(弘)	教育普及(民具体験)*文化の杜	実習室講座室
3	10月8日(金)	考古 - 羽方	美工 - 與那嶺 / 平川	*歴史 - 岸本 弘人	展示室
4	10月13日(水)	地質 / 化石 - 仲里	考古 - 羽方	*美工 - 與那嶺	展示室
5	10月20日(水)	生物 - 田中	地質 / 化石 - 仲里	*教育普及(学校団体受入)	講座室
6	10月22日(金)	人 類			
7	10月27日(水)	民俗 - 岸本(敬)	生物 - 田中	教育普及(接遇)*文化の杜	講座室

タイムスケジュール 1回目=15:00～15:40 2回目=15:40～16:20 3回目=16:20～17:00

『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。

『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。

台風時、暴風警報が発令された場合は中止とします。

飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)

専門講座の補講は、設定しません。

人類の講座は“石垣島での発掘調査”の為、変更の可能性があります。

## 4 博物館ボランティアのてびき

### I 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

### II 活動の方針

- 1 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- 2 ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- 3 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- 4 ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

### III ボランティアの活動内容

#### 1 活動内容

学校向け展示ガイドと体験サポート及び新聞等資料整理

#### 2 ボランティアの担当する職務

展示ガイド

「常設展示室」における展示解説、質問対応など

活動支援

「誘導」「ふれあい体験」「体験学習教室」における体験学習サポートなど

企画調整

ボランティアへの連絡 新聞資料整理

#### 3 ボランティア活動の場所、人員の配置予定

	活動の内容	場所	指定管理者担当	ボランティア
(1)	常設展示対応	ふれあい体験室	1人	2～3人
(2)	学校団体対応	総合・部門展示室 民家・実習室	1～2人	各室1～2人 実習室5～8人
(3)	体験学習教室	民家・実習室	1人+外部講師	5～8人
(4)	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	なし	2～4人

#### 4 運営体制

- ア 博物館ボランティアは、友の会員の希望者と養成講座履修のボランティアとします。
- イ 博物館職員に人文系、自然史系、教育普及の正副担当者をおきます。
- ウ ボランティアに正副会長及び各分野正副の世話係をおきます。
- エ 登録初年度のボランティアに曜日担当世話係をおきます。
- オ 博物館担当者・分野及び曜日の世話係・友の会・文化の杜によるボランティア連絡会を月一回開催します。(第3火曜日15:00～)
- カ 友の会は、ボランティア活動を支援します。(連絡・調整等)

#### 5 経費

- ア 博物館において、ボランティア活動の保険に入ります。
- イ 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。

#### 6 活動日、時間、回数

- ア 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- イ 活動時間は、9時から閉館時間までの時間帯で、3時間程度とします。
- ウ 活動回数は、月に2日以上とします。

## 7 遵守事項

- ア 博物館の諸規則には従ってください。
- イ 博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
- ウ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。
- エ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないでください。

## 8 活動中の事故

- ア ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアまたは他人が怪我した場合は、ボランティア保険の対象となります。
- イ ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身はその責を負うこととなります。

## III ボランティアの活動内容

### 1 活動内容

学校向け展示ガイドと体験サポ

## IV ボランティア活動の組織

### 1 役割分担

- ア 総括教育普及担当
- イ ボランティア担当

		主担当	副担当
	教育普及班	池原	宮平（妃）
	自然科学班	山崎	田中
	人文科学班	羽方	崎原

### 2 ボランティア担当の役割

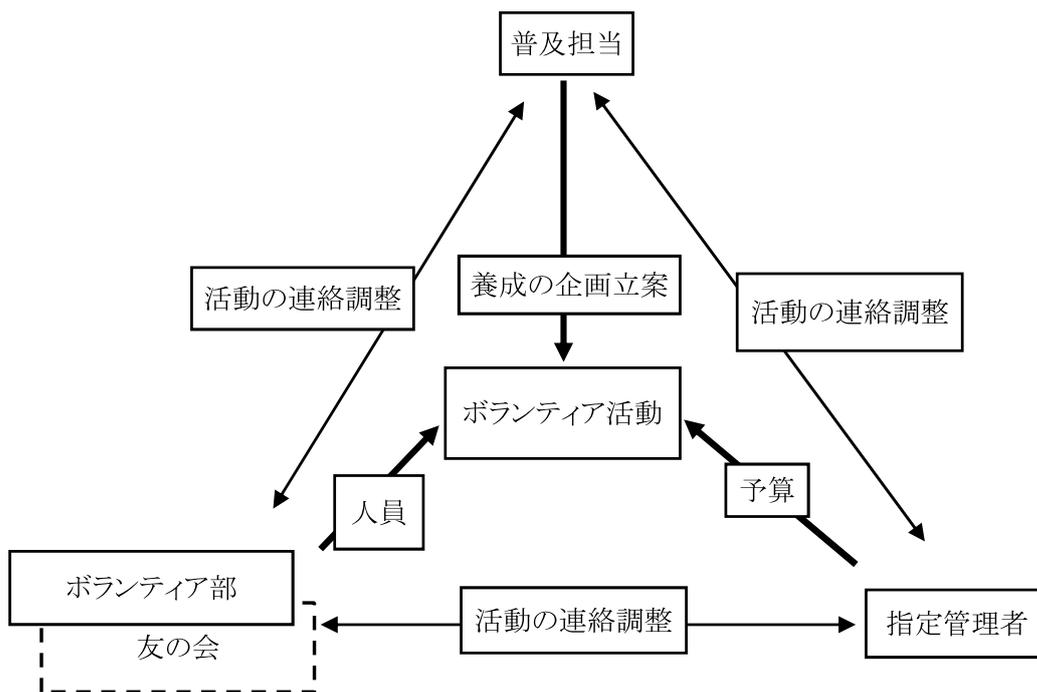
- ア ボランティア応募にかかるそれぞれの班の受付、班員の推薦文。  
(決定後の通知用紙は、教育普及担当が準備。)
- イ それぞれの担当の講座の際の、会場、放送機器取扱、会場整理、出席点検等。  
外部講師等の場合については、教育普及が担当。
- ウ ボランティア養成後の活動に関する企画、調整の補助。

### 3 ボランティアの分野別役員

- ア ボランティアの活動を活性化させるために、ボランティア部長・分野に正副の世話係を置きます。
- イ ボランティア部長は、ボランティア活動を総括し、副部長は部長を補佐します。
- ウ 正の世話係は分野を代表し、各分野の学芸員と連携を取り、副の世話係は正を補佐します。
- エ 世話係は、学習会の企画をし、ボランティア室において、全ボランティアに告知する。
- オ 曜日世話係は、「ふれあい体験室」をはじめとする活動の連絡を行います。

	正	副
ボランティア部会長	松川	
人類学・自然史		
歴史・考古		辻本
美術工芸		*調整中
民俗	大浜	宮良
ふれあい体験		*調整中
体験学習		特に配置無し
曜日世話係（火）		水野
〃（水）	1カ月ごとに交代	*6月真貝～
〃（木）	2カ月ごとに交代	*～5月までは宮良
〃（金）	照屋	島袋
〃（土）		*調整中
〃（日）	辻本	*調整中

## V ボランティア組織図



## VI 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 養成講座 応募者については、資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。
- (2) 登 録 養成講座受講者のうち、当館が定めるボランティア養成講座（専門講座含む）を終了した者で、館長の認定した者を正式登録者とします。
- (3) 登録の更新 登録の活動期間は1年とします。但し、継続を希望し所定の更新研修を終了した者は再登録とします。
- (4) 登録の抹消 登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は登録を抹消することがあります。
- (5) 登録カード 登録者には登録カードを交付します。活動時は携帯してください。ボランティアの継続が出来なくなった際には、カードは返却するものとする。

## VII ボランティア活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らして、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それにもとづいてボランティア活動を改善計画の作成に資することを目的とします。（評価様式は別に作成する）

- (1) 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- (2) 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- (3) 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。

## 5 ボランティア活動の細則

### 1 活動内容

各活動区分における活動の主な内容は以下の通りです。

- (1) 展示解説ボランティア
  - ア 学校団体向け常設展示解説補助  
総合・各部門展示解説補助
  - イ 特別・企画展解説補助  
特別・企画展示室における解説補助
- (2) 活動支援ボランティア
  - ア 誘導
  - イ 体験学習補助  
体験教室・講座・観察会・移動博物館等における指導補助
  - ウ ふれあい体験室  
ふれあい体験室における活動補助
  - エ 各種行事の際の指導補助
  - オ 屋外展示室の活動補助
- (3) 企画調整
  - ア ボランティアへの連絡 新聞資料整理

### 2 研修プログラム

- (1) 養成講座..... 1日2時間で5日間 合計10時間  
例：館長講話、副館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座
- (2) 専門講座..... 1日2時間で5日間 合計10時間  
例：博物館学習ノート、体験キット解説、施設の見学等
- (3) 更新研修..... 1日2時間で2日間合計4時間
- (4) 臨時研修...必要に応じて随時実習  
例：企画展の解説等

### 3 表彰及び昇格規程

- (1) ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰します。(評価の方法は今後検討)
- (2) 最初に正式登録された時点でボランティア初級に認定し、その後2度登録を更新したものを中級とします。

### 4 ボランティア活動時の服装等について

- (1) ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書としてボランティア登録カードを交付します。
- (2) ボランティア活動を行う場合は、原則として県職員の身なりに準ずるものとし、ボランティア登録カードを身につけるものとします。

### 5 ボランティア室の使用について

- (1) ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。
- (2) ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
  - ア 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
  - イ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用
  - ウ 来館者を発見へと向わせるような発問研究
  - エ ボランティアのための休憩
- (3) ボランティア室には勝手に私物をもちこまないでください。  
(個人の持ち物は、自己の責任で管理してください。)
- (4) ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時までとします。
- (5) ボランティア室は原則として使用したものが清掃するものとします。

## 6 博物館継続ボランティア 登録証交付式

### 【博物館継続ボランティア】

平成22年度 博物館ボランティア 登録証交付式 2010. 5. 12. 教育普及池原

#### 1 趣旨

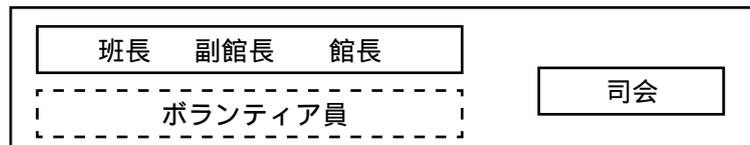
- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営面で更改された事項を確認する。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

#### 2 日時

平成22年5月12日（水）博物館講座室（15時00分～15時30分）

#### 3 場所

博物館講座室司会



#### 4 式順司会 宮平 妃奈子

館長あいさつ牧野 浩隆 館長

登録証 交付（代表受取：桑江ボランティア部副会長）牧野 浩隆 館長

学芸員紹介濱口 寿夫 博物館班長

ボランティアの活動紹介松川 潤一郎 ボランティア部会長

文化の杜共同企業事業体代表あいさつ運天 寛栄 文化の杜共同企業体統括

#### \* 登録証 裏面

##### 《ボランティア活動の諸注意》

- ・博物館の諸規則には従ってください。
- ・博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
- ・博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。
- ・博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないでください。
- ・博物館ボランティアとして館外で活動する際には、必ず館職員の許可を得てください。
- ・博物館ボランティアを辞める際には博物館ボランティア登録証（本カード）を返却してください。

〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Tel(098) 851-5401 Fax(098) 941-3650

### 登録証交付式終了後 ボランティア員全体会

15時30分～16時30分

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員  
進行 宮平 妃奈子

#### 1 本年度のボランティア活動について（20分）池原 盛浩

『博物館ボランティアのてびき』読み合せ

#### 2 質疑応答 （10分）

----- \* 曜日別に座席の移動 \* -----

#### 3 曜日別グループミーティング （20分）

（自己紹介、世話係選任、年間活動計画案など）

#### 4 事務連絡 宮平 妃奈子

## 7 博物館新規ボランティア 登録証交付式

### 【博物館新規ボランティア】

平成22年度 博物館ボランティア 登録証交付式（新規）

#### 「平成22年度博物館ボランティア専門講座」 閉講式

##### 1 主旨

ボランティア専門講座を修了した者に、博物館のボランティア活動の主旨や今後の日程などを含めた確認事項等を説明し、周知徹底を図る。

##### 2 場所

沖縄県立博物館・美術館 講座室

##### 3 日時

平成22年10月27日（水）17：10～17：30

##### 4 閉講式次第

進行：宮平妃奈子

(1) 館長あいさつ 県立博物館・美術館 館長 牧野 浩隆（5）

(2) 登録証交付 県立博物館・美術館 館長 牧野 浩隆（7）

(3) 激励のことば ボランティア部長 松川潤一郎（3）

(4) おわりの言葉文化の杜共同企業体 社長 平良 知二（3）

.....

#### 登録証交付式終了後 ボランティア員全体会

17時30分～18時00分

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員

進行 宮平 妃奈子

-----\* 曜日別に座席の移動 \* -----

目的 曜日単位のグループに、新規ボランティアを迎える。

ボランティアの正式活動ができるように、仕事内容を確認する。

1 曜日別グループミーティング 世話係を中心に進行する  
(自己紹介、活動計画などの確認)

2 事務連絡 教育普及担当：池原 盛浩より

平成22年度 沖縄県立博物館・美術館の博物館ボランティア養成講座受講生の募集

沖縄県立博物館・美術館では自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動を活性化するためにボランティアの増員を計画しています。つきましては、博物館ボランティア養成講座を実施しますのでよろしくお願いたします。

募集人員・内訳  
・ 60名

応募資格

- ・ 当講座終了後、「沖縄県立博物館女の会」のボランティア部会とともに活動できる方。
- ・ 当講座終了後二週間に半日以上当館においてボランティア活動できる方。

申込期間及び方法

- ・ 平成22年4月9日(金)～4月30日(金)
- ・ 電話連絡による申込(定員を超える場合は、先着順とする。)
- ・ 問合せ先 電話(098)941-8200 FAX(098)941-2392 沖縄県立博物館・美術館 (文化の杜 中村)
- ・ 受付:9:00～18:00(月曜日を除く)

講座の日時・場所

- ・ 平成22年5月19日(水)～6月30日(水)まで
- ・ 毎週水曜日、15:00～17:00

- ・ 沖縄県立博物館・美術館 講座室

ボランティア登録までの流れ

- ・ 募集期間 平成22年4月 開講室 平成22年5月19日(水)
- ・ 基礎講座 平成22年5月～7月 登録申請 平成21年8月 登録証交付式 平成22年 9月

日精表

回数	内 容	日 時	形態	担当学芸員
1	博物館活動について	5月19日(水)	講	濱口班長
2	博物館ボランティアについて・IPMIについて	5月26日(水)		池原・宮平(妃)・仲里
3	歴史・民俗	6月2日(水)		崎原・岸本(弘)・岸本(敬)
4	考古・美術工芸	6月16日(水)	座	羽方・平川・興那嶺
5	自然史・人類	6月30日(水)		田中・仲里・山崎・藤田
	ボランティア実習	6月～7月	実習	池原・宮平(妃)

ボランティア活動の内容

- ① 展示ガイド(小中学校の児童生徒対象)  
「博物館常設展示室」において、展示資料の案内、質問対応などを行う。
- ② 体験サポート  
「ふれあい体験室」「博物館実習室」を中心とした、体験学習サポートなどを行う。  
・小4対象の民具体験・体験学習教室のサポート・ふれあい体験室のサポート
- ③ 特典として、博物館常設展の入館料免除、月1回のボランティア通信の送付。  
ボランティアを対象とした学習会への参加。

あなたも県立博物館・美術館で  
博物館ボランティアとして活動してみませんか？

# 博物館ボランティア 養成講座受講生募集！



ふれあい体験室

沖縄県立博物館・美術館で、博物館ボランティアとして、活動できる方を対象に、平成22年度ボランティア養成講座を開催します。

現在50名余りの方が頑張っています。一緒に活動してみませんか？



展示ガイド(歴史)



民具体験サポート

- ボランティア活動内容
- ・ 学校団体を主とした展示ガイド・体験サポート
  - ・ ふれあい体験室サポート
  - ・ 教育普及事業への支援 など

申し込み期間  
4月9日(金)～  
4月30日(金)

ご興味のある方は、電話でお気軽にお問い合わせください

沖縄県立博物館・美術館 那覇市おもろまち3-1-1 tel (098)941-8200 fax(098)941-2392  
開館時間: 9:00～18:00(金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

## 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア養成講座 修了証書

〇〇〇〇殿

貴殿は平成二十二年度沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア養成講座の全課程を修了したことを証します

平成22年6月30日  
沖縄県立博物館・美術館  
館長 牧野 浩隆

\*5月のボランティア会議は5/18(火) 15:00~17:00 ボランティア室にて\*  
\*各勉強会世話係、曜日の世話係の皆様は出席をお願いします\*

**\*5月の行事(博物館)\***

- 5/8(土) 14:00~15:00 ハックヤードツアー
- 5/13(木) 14:00~15:00 展示解説会(美術工芸)
- 5/15(土) 14:00~16:00 文化講座「古琉球と琉球アザラシについて」  
講師・上里篤史氏(早稲田大学琉球・沖縄研究所客員研究員)
- 5/22(土) 14:00~16:00 学芸員講座(人類)  
「動物の運動と姿勢のみつづ」  
※会場・受付方法など詳しい情報は別紙「博物館の催し物のご案内」をご覧下さい

**新任職員のご紹介**

池原 盛浩(いけはら もりひろ)  
4月より教育普及担当になりました池原盛浩です。前任の上原成美先生同様、中学校の美術教師を長くやっています。  
3月まで与那国の久留良中学校に勤務していました。趣味はスケッチと読書です。特に伝統工芸品に興味があり、ボランティアの皆さんのご協力のもと、博物館で多くのお話をできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



宮平 妃奈子(みやひら ひなこ)  
4月から宮平真由美さんの後任で任用された宮平妃奈子です。ボランティアの皆さんと一緒に活動出来ることをとても嬉しく思います。ラッキー着なので、いつでも声掛けをお願いします。



**\*5月の勉強会\***

- 民俗勉強会：5/22(土) 10:00~12:00  
ボランティア室(ヤドウィンガーの館)
  - 歴史勉強会：5/8(土) 10:00~12:00  
3F研修室
  - 美工勉強会：5/16(日) 10:00~12:00  
ボランティア室
  - 自然勉強会：5/22(土) 9:30~12:00  
アリの観察会 in 末吉公園(現地集合)
- 参加希望の方は必ずボランティア室の募集用紙に氏名を記入するようお願いします。

**《民俗班の勉強会のお知らせ》**

「やんばる視察研修」民俗の旅 =いざ!山原へ= 目的：博物館常設展示、民俗部門展示室の内容をより理解するため。  
日時：平成22年6月16日(水) 9:00~17:00  
集合時間 8:30(県立博物館バス駐車場)  
場所：名護市幸善堂(築地地区)、本部町備前集落(福木並木)、その他  
参加費用：(バス費2,000円(弁当、飲み物は各自持参すること))  
定員：25人 申込受付：5月22日(土)までに、参加費用を添えて 沖縄博物館の缶水野まで  
※民俗勉強会の6月行事です。民俗ガイドを希望する方を優先とします。

**館からのお知らせ**

- ◆ボランティア登録に関するお知らせ◆  
ボランティア登録票(少し厚手の用紙)の提出締め切りを5月7日(金)までとしました。  
ボランティア室(控室)にも掲示してありますが、お名前のない方は継続登録が出来ません。まだの方は、御確認の上、早めの提出をお願いいたします。締め切りが過ぎてしまった場合、新規の方々の登録と一緒に再登録は9月以降になります。ご了承下さい。
- ◆ボランティア登録証交付式のお知らせ◆  
日時：5月12日(水)  
時間：承認式15:00~、全体会16:00~  
場所：博物館1階講座室

**\*文化の杜です(20)\***

こんにちは、ふれあい体験室から運部です。ふれあい体験室はたくさんのお話を聞いたボランティアの皆さんが活動の場として積極的に参加して頂くことで、来館者と博物館をつなぐ「ふれあい空間」が成り立つと感じています。キツトを介し、地域のボランティアの方々と遊んだり、お話をする中で、一緒に考えたり、そして楽しみになりました。博物館に来てこんな経験ができるなんて、ふれあい体験室はともすてきな場所だなあと私は思います。もうすぐゴールデンウィークがやってきます。ふれあい体験室にもたくさんのお客さんがいらっしゃることでしょう!活動をお願いします。(運部)

\*6月のボランティア会議は6/22(火) 15:00~17:00 ボランティア室にて\*  
\*各勉強会世話係、曜日の世話係の皆様は出席をお願いします\*

**\*6月の催し物(博物館)\***

- 6/5(土) 14:00~15:00 ハックヤードツアー  
解説：田中学芸員 / 定員 12名 / 当日 9:00 から総合案内にて受付
  - 6/19(土) 14:00~16:00 文化講座  
「江戸の女性の衣生活(いせいかつ)」  
講師：長崎麻(いわお)氏(共立女子大学教授)  
江戸時代の女性たちの衣生活の流行と変遷について。  
/ 定員 200名 / 3F 講堂 / 当日先着
  - 6/24(水) 14:00~15:00 展示解説会(歴史)  
解説：岸本学芸員 / 定員約 15名 /  
当日 9:00 から「ふれあい体験室」にて受付  
/博物館 常設展示の入場券が必要
  - 6/26(土) 14:00~16:00 学芸員講座(考古)  
「沖繩の遺」講師：現学芸員 / 定員 80名 /  
1F 博物館講座室 / 当日 13:30 から会場にて受付
- ※別紙「博物館の催し物のご案内」もあわせてご覧下さい

**館からのお知らせ**

継続ボランティアの登録証交付式が終わり、ピンク色の名刺の活動が始まりました。  
さらに(新規)ボランティア養成講座も開講(毎週水曜日)し、本格的に今年度のボランティア活動のスタートです。  
今年度は特別支援学校からの来館が多く、特に「ふれあい体験室」を利用した体験学習が充実しています。各分野の勉強会でも、ふれあい体験室を活用して下さい。

- 1 新規ボランティア養成講座への、継続ボランティア員の招集もOKです!  
→講座の日程は、ボランティア支援室に掲示してあります
  - 2 新規ボランティアの講習を、ふれあい体験室で行っています。  
→先輩ボランティアの皆様からの暖かい指導をお願いします
  - 3 継続ボランティアの登録証をまだ受取っていない方!  
→博物館班(教育普及;池原)までご連絡下さい
  - 4 ボランティア終了後の出席簿への記入を忘れず!  
→活動記録(実績)のない方は、次年度の登録ができなくなります
  - 5 民俗分野の「展示ガイドマニュアル」が完成しました!  
→ガイドマニュアルを無償で配布しています。但し、学校団体への展示ガイドができる方、やりたいと思ってる方優先です。  
☆ボランティア養成講座への、登録ボランティアの掲載もOKです!
- ★継続の登録証をまだ受取っていない方は、博物館班(教育普及;池原)までご連絡下さい!  
(博物館班 池原)

**\*6月の勉強会\***

- 民俗勉強会：6/16(水) 民俗の旅 =いざ!山原へ
  - 歴史勉強会：6/12(土) 10:00~12:00  
福州園見学 講師：木村進氏 現地集合(駐車場あり)
  - 美工勉強会：6/20(日) 10:00~12:00  
ボランティア室 平川・与那瀬守芸員による
  - 5/15 展示替後の美術工芸展示室の展示解説会  
自然勉強会：6/26(土) ホタル観察会  
(場所・時間決まり次第表紙します。)
- 参加希望の方は必ずボランティア室の募集用紙に氏名を記入するようお願いします。

**\*文化の杜です(21)\***

45名の受講生を迎え、5月19日から第4期のボランティア養成講座が始まりました。初年と同様、全5回の連続講座を予定しています。現役ボランティアの方も参加いただけますので、ボランティア室の掲示板で日程と内容をご確認ください。

5月12日に開催された「ボランティア再交付式」では、活動の際に車を利用される方用の「駐車場利用許可証」を配布しました。今年度は「水色」の用紙となり、6月中旬お配りした「白」の許可証は使用できませんので、6月中旬に切り替えをお願いします。許可証は、ボランティア証と一緒にお渡ししていますので、まずは博物館班の池原さんか宮平妃奈子さんにお声をおかけください。(中村)

\*\*ボランティアの皆様、いつもありがとうございます\*\*

\*7月のポラントエイア会議は7/20(火) 15:00~17:00 ポラントエイア室にて\*  
\*各勉強会世話係、曜日の世話係の皆様は出席をお願いします\*

館からのお知らせ

去った6月1日に民俗分野によるヤカジ制作勉強会がありました。ヤカジは、ユッカノに男の子の玩具として飾られていたもので、講師の赤崎隆彦さんは、復元に向けて試行錯誤を繰り返したそうで、当日は参加者分の材料・道具を全て準備していたいただきました。学習員3名(池原・岸本(敬)・宮平(悠))も同席し、4名の方がヤカジの制作に取り組みました。大塚さん制作のヤカジが現在ポラントエイア室に展示されています(A3サイズ)。「もう一度作ってみよう」という言葉も出ています。それぞれが他の人に教えられるようになったら、来館者に向けて発信していけるのでは・・・とワクワクしています。



6月24日(水)には、民俗班による展示ガイドマニマニの完成報告会があり、松川氏をはじめ、5名のメンバーが館長へ挨拶、牧野館長、千木良副館長、濱口班長、岸本教育学委員、教育普及の2名(池原・宮平)が報告会に参加しました。池原教育学委員の元、報告会中はやかに進行し、民俗班の努力の結晶であるガイドマニマニが、館長に手渡されました。7月3日(土)の民俗班の勉強会の後、どんどん活用されていくことになるでしょう。初稿の完成の喜びも冷めやらぬ間に改訂版の話し合いも進んでいます。意欲的な姿勢に脱帽でした。歴史やその他の勉強会もガイドマニマニに取り組みたいというお話が出ています。是非、みんなでもガイドマニマニに参加して展示ガイドを充実させていきましょう。

6月30日(水)には、ポラントエイア教室の勉強会が終了しました。受講生の体験活動の場とさせていたいただきました。先週ポラントエイアのアドバイスが今後の登録への不安を払拭してくれたと思います。ご協力ありがとうございました。10月の本登録に向けて、専門講座(9~10月)までの期間も博物館へ足を運んでいただけでも、受講生の今後の方向性を固められています。決まらずに学校対応は活動があります。9月からの民具体験に向けての勉強会を持ってたらと本講座から案外なまじり。決まらずに楽しくなりました。楽しい活動は笑顔に繋がります。是非ともお楽しみください。新聞スクラップを1人でも楽しめるようにマニマニを作りたいと思っています。しばらくお待ちください。

【お知らせ】

※みなさんの活動記録を月末にチェックします。(月2回以上の活動をしているが)

ポラントエイア室のテーブルに置かれている活動記録簿へ来記入が無いか確認をお願いします。ふれあい体験室の活動がよく振付ています。記入のほどお願いします。(活動日を送ってしまつた場合は、スタッフに確認してみてください)

\* \* 7月の博物館催し物のご案内 \* \*

\*7月の勉強会\*

- 民俗勉強会：7/3(土) 10:00~12:00  
3F 研修室 / 配布済みのポラントエイアガイドマニマニの読み合わせを行います(ガイドマニマニアル持参) まだガイドマニマニを受領してない方は当日配布します
- 歴史勉強会：7/10(土) 10:00~12:00  
3F 研修室
- 美工勉強会：7/10(土) 10:00~12:00  
ポラントエイア室 / 展示品の勉強「宝ものを探そう」
- 自然勉強会：7/24(土) 10:00~12:00  
ポラントエイア室 / 小学生向け学習ノート勉強会

\* \* ポラントエイアの皆様、いつもありがとうございます \* \*

◆◆◆ 館からのお知らせ ◆◆◆

子どもたちは 夏休み!  
博物館に毎日多くの子どもたちがやってきました!!  
特に、『ふれあい体験室支援サポート』への皆様のご協力を、よろしく願います!!

- 8月19日(木) 特別講演会  
前沖縄協会会長、文学博士の児玉正任氏の特別講演会が無料で開催されます。年間計画に入っていない貴重な講演ですが、内容の充実した講演が期待されます。ポラントエイアの皆様、多くの参加をお待ちしています。入場無料です。
- 7月25日(水) 体験学習教室  
『昆虫標本を作ろう』を開催します!! 現在当日のポラントエイアスタッフを募集中です。また、事前の昆虫標本づくり勉強会を8月11日(水)に開催します。ご協力をお願いします。

○ポラントエイアガイドマニマニの取扱いについて  
民俗勉強会制作の『民俗部門展示ポラントエイアガイドマニマニ』に関して、販売はしていないの?とご意見をいただくことがあります。ポラントエイア連絡会で確認したことは学校団体への対応など外部からの問合せがあります。ポラントエイア自身のために、作成したものは博物館の情報が詰め込まれた、虎の巻である。>



- ・販売はしない 情報センターへ置かない(コピー防止)
  - ・ふれあい体験室には閲覧のみ可能とする。
  - ・その冊子を持つものは、その管理に責任を持つ。(コピー等をしない、させない)
- 以上のことに関して、ご理解とご協力をお願いします!

文化の社です(23)

夏休みシーズン到来! 連日、夏休み期間中の子供たちや、親子連れで大変賑やかな時期です。ふれあい体験室では、ポラントエイアさんと遊ぶ子供たちの姿がとて嬉しそうに見えます。汗をたくさん掻いておぼろおぼろ夢中になり、石積みハズルを協力し合っつてひたひた積み上げ、昔の話を聞きながら民具を体験し、三線を歌ってもらいます。  
遊びのなかで“謎”と出会います。「なんでだろう?」ここからがじまです。私は、その発見に立ち会える瞬間が大好きです。ポラントエイアの皆さん、ふれあい体験室で楽しい活動をお願いします。(渡部)

8月の勉強会

- 民俗勉強会:8/7(土) 10:00~12:00  
ポラントエイアガイドマニマニ読み合わせ
- 歴史勉強会:8/14(土) 10:00~12:00  
ポラントエイアガイドマニマニの作成
- 自然勉強会:8/28(土) 10:00~12:00  
中学生用ガイドマニマニの作成
- 美工勉強会:8/29(日) 10:00~12:00



\* \* ポラントエイアの皆様、いつもありがとうございます \* \*

## 《移動展》のお知らせ

10月29日(金)～31日(日)までの3日間、石垣市民会館におきまして毎年恒例の移動展を開催します。

今年は、恐竜の骨格標本や港川人の復元模型をはじめ、美術館からは名産山愛順の作品を約20点展示する予定です。昨年の久米島での開催では、約1,200名の来場者が訪れました。土日には、体験教室などの催事も予定しています。実費負担となりますが、ぜひボランティアの方々のご協力をお願い申し上げます。

宿泊先や航空チケットの手配については、中村もしくは友の会事務局までお問い合わせ下さい。

【参考：ANASカイホリデー、やった値！石垣島(1泊19,800円～)】

## 館からのお知らせ

10/23(土)・24(日)に体験教室「八角風を作ろう」があり、10月あたままでは当日サポーターしていただける方へ向けての事前勉強会を予定しています。(現在調整中)。詳しい日程や内容が決まり次第、ボランティア室に掲示させていただきます。

### 9月の勉強会

民俗勉強会：9/4(土) 10:00～12:00  
「ボランティアガイドマニュアル検証(実習) 民俗部門展示室」

歴史勉強会：9/11(土) 10:00～12:00  
「ボランティアガイドマニュアルの作成」 3F研修室

美工勉強会：9/19(日) 10:00～12:00  
「美術工芸の不思議を探る」 ボランティア室

自然勉強会：9/25(土) 10:00～12:00  
「ワークシート作成」 ボランティア室

館からのお知らせは、裏面にも続きます。ご覧下さい

ボランティア活動の一環として新聞スクラップ作りを楽しく行っています。いつでも、ボランティア室に集合して下さい。

\*\* ボランティアの皆様、いつもありがとうございます \*\*

## 館からのお知らせ

### 〇夏休みの「ふれあい体験室」サポーターお疲れさまでした！

夏休み期間中のサポーターお疲れさまでした。企画展などの影響もあって、興南高校の試合の日以外、朝から沢山の方が来館。ふれあい体験室は、いつも満員御礼状態でした。スタッフも対応に追われ、てんやわんやでしたが、ボランティアのみさんのサポーターもあって無時夏休みを乗り切りました。熱中症の危険性が叫ばれる酷暑の中、何度も足を運んでいただきました本当にありがとうございました。ご協力に感謝いたします。

### 〇体験教室「昆虫標本をつくろう」無事終了。☆＼(o)/☆

去った8月25日(水)に、佐々木先生(琉大・風刺館学委員)と松村先生(昆虫同好会会員、当館の昆虫標本のメンテナンス担当)を講師としてお招きし、親子22組向けに命の尊さと昆虫標本作りの意義についてお話しいただき、標本作製のレクチャーをしていただきました。琉大の学生(あかねさん)とOB(後藤さん)も助手として参加。ボランティアの方々も風刺館での打ち合わせから事前勉強会を経て当日のサポーターまでご協力ありがとうございました。

・坂平寛子さん・松川郁子さん・辻本淳二さん・藤江千鶴子さん・高嶺英恒さん・大瀧シゲさん・豊原武三ヨ子さん  
・内岡真理子さん(当日)

### 〇民具体験教室が始まりました！

9月からは体験教室の受け入れが始まります。既に十数校の面談を終え、調整に入っています。年末に向けてどんどん予約が入ってきています。忙しい季節の再来です！

スタッフの方やボランティアの方々の声を聞き、今年から、体験学習のプログラムの内容が少し変更になりました。そこで・・・

①	9/9	那覇市立安瀬小学校	4年	117名	3クラス	民具体験サポーター・展示ガイド・誘導
②	9/15	八重瀬町立具志頭小学校	4年	57名	2クラス	民具体験サポーター・展示ガイド・誘導
③	9/17	南城市立馬天小学校	5年	72名	2クラス	民具体験サポーター・展示ガイド(自然も)・誘導
④	9/24	那覇市立宇栄原小学校	4年	89名	3クラス	民具体験サポーター・展示ガイド・誘導
⑤	9/29	糸満市立兼原小学校	4年	86名	3クラス	民具体験サポーター・展示ガイド・誘導
⑥	9/30	那覇市立石嶺小学校	4年	142名	4クラス	民具体験サポーター・展示ガイド・誘導

～9月の民具体験のサポーター(誘導、民具体験、展示解説、模型解説など)に入られる方へご案内～

### ☆説明会9月1日(水) 実習室にてAM9:30～(1時間程度予定しています)

説明会のお知らせは、8月あたままには、ボランティア室に貼り出しております。ご確認ください。

10月以降のサポーターボランティアの方々は、「専門講座」の方でご説明させていただきます。「早めに聞いておきたい」という方も、どうぞご参加ください。

ボランティア通信に載せきれなかった(出した後に決まった)もの等は、ボランティア室に掲示されています。ぜひ、活動(月に2回以上)の際にご確認ください。

## 民具体験学習がはじまりました

小学校4年生の民具体験学習の季節にはいりました！今年学習プログラムを「ボランティアの皆さんも是非受講していただきたい」に変更しています。皆さまの支援サポート(ご協力)をよろしくお願ひします。詳しくは、専門講座の中で紹介していきます。！！

## ボランティア専門講座が開催されます

ボランティア専門講座が始まります。主たる対象者は4期生のボランティアの皆さんですが1～3期生の皆さんも是非受講していただきたいとご案内します。民具体験プログラムの変更についての説明や学芸員からの最新情報の講話があると思います。都合で参加出来ない場合は教育普及(宮平紀奈子)までご連絡下さい。

初回は9月29日15時～ 10月27日まで全7回です。

- 10月の勉強会  
民俗勉強会:10/2(土) 10:00～12:00  
「民具ガイド・演習(実習)」・池原学芸員
- 歴史勉強会:10/9(土) 10:00～12:00  
「ボランティアガイドマニュアルの作成」  
3F研修室
- 美工勉強会:10/3・10/17(日) 10～12時  
「美術工芸の不思議」を探る  
ボランティア室
- 自然勉強会:10/23(土) 10:00～12:00  
「ワークシート作成」  
ボランティア室

【八風風を作ろう】を開催します。  
当日のボランティアスタッフを募集中です。

事前の風作り勉強会を10月2日(土)  
午前9時～12時に開催します。  
ご協力をお願いします。

### 教育普及に助っ人3人採用

9月より緊急雇用として3月まで佐藤さん・浦底さん・興盛さんが配属されました。ボランティアの皆さんと一緒に働く機会が多いと思いますのでよろしくお願ひします。

■文化の社から ■ 学校団体が来館するシーズンとなりました。博物館の池原さんを中心に、プログラムの見直しを行っていますが、ボランティアの方々からの戸惑いの声も耳にします。私としても、開館から3年たち、見直しの時期に来ているのではないかと考えています。今、実施しているプログラムが完全ではなく、児童生徒に博物館をより有効利用してもらおうと、皆さんからのご意見を伺いながらプログラムを練り直していきたいと思っています。また、9月から教育普及にも緊急雇用のスタッフ3名が加わりました。期間は限られていますが、学校団体の受け入れに立ち会いながら、プログラム実施校からの感想をとりまとめたり、他の博物館が団体に対してどのような受け入れをしているのか調査した上で、当館における課題を明確にできればと思っています。ご指導とご協力をお願いします。(中村)

\*\*\* ボランティアの皆様、いつもありがとうございます \*\*\*

## 伝統的な集落を訪ねて

民俗班によって、すばらしいガイドマニキュアルが作成され、民俗展示室の「村落をとりまく世界」の写真の地を訪ねる勉強会が6月16日に実施された。

① 名護市幸喜集落と宮里の前又お嶽、②本部町備瀬の福木並木と具志堅の神アサーギ、③今帰仁村崎山の神ハサギを訪ねました。

幸喜集落は北側の杜の中にある御嶽を背に南側のイノーに向かって扇状に村落が広がりに東に川や井戸、畑があり、西の入口には村墓を配した集落形成の条件を備えた伝統的な集落である。集落歩きながら、この地での狩猟、農耕、漁撈を営んできたであろう先人達の生活文化に思いを馳せ感動した。

また、戦後普及したセメント瓦の発祥地が名護市であった事を初めて知りました。台湾帰りの職人が南国対風瓦として製造し、戦後復興に寄与したとの事でした。

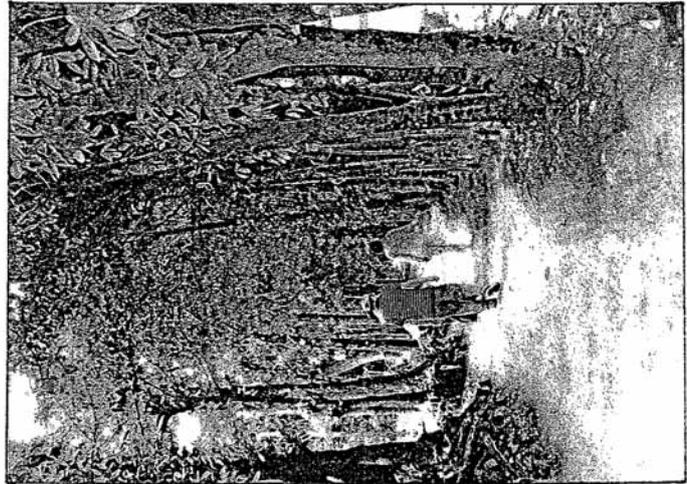
備瀬集落では、野づら積み石の石垣の内側に防風、防火、房瀬、防砂の役割を果たす福木を植えた屋敷囲いと先人達の生活の知恵と工夫が築きあげた、沖縄の気候風土を考慮した伝統的な住居形式を観る事が出来た。

今回の勉強会を通して多くの事を学び、改めてフィールドワークの大切さを実感した有意義な一日でした。

勉強会の為に事前調査をしていただいた世話係の皆さん、ガイドマニキュアル作成委員の皆さんに厚く感謝の意を表します。

2010年8月12日

島袋 美智子





# 謹賀新年

## 新年のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館副館長 千木良 芳範

ボランティアの皆さん、明けましておめでとうございます。新たな年の始まりに、博物館から、短くも熱いメッセージをお送りします。

昨年は皆さんにとって、サブライズな一年だったことでしょう。とりわけ、これまでに頑張ってきた登録ボランティアの皆さんには、少なからずのたまごもあつたと思います。博物館としては、あらためてボランティアの方向性を確認し、新たな活動を開始した一年であったと受け止めています。

私たち(学芸員やボランティア)は、博物館という舞台で、どれだけのことができるのでしょうか。また、舞台の上にいる私たちは、本当に最高のパフォーマンスをみせているでしょうか。昨年の活動転換のスタートは、まさにここにあります。目指すゴールは、すべてのお客様(児童生徒や一般観覧者)の笑顔です。それはまたお客様という鏡に映った、私たちの姿勢でもあります。おたがいの最高の笑顔のために、今年も、また一緒に頑張ります。

## ボランティアの皆さんへ 今年もよろしく

文化の社共同企業体代表 平良 知二

2011年が良き年でありますよう、ことしもよろしくお願い致します。  
文化の社共同企業体は引き続き鹿児島県立博物館・美術館の指定管理者となることが決まりました。今回は5年間の契約(11年4月～16年3月)となります。これもボランティアの皆さんはじめ関係者の協力があり、この間の実績が認められた結果だと思っています。感謝を申し上げます。

全国に負けない素晴らしい施設にするため、今年も一輪に頑張ります。

## あけましておめでとうございます。

### 博物館班

旧年中は、ふれあい体験室や体験学習教室、様々な学校・学年に対応した各種博物館学習プログラム、移動展ワークショップをはじめ、発送業務や新聞スクラップ、資料整理など様々な方面から沢山のボランティアの方々による温かいご支援を賜りまして誠に感謝しております。

後期には、4期生も仲間に加わり、ますます活気づいてきました。特に民具体験学習におきましては、プログラムの変更で色々ご心労をおかけしましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで無事終えることができました。大変ありがとうございました。

年明けからしばらく、学校対応等に關しましては、やや精進を取り戻しますが、この間を利用して、ふれあい体験室やボランティア室、実習準備室等の整備、新聞スクラップの整理を行いたいと思っております。また、各分野の勉強会や学芸員講座、文化講座や体験教室等が随時ございますので、是非足を運んでいただけたらと思います。

2011年もボランティアの皆様と共に、沖縄県立博物館・美術館を盛り上げていきたいと思っております。ボランティアの皆様にご多量の皆様のご来場とご来室ご多量をご清栄ご多量を願って、新年の挨拶と代えさせていただきます。本年も県立博物館・美術館をよろしくお願ひ申し上げます。

### ☆学校団体プログラム対応お疲れさまでした。

4月の大山小学校から始まり、12月の東風平小学校まで、全32校への対応がありました。前半は、中学生や6年生、特別支援学校の生徒達が来館し、主に良縁の迎いや琉球交易時代、自然のコーナーを解説サポートしていただきました。9月からは、4年生に向けて民具体験プログラムを開始し、体験サポートから解説、読書など各校に対応した内容でのサポートにこ尽力いただきました。その間に2年生の来館もあり、自然コーナーを自然班の方々に対応していただく場面もありました。プログラム改編でバタバタの中、ご迷惑も沢山おかけしましたが、ボランティアのみなさんが快くサポートを引き受けてくださり、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

その他のボランティア活動に關しても、新聞スクラップも初夏から始まり、次第に参加者も増えております。ふれあい体験室や体験教室のサポート、移動展ワークショップや発送業務、資料整理、修復作業など多方面からの協力ご支援ありがとうございました。

### ☆体験教室「ムーニー」を作ろうを開催します♪

1月9日(日)に実習室と民家を併用して、講師に松本嘉代子氏を迎え、新館になって初めての飲食関係の体験教室を開催することになりました。当日のサポートができる方と、前日の8日(土)から、月曜の預かりや寒いなど準備に携わることの出来る方を募集中です。親子20組×20個で、約400枚以上の葉っぱが必要になりますので、月曜の葉の提供も併せて募集中です。

ボランティア室にて受付中です。ご協力可能な方は、お名前前記入をお願いします。  
【前日準備】・・・PM14:00～PM16:00  
【当日支援】・・・AM 9:00～PM13:00  
※エプロン 三角巾 持参で。

教養普及の川平です。12月22日の日付をもって文化の社を退職することになりました。今思うのは本当に楽しい1年を過ごせたなということです。目蓮に向かつて頑張ります。有難うございました。(川平)

※歴史勉強会 1/8(土) 10:00～	ボランティアガイドマニユアル作成 (終了後新年会)
※民俗勉強会 1/15(土) 10:00～	ボランティアガイドマニユアル作成 (終了後新年会)
※自然勉強会 1/22(土) 13:00～15:00	仲里学芸員による解説会
※美工勉強会 1/29(土) 14:00～18:00	シンポジウムに参加

※ \*ボランティアの皆様、いつもありがとうございます \*

発行日：2011年1月26日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722  
 博物館教育普及より  
 1/9 (日) に開催された体験学習教室「ムーチーを作ろう」!!

親子 20 組、総勢約 50 名の方がムーチー作りに参加され大盛況のうちに終了しました。特にボランティアの方々の支援協力には、感謝と共に驚きをかくせません。

- ・ムーチーの選(月給)が、11 名の方より 1,000 枚の提供。
  - ・曜日準備(薬染みや材料の取分けなど)に総勢 13 名で、のべ 3 時間の作業。
  - ・当日の支援(サポートや振る舞い制作、蒸し餅管理...)に 13 名の協力。
- この体験教室は、ボランティアの皆様のご協力無しでは成り立たないものでした。新館になって初めての食糧に関する体験学習教室でしたが、諸条件を乗り越え、ボランティアの皆様のご協力で成功することができました。

**“今、沖縄の子ども達を取りまく食文化が危ない。**  
**沖縄の伝統行事料理を通して、子ども達に食育を!”**

講師の松本嘉代子先生は、県立博物館での「ムーチー作り」を行う意義を強くおっしゃっています。各曜日の世話係さんが区画記録を持っていると思います。曜日班会議の日などでご覧になって下さい。

- ★平成 23 年度ボランティア活動を計画中です！
- これまでお知らせするように、平成 23 年度は 5 期生の募集を休止して、これまで登録されたボランティアの皆様の実質向上をめざした研修を行います。現在ボランティア向けの研修会や勉強会を計画中です。誰でも気軽に参加できる形態を考えています。新年度の内容にご期待下さい。
- ・市民具体練習習習—3月8日(火)にありま〜す！
  - ・内間小学校 4 年生の民具体験学習が、3月8日(火)に行われます。12 月で終了と思ったのですが、先生強い希望で受け入れていました。
  - ・重点雇用の 3 名(浦底、興庭、佐藤)は 3 月 11 日までの契約となっていますので、彼らにとって最後の大事な仕事になります。4 クラスの団体になりますので、20 名以上のボランティアの皆様のご協力が必要となります。ご理解とご協力をお願いいたします。

文化の杜から  
 寒い日が続いておりましたが、新しい年を皆様いかがお過ごしでしょうか。博物館・美術館は元旦から開館し、皆様のご協力のおかげもあり、「新春の舞」をはじめとする行事も滞りなく行うことができました。ありがとうございました。

先日から、3 階の展示室では那覇市造形博物館との共催で「琉球陶器の来た道」展を、美術館では白い背景の抽象画で知られる「安谷屋正義」展を開催中です。外部と連携や作品に対する解説パネルの設置など、それぞれ新たな試みが見られる展示です。ぜひ、新しい年を機に、新たな分野に興味を広げてみてはいかがでしょうか。思ってもみなかったような発見があるかもしれません。

さて、「もう、そんな時期？」と思われるかもしれませんが、今私たちは、来年度の行事案内の作成のため、外部講師の選出や日程の調整を行っています。ボランティアをされていることを誇らしく思っただけのような博物館づくりをしていきたいと思っています。本年もどうぞご指導ご協力をお願い申し上げます。(中村)

- ※ 民俗勉強会 2/5 (土) 10:00~12:00 バックヤード見学 (ボランティア室)
- ※ 自然勉強会 2/11 (金) 10:00~12:00 仲里学芸員による解説会 (ボランティア室)
- ※ 歴史勉強会 2/12 (土) 10:00~12:00 ガイドマニュアル作成 (3 階研修室)
- ※ 美工勉強会 2/19 (土) 11:00~ 平川学芸員による解説会 (3 階展示室)

発行日：2011年2月22日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722  
 博物館教育普及より

★平成 23 年度ボランティア活動について！  
 2 月のボランティア連絡会(2/15(火)開催)において、次年度のボランティア活動の計画案の説明を行いました。

- 4 月からのボランティア活動の特徴は
    - ・ 5 期生の募集をお休みし、現在登録している方の研修を充実させる。
    - ・ これまでの一斉型の講座(養成講座や専門講座)の代わりに、学芸員からの教室形式の勉強会を開催する。
    - ・ 自分の得意分野(できる種類)での、積極的に自主的な活動をお願いします。
- これら活動を実施していくとともに、今後の、【自主的で楽しい博物館ボランティア活動】のために、博物館より皆さんへのお願いがあります。

「楽しいボランティア活動」のために、ボランティア自身の力で、博物館ボランティアを盛り上げていくことをめざしていきませんか！



曜日班会議の中で、館からのお便り(班会議の中で配布)に列す意見交換をお願いしたいと思います。

お知らせ  
 ■ 開館ボランティア全体会を開催します  
 日時：3月18日(金)午後5時30分より 博物館講義室にて  
 内容：4 月からのボランティア活動についての説明  
 ・平成 23 年度 ボランティア登録申請書一用紙の配布

文化の杜から  
 とてもうれしいことがあふれたい体験室でありました。開館当初からよき遊びに来てくれた女の子。ある日、広島県へ引越しになりました。彼女は引越しの朝、お母さんにお便りをして博物館にさよならの電話をくれました。とても寂しかったけど広島でたくさんお友達ができるように応援しました。先日、彼女がお母さんと博物館へ遊びに来てくれました。すこしお姉さんなっていたけど、体験キットの二とをよんでくれて、なかでもお気に入りの No.27 国々のおおつきあひ「万国津梁ゲーム」という近世地球の交響をもとにした双六を何度もしました。久しぶりの再会、とても楽しかったです。

この度、ふれあい体験室で 2009 年 4 月から勤務された西里善一さんが一身上の都合で退職されたことをお知らせします。3 月から新しいスタッフを迎える予定ですので、ご指導よろしく願います。(渡部)

- ※ 民俗勉強会 3/5(土) 糸満海人工房船模型・ボランティア室集合午前 9 時 糸満へ参加費：500 円 講師：上原 謙 氏(糸満海人工房船長)

「海のワザ」に展示されているサブミニ、漁具についてより詳しく理解するため  
 \* 詳細はボランティア室のチラシ参照

- ※ 歴史勉強会 3/12(土)10:00~12:00 ガイドマニュアル作成 (3 階研修室)
- ※ 美工勉強会 3/19(土)10:00~12:00 ガイドマニュアル作成について(ボランティア室)
- ※ 自然勉強会 未定 (担当者にご確認ください。)

発行日：2011年3月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722 No.1

ボランティアの皆さま、半年間という短い間でしたがお世話になりました。博物館業務に携わり、皆さまの博物館支援や子ども達への支援は、本当に濃い事だと感じておりました。

速くからボランティア活動に参加される方、毎日お仕事のように活動される方、年齢を重ねても元気のエネルギーを発信されている方...そして、同僚の先輩方の厚くとっぴに心なりました。

お一人、お一人の「博物館が好き」その気持ちが今後も拡大する事を願っております！

有り難うございました  
潮底正美



私にとって県立博物館での半年間の勤務は、新鮮で学びの多いあつという間の出来事でした。その中でも民具体験学習を通して、人生経験豊富なボランティアの方々との交流をもちました。今後の私に必要な知見を身につけることができ、半年間本当にありがとうございました。

奥田 真博

昨年9月から今年3月まで、「沖縄県立博物館・美術館教育向上支援事業」という名の3名の方々が博物館の教育普及事業に関わり、そのうち、心理学専門の潮底さんを始め、教員を目指す奥田さんの2人がボランティアの管轄と協力して学校対応プログラムに携わり、そこで得られた傾向と対策をレポートにまとめました。また、特別支援学校へ出前授業にも訪れ、先生方や生徒達からのフィードバックを基に、来館の難しい子どもたちのための特出しキットの制作にも携わり、キットの構想を形にする為に最終日まで走り回っていました。潮底さんと奥田さんは、初めて携わる業務を協力してこなし、様々な形で残してくれました。

昆虫大好を海井の元学芸員佐藤さんは、中村さん、渡辺さんと一緒にふれあい体験教室のリーフレットの構想や、潮底さん、奥田さんと実習準備室の整備をしたり、普及資料のデータ整理に携わっていました。

現在、3名が携わっていた成果物を形にするべく、文化の社の平良さんや渡辺さん、中村さんが業者と調整中です。今後の経過は、少しずつお伝えしていければと思います。(博物館教育普及)

まずは半年間ありがとうございました。皆さんが博物館での活動にやりがいを見出してくださっていることが、とてもありがたかったです。私は後半はたまにしか皆さんと活動できなかつたのですが、特に民具体験で皆さんが運営に慣れていく様子を見たり、どのような意図を持っていらっしゃるのかなど、目の当たりにさせていただき、自分としても勉強になりました。どこかでお会いできた際はぜひお話し掛けたいと思います。

佐藤友香

沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティアの登録に関して

18日にボランティア全体会を持ちました。その際に、「博物館ボランティア登録申請書」もお配りいたしました。

提出方法は、3/29(火)です。

欠席された方は、池原まで受取りにいらしてください。

博物館学芸員室：098-851-5401 (内線253)

裏面もあります。

発行日：2011年3月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722 No.2

文化の社から

今月からふれあい体験室スタッフに安藤名 健吾 (あげな けんご) さんが加わりました。琉球大学3年生、琉球民俗学を専攻されていて、カポエイラのサークルに所属されているそうです。是非、今後披露してもらいたいものですね。ご指導よろしくお願ひします。(渡部)

はじめまして。3月1日より文化の社共同体の教育普及班に仲間入りをしました大遠萌子です。これまで、奈良県明日香村の原立万葉文化館で働いておりました。私は、那覇市首里出身で先祖は八重山の正真正銘の沖縄人(うちなんちゅ)です。趣味は、街並み散策と色鮮やかな草花の写真を撮ることです。よく「離れて気付く故郷の良さ」と言われますが、私も最近カメラライアを通して、そのことを実感しております。これからはボランティアの方々と交流を深めて沖縄のこと、博物館・美術館のことについて沢山学んでまいりたいと思っております。皆様には、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが一生懸命頑張りますのでご指導宜しくお願い致します。(大遠)

民俗勉強会の報告

3月の民俗の勉強会は、糸満海人工房資料館に出向き、理事長の上原さんから「海のワザ」に関わる多くの話を聞くことができました。特に、ミーカガン(水中メガネ)を最初はイモで作ったとか、完成するまでこのことを実物を見せながら説明してもらいました。民俗展示室の展示物を理解するのにとても有意義な見学会でした。

4月の勉強会

- ※ 民俗勉強会 4/2(土) 10:00~12:00 (ボランティア室)  
平成29年度世話人の選出及び上期の勉強会メニュー等について。  
\*メンバー全員の参加を是非お願いします。
- ※ 歴史勉強会 4/9(土) 10:00~12:00 ガイドマニュアル作成(3階研修室)
- ※ 美工勉強会 未定(担当者にご確認ください)
- ※ 自然勉強会 未定(担当者にご確認ください)



## XI その他

### 1 移動展

名称 : 第3回 沖縄県立博物館・美術館 移動展  
会期 : 平成22年10月29日(金)～31日(日)  
開催地 : 沖縄県石垣市 石垣市民会館(中ホール、展示ホール)  
主催 : 沖縄県立博物館・美術館 石垣市、石垣市教育委員会、文化の杜共同企業体  
特別協力 : 株式会社八重山毎日新聞  
協力 : 八重山港運株式会社、株式会社八重山日報社、新生美術協会  
協賛 : 琉球海運株式会社



#### (1) 趣旨

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。

#### (2) 展示会

会場:博物館班・・・中ホール  
美術館班・・・展示ホール  
会期:平成22年10月29日(金)～31日(日) 午前9時～午後5時  
(金曜日は10時から)  
対象:一般  
観覧料:無料

#### (3) 展示内容

- ② 「世界の化石と輝く石」 恐竜の骨格標本、岩石
- ③ 「沖縄の自然、歴史、文化」 沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
- ④ 「人類の誕生と進化の歩み」、「琉球王国の繁栄」のDVD放映 \*博物館制作DVD
- ⑤ 「名渡山愛順の作品」 絵画

関連イベント:

- ①キッズキュレーター(小学生が学芸員になる)
- ②キュレータートーク(学芸員による展示解説)
- ③スチロール凧作り(学芸員の指導による工作教室。<JAXA 宇宙教育センター協力> ボランティア(友の会からのキャラバン隊)のサポートあり)



テープカットの様子



観覧者の行列



名渡山愛順の絵の前で(キュレータートーク)



会場の様子



関連催事(凧づくり)



会場の様子

## 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

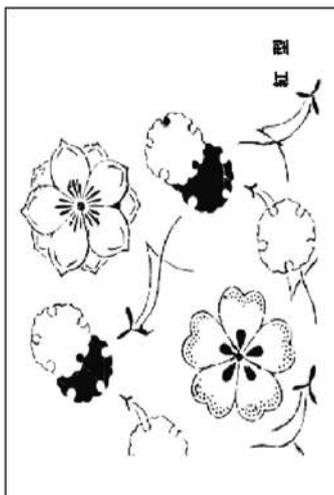
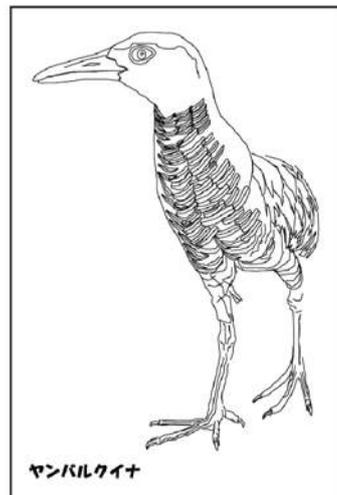
沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の作成を小・中学校へ依頼している。

「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印している（サンプル：博物館・美術館作成）。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマスマタがあり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっている。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

今年度から新たな試みとし、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。

### 【表面】



### 【裏面】

#### 小学生用

沖縄県立博物館・美術館フリーパス				
1年 2年 3年 4年 5年 6年				
氏名		学校名		校長印
スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

#### 中学生用

沖縄県立博物館・美術館フリーパス				
1年 2年 3年				
氏名		学校名		校長印
スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

## 「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」実施要項

### 1 目 的

- (1) 沖縄県立博物館・美術館について、県内の小中学生が知る機会とする。
- (2) フリーパスを自ら作成することで、同館を身近に感じてもらう。
- (3) 県内の小中学生は、開館時より無料入館となるが、県内と県外の児童生徒をパスの提示により確認することができる。

### 2 内 容

沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄を基本とし、以下の仕様に合わせて、沖縄県立博物館・美術館をイメージする表紙のパスを作成する。

### 3 作成方法

- (1) パスのサイズは8 cm×12 cmを基本とし、画用紙等の厚紙を使用する。
- (2) 表紙に使う図柄は、自らデザインした形を表現するか、もしくは、別添サンプルの図柄を用いて、内部の彩色を工夫したものとする。
- (3) 裏面には、別添サンプルの様式のとおり、来館時押印用のマス目を作成すること。
- (4) サンプル図柄やマス目はコピーして使ってもかまいません。
- (5) パスの裏面には学校長の公印を捺印して下さい。

### 4 対 象

沖縄県内の小中学校の児童生徒

### 5 実施方法

- (1) 県教育庁文化施設建設室より義務教育課・文化課の協力を得て、県教育長から県内小中学校へ「フリーパス」の実施を知らせ、協力を依頼する。
- (2) 11月以降に来館した際に、博物館・美術館の受付案内にて、持参したパスに押印する。遠隔地や離島地域の児童生徒については、押印の数を調整の上、配慮する。
- (3) パスはすべて(30回)使い切った児童生徒に対しては、褒賞を準備する。
- (4) パスをすべて使い切った場合は、上記の要領で新たにパスを作成する。

## 3 職場体験

博物館では、平成15年度から、学校の計画する就業体験学習を受け入れている。(平成18・19年度は新館移転準備のため、休止)。

今年度からは、文化の杜が問い合わせと対応の窓口となり、指定管理者が担う総合案内や展示交流員など、主に来館者サービスに従事する業務を体験した。

### 体験内容

総合案内・展示交流員・もぎり・情報センター・ふれあい体験室・ミュージアムショップ・清掃班・警備班

### 受け入れ校

10校49名(小学校2校、中学校7校、高等学校1校)

①石田中学校(4名)6月30日～7月2日(3日間)

- ②上山中学校(5名)6月30日～7月2日(3日間)
- ③首里中学校(4名)7月5日～7日(3日間)
- ④仲西中学校(3名)7月7日～9日(3日間)
- ⑤浦添工業高等学校(10名)7月7日～9日(3日間)
- ⑥鏡原中学校(3名)9月7日～9日(3日間)
- ⑦大里中学校(5名)11月10日～12日(3日間)
- ⑧識名小学校(10名)11月30日(1日間) ※1
- ⑨仲西小学校(3名)8月31日(1日間)
- ⑩松島中学校(2名)1月26日～27日(2日間)

※1 沖縄県キャリアセンタージョブシャドウイング事業の受け入れを行った。「ジョブシャドウイング」は米国で定着している職業教育の一つであり、中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事を観察する、というものである。今回は、10名の児童が、それぞれ博物館、美術館、文化の杜の職員に割り振られ、来館者対応や会議の場に同席した。

#### 4 ボランティアによる展示ガイドマニュアル作成



2010.7.10 タイムス掲載 ボランティア(民俗勉強会)によるガイドマニュアルの作成。これ以降も改編が進み、より充実した内容になっている。



2010.4 ボランティア募集の呼びかけ

## 5 教育普及資料貸出

博物館の教育普及資料を貸出している。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等で、教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援している。資料の詳細については、お問い合わせください。

民具に関しては、今年度も昨年度に引き続き、主に民具体験プログラムを申込した学校団体に対して、当館にてボランティアのサポートによるプログラム実施の中で使用。また、名護の桜野特別支援学校や鏡が丘特別支援学校浦添分校への学校出前講座でもキットの一部として使用した。当館内外、様々な場面での活用が可能な資料である。

普及資料の貸出には、「資料利用申請書（教育普及資料の借用）」を提出していただいた後、「資料利用許可書（教育普及資料等の貸出）」を発行するまでの手続き等があるため、貸出希望日から一ヶ月前には申請していただくようご協力よろしくお願いいたします。（資料借用、返却の際の資料の運搬は、借主の責任となります。）

### 【今年度の外部への貸出】

団体名 : デイサービス ViVi まわし

行事名 : 昔懐かし豆腐作り（回想法：眠っていた記憶を呼び覚ます）

貸出期間：平成 23 年 2 月 8 日（火）～2 月 14 日（月）

貸出資料：石臼、アジマー、トーフウーキ、豆腐箱、シンメーナービ、カマンタ、その他



## 6 博物館教育力向上支援業務

9月から3月までの期間、国の緊急雇用創出事業特例交付金を財源とした緊急雇用者3名を採用することができた。雇用者に対し、1) 体験学習の補助 2) 学校出前講座の補助 3) 教育普及資料の作成の業務を委託した。

### 1) 体験学習の補助

毎年9月頃より12月にかけて、近隣の小学校から民具体験学習のため4年生が数多く来館する。これまで、ボランティアや博物館側のリードでこの体験学習を進めていたが、今年度の民具体験学習では、平成21年度に行われていたプログラムに一部変更を加え、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し学習プログラムを組立てることができるようにした。

学習プログラムの変更にともない、緊急雇用者をボランティア員の指導支援者に当てた。特に体験学習当日のボランティア員全体の動きを見ることができる位置に配置し、学習プログラムに対し、きめ細やかな対応をした。



直前のボランティアミーティング



ボランティアに対し注意点を確認



屋外での体験学習のタイムキーパー

### 2) 学校出前講座補助（実施調査）

博物館には多くの学校団体が来館し、博物館を利用した各種学習を行っている。その中で、特別支援学校も数校来校し楽しく参観をしている。しかし、特別支援学校の多くが、時間や距離の問題、さらには子どもの安全管理上来館を見合わせているという現実もある。博物館としては、より多く子ども達に来館してもらい、沖縄の自然・文化・歴史について感じ、学ぶ場になればと考える。そこで今回、支援を要する子ども達（諸事情で来館が不可能な子）に対し、博物館より体験キットを持ち出し、子ども達に博物館学習の機会を与える“博物館出前講座”を計画当中である。

今年度は、博物館展示室の一つであるふれあい体験室の既存の体験キットを利用し、“博物館学校出前講座”の学習の有効性を検証することとした。緊急雇用者を学校現場に派遣し、検証授業をとおした先生方の意見収集を行うとともに、“博物館学校出前講座”用の体験キットの製作準備まで対応した。



先生への体験キットの説明

(桜野特別支援学校)



検証授業の様子(民具体験)

(桜野特別支援学校)



検証授業の様子(臭覚に関する体験)

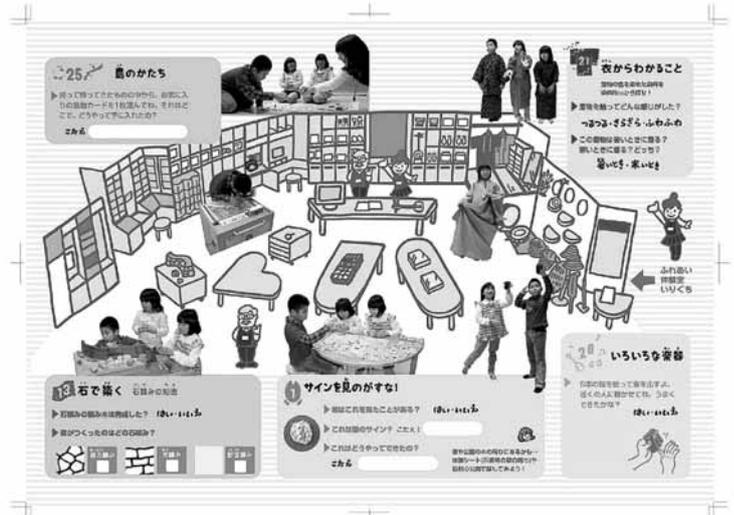
(鏡ヶ丘特別支援学校浦添分校)

### 3) 教育普及資料の作成

緊急雇用者を中心に、ふれあい体験室スタッフやデザイナーとともに意見交換しながら、「ふれたいシート」というふれあい体験室独自の利用の手引きを作成した。ふれあい体験室は無料スペースに位置するため、展示室以上に数多くの来館者が訪れる。より有意義にふれあい体験室を活用してもらうためのリーフレット作りが、開館当初からの課題であったが、当館の来館者状況や他館の事例をもとに、利用者だけではなく、ふれあい体験室に関心を持つ博物館関係者にも対応できる内容のリーフレットが完成した。



制作ミーティングの様子



完成した「ふれたいシート」

平成22年度  
博物館教育普及活動  
2011(平成23)年3月

---

発 行	沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 Tel (098) 941-8200 (代表) Fax (098) 941-2392
編 集	沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体
印 刷	企画印刷 ハーツ 〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川3-13-8 Tel (098) 835-3752 Fax (098) 835-3754